

【科目名】	ムセイオン静岡－舞台芸術 A	Mouseion-ExpressionCommunication and Cultures A
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 水曜 4 限
【科目責任者】	立田洋司(たつた ようじ)	
【担当教員】	立田洋司・古川はるな(特別講師)	
【授業目標】	◇この科目は「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学とは異なる。 ※日本の大学生の教養度が下がったのは、東京大学の教養部解体が起点となって各大学の「一般教養課程」が廃止された(そのことで受験科目数も減った)ことが要因だと言われている。国としても、有識者の批判などを受け、その立て直し対策が急がれている。その旗印が「リベラル・アーツ教育」の再生。 ◇本学のムセイオン関連科目は、その一環を担うものである。 ◇◇大学教育における「リベラル・アーツ必要論」を主張する有識者は、たとえば、いわゆる「カロリング・ルネッサンス」における『自由七科 Seven liberal arts』がそうであったように、「音楽の絶対的必要性」を説く。ここでは詳しく述べる紙面は無いが、音楽は人文学にも物理学にも自然科学にも通じる。そしてたとえば、この音楽に絡むカルチャーを観じる(感じる)ことが、豊かな人間性を育成することに繋がるであろう。 ◇演劇ふうと言えば、この科目は、「阿吽の呼吸や間(ま)、無音(しじま)や気配などを観察する(感じ取る)ことを通して、諸君自身の感性を磨くことを目指す」とでも言えようか。	
【授業概要】	◇学内では、主に小講堂の音響設備を利用して、ミュージカル、オペラ、バレエや管弦楽の歴史的な演奏などを含む舞台芸術を解説・鑑賞。 ◇古川はるな氏＝世界的フルート奏者であり音楽博士(東京藝術大学)による特別講義と生演奏。 ※古川氏の考えでは、舞台の上での行為が芸術として成り立つためには、行われる機会(「時」)、舞台となる空間(「場」)、そして「観客」という見るものの存在が不可欠である、という。舞台芸術は、古くは、見るものが存在しない宗教的・儀式的・祝祭的な時と場のなかから誕生し発展してきた。氏による特別講義では、見るものが存在しない時代・存在する時代のそれぞれの「時」と「場」を、日本や世界各地の舞台経験をもとに紐解いていただく予定。 ◇学外では、条件がそろえば SPAC(静岡舞台芸術センター:宮城聡芸術総監督)の公演の鑑賞も考えている。	
【授業方法】	◇小講堂のでの舞台芸術鑑賞。とくに LD(レーザー・ディスク)による歴史的な名演を取り上げる。LD は、20 年以上前に生産されなくなった(重くて大きく、価格も非常に高いので普及しなかった)ため諸君には馴染みが無いだろうが、その特徴は CD より音質が良いこと！ スピーカーは、映画時代のアメリカで開発された「Altec・The Voice of Theater」。それらの音響設備を利用して、歴史的な名演などの舞台芸術を鑑賞。 ◇特別講師ー古川はるな氏による講義とフルートなどの生演奏(2 回) ◇SPAC の公演を観劇(未定) ◇その他、時間が許せば、舞台芸術や映画に関する逸話など。	
【授業展開】	◇オリエンテーション ◇歴史的な名作・名演の鑑賞 バレエ(例:『ロミオとジュリエット』、『ジゼル』などから選択) ミュージカル(例:『ウエストサイド物語』) 映画・オペラ(例:シェイクスピアの(四)大悲劇、『マクベス』、『オテロ』などから選択) 管弦楽・オーケストラ(歴史的な名演奏から選択) (※以上、主に立田洋司のコレクションより、時間等を勘案して構成。) ◇古川はるな氏による特別講義(生演奏を含む) *ヨーロッパ音楽の「時」と「場」について、以下の内容から 2 回分を抜粋構成; ・オリエント・ギリシア・エトルリア(古代イタリア)などの祭儀と楽器。古代ギリシア劇とその空間。 ・「音楽の祖」であるピタゴラスは宇宙の秩序を音楽から考察した。その「ムジカ・ムンダーナ」とは? ・アカペラの誕生と教会音楽の変遷(教会建築との関連) ・ヨーロッパ社交界(仮面舞踏会など)と演奏会場 ◇SPAC(宮城聡演出)の公演を観劇(未定) ◇その他、時間があれば、演劇の歴史・文化などについてのプレゼンテーション	
【履修条件】	なし。可能な限り A,B の両方を履修してもらいたい。	

【評価方法】	試験(またはレポート)と授業への取り組み状況、出席状況による。				
【テキスト】	書物などのテキストは使わない。必要に応じて独自に作成した資料を提供する。				
【参考書】	とくに無し。必要に応じて講義中で紹介。				
【備考】	◇SPAC(静岡舞台芸術センター)公演を観劇する場合は、自己負担(学生特別料金;2000 円程度)となる。その場合は、土・日の半日を費やすことが多いので、基本的に講義 2 回分の振替えとなる。履修に際してあらかじめ念頭に入れておくこと。				
【社会人聴講生】	聴講可。 ◇この科目の性格上(いわゆる「座学」だけではない)、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じる。	【科目等履修生】	原則聴講可。 ◇ただし、この科目の性格上、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じるので、予め認識しておくこと。	【交換留学生】	原則聴講可。 ◇この科目の性格上、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、あらかじめ了承してもらいたい。また、状況によっては、大学の方針に従わなければならないことも生じるので、予め認識しておくこと。

【科目名】	ムセイオン静岡－舞台芸術 B	Mouseion-Expression,Communication and Cultures B
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 水曜 4 限
【科目責任者】	立田洋司	
【担当教員】	立田洋司 ※特別講師；古川はるな＝静岡出身のフルーティスト・音楽学博士、2019 年イタリアにおけるイブラ国際コンクール第 1 位（優勝）	
【授業目標】	◇この科目は「しずおか学」に分類されているが、単なる地域学や郷土史学とは異なる。 ※日本の大学生の教養度が下がったのは、東京大学の教養部解体が起点となって各大学の「一般教養課程」が廃止された（そのことで受験科目数も減った）ことが要因だと言われている。国としても、有識者の批判などを受け、その立て直し対策が急がれている。その旗印が「リベラル・アーツ教育」の再生。 ◇本学のムセイオン関連科目は、その一環を担うものである。 ◇大学教育における「リベラル・アーツ必要論」を主張する有識者は、たとえば、いわゆる「カロリング・ルネッサンス」における『自由七科 Seven liberal arts』がそうであったように、「音楽の絶対的必要性」を説く。ここでは詳しく述べる紙面は無いが、音楽は人文学にも物理学にも自然科学にも通じる。そしてたとえば、この音楽に絡むカルチャーを観じる（感じる）ことが、豊かな人間性を育成することに繋がるであろう。 ◇演劇ふうと言えば、この科目は、「阿吽の呼吸や間(ま)、無音(しじま)や気配などを観察する(感じ取る)ことを通して、諸君自身の感性を磨くことを目指す」とでも言えようか。	
【授業概要】	◇学内では、主に小講堂の音響設備を利用して、ミュージカルやオペラ、バレエ、管弦楽の歴史的な演奏などを含む舞台芸術を鑑賞・解説。 ◇イタリアでの国際音楽コンクールで優勝し、副賞として世界演奏旅行とカーネギー・ホールでの演奏を果たしたフルーティストの古川はるな氏による特別講演と生演奏を予定（2 回）。 ※本年はとくに、演奏家であり音楽博士でもある古川氏が体験されてきた中国の音楽家とのコラボによる「奈良・天平の音楽」や大陸（中国）との関係などについても語っていただく予定。 ◇学外では、条件がそろえば SPAC の公演の鑑賞も考えている。	
【授業方法】	◇小講堂での舞台芸術鑑賞；とくに LD（レーザー・ディスク）による歴史的な名演を取り上げる。LD は、20 年以上前に生産されなくなった（重くて大きく、価格も非常に高いので普及しなかった）ため、諸君には馴染みが薄いだろうが、その特徴は CD より音が良い非圧縮音源！ スピーカーは、映画時代のアメリカで開発された Altec 社の『The Voice of Theater』。それらの音響設備により、歴史に残る名作・名演などを鑑賞。 ◇世界的フルーティストで音楽学博士の古川はるな氏（前項で紹介）による特別講演・生演奏。 ◇その他、時間が許せば、舞台芸術や映画に関する逸話など。	
【授業展開】	◇オリエンテーション ◇歴史的な名作・名演の鑑賞 バレエ（例：『眠りの森の美女』『白鳥の湖』などから選択） 映画・オペラ（例：『タンホイザー』『マクベス』などから選択） 管弦楽（歴史的な演奏；ベートーヴェンやマーラーのシンフォニーなどから） （※以上、主に立田洋司のコレクションより） ◇古川はるな氏による特別講演（生演奏をふくむ 2 回） * 日本と中国（シルクロード）の舞台芸術の時と場について、以下のような内容を抜粋構成； ・農耕暦と神事・祭事との音楽との関連（ハレとケの概念など） ・「舞楽法会（ぶがくほうえ）」を知っていますか？ 当時の世界でおそらく最高＝伎楽・舞楽の演劇性 ・仏教（とくに密教）の身体修養と声明（しょうみょう）を感得できれば！ ・舞楽・能の舞台と人体の動き（寸法や身体感、所作との有機的関連など） ・共同体感覚の形成・通過儀礼の機能を持つ舞台：森町天宮神社十二段舞楽の体験をもとに ◇時間が許せば、演劇の歴史・文化などについてのプレゼンテーションも。	

【履修条件】	なし。できる限り A,B の両方を履修してもらいたい。				
【評価方法】	試験(またはレポート)と授業への取り組み状況、出席状況による。				
【テキスト】	とくに無し。必要に応じてオリジナル資料を配布する。				
【参考書】	必要があれば講義中に示唆。				
【備考】	◇SPAC(静岡舞台芸術センター)公演を観劇する場合は、自己負担(学生特別料金;2000 円程度)となる。その場合は、土・日の半日を費やすことが多いので、基本的に講義 2 回分の振替えとなる。履修に際してあらかじめ念頭に入れておくこと。				
【社会人聴講生】	聴講可。 ※この科目の性格上、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定される。 また状況により、大学の方針(コロナ対応など)に従うこともある。	【科目等履修生】	聴講可。 ※この科目の性格上、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定される。 また状況により、大学の方針(コロナ対応など)に従うこともある。	【交換留学生】	聴講可。 ※この科目の性格上、土・日・祝日などへの振り替えや、変則的な内容・時間割になることが想定されるので、予め認識しておくこと。

【科目名】	静岡の市民活動	Civic Activities in Shizuoka			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	*木村綾				
【担当教員】	*東野定律、*木村 綾、谷 晃、高畑 幸				
【授業目標】	静岡県内の NPO 等の市民社会組織の活動を理解し、それらへの参画の動機付けとする。				
【授業概要】	各回扱う対象は「授業展開」の通りとする。				
【授業方法】	各回、前半は講義形式で進め、後半は受講生による質疑・討論を重視する。				
【授業展開】	1. はじめに、市民社会組織の役割と位置づけ(東野、木村) 2. 福祉問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 3. 環境問題の解決を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 4. 多文化共生を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 5. 男女共同参画を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。 6. 市民社会組織を支援する民間の組織について、その現状と課題を学習する。 7. 地域課題の解決やまちづくり活動を目的として活動する団体について、その現状と課題を学習する。				
【履修条件】					
【評価方法】	授業への取り組み及びミニレポートで評価する。				
【テキスト】	なし				
【参考書】	別途、適宜各講師が配布する。				
【備考】	授業計画の詳細は最初の授業の際に知らせる。 受講者数は 50 名まで、先着順とする。 *行政経験、市民活動組織で活動する幹部クラスのスタッフがその実務経験を活かし、学生により現実に即し、理解しやすい講義を行う。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生聴講可	【科目等履修生】	科目等履修生履修可	【交換留学生】	

【科目名】	歴史からみるしずおか学		歴史からみるしずおか学		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	上野雄史				
【担当教員】	上野雄史・村橋 勲				
【授業目標】	本授業は、歴史的観点から「静岡」について学びます。歴史的な事実は客観的に分かるものあれば、主観的に推察されているところもあります。この授業は2つの目標があります。1つ目は歴史的な考え方、捉え方を各講義を通じて身に付けることを目標とします。2 つ目は、静岡の歴史を学ぶことを通じて、地域の課題解決能力に繋がる基礎的な力(知識・論理的思考能力)を身に付けることを目標にします。				
【授業概要】	この授業では、静岡の歴史を中心に学びます。歴史を知るといことは、過去を知ることであり、それが現在の我々の立場や将来への道筋を理解し、人生を豊かにする手助けとなります。歴史を学ぶ際には、教室内だけでの講義を超えて、実際の場所に出向き、体験し、探究することが必要です。授業は、本学の教員、静岡市、静岡県、地域の企業、民俗学、郷土史の研究者などのオムニバス講義と、実際のフィールドワークを組み合わせで行います。講義を通じて、受講生は地域の課題解決能力を向上させる基本的なスキル(知識・論理的思考能力)を養います。				
【授業方法】	各講師による講義(必要に応じてディスカッション形式)により行います。以下、補足です。 ①各担当者によって、パワーポイント、配布資料を使用します。必要に応じてビデオを使用します。 ②オムニバス講義なので、毎回の講義のポイントを十分におさえる必要があります。 ③講義内容に関する質問、コメント、ディスカッション内容を発表、提出してもらいます。				
【授業展開】	4 月 16 日 ① ガイダンス／全地球史からみたしずおか(ふじのくに地球環境史ミュージアム:中西利典) 4 月 23 日 ② ジオパークガイドからみた伊豆の魅力(佐野勇人:伊豆ジオパークガイド、有限会社長香・御宿しんしま) 5 月 7 日 ③ 南アルプスの麓の集落、井川で民具の調査(講師:外立先生) 5 月 14 日 ④ 源頼朝と富士野の巻狩り(講師:二本松 康宏(静岡文化芸術大学)) 5 月 21 日 ⑤ 富士山信仰と静岡(講師:井上卓哉:静岡県富士山世界遺産センター) 5 月 28 日 ⑥ 荇山反射炉と江川英龍公 橋本 敬之(NPO 法人伊豆学研究会) 5 月 31 日(土)もしくは 6 月 1 日(日)にフィールドワーク調査を実施予定(授業の 3 回分を充当)*静岡市平和資料センターへの訪問、戦争遺跡を訪ねていく 6 月 4 日 ⑦ 小泉八雲と焼津(講師:那須野 絢子(常葉大学)) 6 月 11 日 ⑧ 水産業と静岡(講師:川口円子(静岡産業大学総合研究所)) 6 月 18 日 ⑨ 東海道と静岡(講師:静岡市歴史博物館 学芸課学芸員 増田垂矢乃) 6 月 25 日 ⑩ 草薙大龍勢(講師:草薙龍勢保存会) 7 月 2 日 ⑪ 白隠禅師と静岡(講師:勝野秀敏(龍津寺住職)) 7 月 9 日 ⑫ グループ討議・発表				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	毎回の授業で課すレポート(60 点)、フィールドワーク調査に基づく発表・レポート(20 点)、最終レポート(20 点)				
【テキスト】	授業前後に配布する。				
【参考書】	授業中に提示する。				
【備考】	フィールドワークは、5 月 31 日(土)もしくは 6 月 1 日(日)にフィールドワーク調査を実施予定(授業の 3 回分を充当) 受講生は基本的にこのフィールドワークへの参加を前提として科目を取得してください。3 回分のフィールドワークへの参加が困難な学生は、事情を考慮して対応を検討いたしますので、ueno@u-shizuoka-ken.ac.jp までご連絡ください。				
【社会人聴講生】	受入れ可	【科目等履修生】	受入れ可	【交換留学生】	受入れ可

【科目名】	新聞でもっと静岡を知ろう		Let's learn more about Shizuoka through newspapers !		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡新聞記者				
【授業目標】	今日、新聞を読む学生は少ない。そのような学生に、情報ツールの1つとして新聞を読む習慣を身につけ、現代社会に対する関心を深めてもらう。あわせて、静岡新聞の記者による講義を通じ、県内のみならず県外出身の学生にも静岡について興味関心を持ってもらい、地域社会に対する理解や問題意識を養うことを目的とする。				
【授業概要】	気軽に新聞に触れてもらいながら、SNS とは一味違う情報ツールとしての新聞の活用法を学んでもらう。				
【授業方法】	上記の目的を達成するため、毎回、講義の前半(30 分)は、当日の静岡新聞朝刊の記事をもとに、学部を超えた学生間の交流も兼ねて学生同士で自由にグループディスカッションをしてもらい、そこで出た意見を全員の前で発表してもらう。 後半(60 分)は、静岡新聞の記者が日頃追っている静岡や今日のホットな話題、社会的課題について多角的観点から考察し、質疑応答を通じ理解を深める。講義での学生からの積極的な質問を期待する。				
【授業展開】	1(4/10) ガイダンス・10 分間で新聞を読んでみよう(上原・読者プロモーション局) 2(4/17) しずおか発～デジタルメディア最新事情 : 新聞はデジタル化で何を指すのか(デジタル編集部) 3(4/24) 静岡3都物語～新聞記事で読み解く県民性 : 東部・中部・西部の県民性の違いは？(読者プロモーション局) 4(5/01) 静岡のジェンダーギャップ: 静岡の男女格差は？(生活報道部) 5(5/08) 届かぬ声・静岡の保育は今(社会部) 6(5/15) 静岡のアニメ文化を探る : 静岡県内のアニメの聖地をめぐる(文化生活部) 7(5/22) 最後の砦・袴田事件報告(社会部) 8(5/29) 昭和 100 年 静岡の記憶(教育文化部) 9(6/05) 検証・鈴木県政(政治部) 10(6/12) The・中小企業～静岡経済を支える : 中小企業の魅力を探る(経済部) 11(6/19) 報道カメラマンが見た静岡 : ファインダーが見た現場(写真部) 12(6/26) 「社説」～地方紙はこう考える : 地方の課題と向き合う(論説委員) 13(7/03) 静岡サッカーの未来 : Jリーグ各チームの課題(運動部) 14(7/17) 茶況記者の 24 時間 : 静岡の特産、お茶を追う(経済部) 15(7/24) ワークショップ拡大版(読者プロモーション局) * 講義内容および講義回の入れ替えの可能性がある。				
【履修条件】	講義への積極的な参加を通じ、静岡を知り、興味関心を高めようとする意欲があること。				
【評価方法】	毎回、講義やグループディスカッションの内容、さらには、読んだ記事に関してコメントを書いて提出してもらう。これをもとに総合的に評価する。				
【テキスト】	特になし。				
【参考書】	特になし。				
【備考】	* 現職の静岡新聞の記者によるオムニバス形式の講義である。 毎回の講義で使用する当日付の静岡新聞朝刊代金合計 300 円(教材価格・1 部 20 円×15 回分)を教材費として、講義の際に徴収する。				
【社会人聴講生】	可。	【科目等履修生】	可。	【交換留学生】	可。

【科目名】	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線		Forefront of business in Shizuokalearning from corporate managers		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	上原 克仁				
【担当教員】	上原 克仁、*静岡県内の企業経営者				
【授業目標】	静岡の経済や産業を支える企業とその魅力を知る。				
【授業概要】	皆さんは静岡県内の企業をどれだけ知っているだろうか。県内にはおよそ 20 万の事業所を抱え、全国4位の製造品出荷額を有する国内有数の工業地域で、産業のデパートとも称される。オートバイ、ピアノなどの輸出量では日本一を誇り、お茶や水産業など第一次産業も盛んである。東西の交通網や港湾を利用した6次産業化も進んでいる。本講義では、静岡の経済や産業を支え、経営革新や新製品・新技術開発、販路開拓等新たな成長分野に積極的に挑戦し、成功を収めている県内企業の経営者や現役社員に登壇頂き、経験に基づく講義を通じ、静岡県ならびに静岡の企業とその魅力を理解することを目指す。加えて、皆さんの就職やキャリアを考えるうえでの一助にしてみたい。多くの学生の受講を期待する。				
【授業方法】	企業の経営者や現役社員による講義および学生とのディスカッション。				
【授業展開】	下記は 2024 年度の実績である。2025 年度の登壇企業については9月頃公開する。 1(10/01) ガイダンス 本講義の概要説明 2(10/08) 須山建設株式会社 (須山雄造 社長) 3(10/15) さわやか株式会社 (富田 玲 社長) 4(10/22) 豊田肥料株式会社 (豊田大介 社長) 5(10/29) ミヤマ工業株式会社 (高崎尚紀 社長) 6(11/12) くふうハヤテベンチャーズ静岡 (池田省吾 球団社長) 7(11/19) 株式会社テクノサイト (中川泰典 専務) 8(11/26) 駿遠三菱自動車販売株式会社 (大畑勝慶 社長) 9(12/03) 株式会社サンロフト (松田敏孝 会長) 10(12/10) フジ物産株式会社 (山崎遼太郎 取締役) 11(12/17) 有限会社花のむらせ (村瀬将之 専務) 12(01/07) 鈴与株式会社 (佐藤義寛 人財採用部長) 13(01/14) 株式会社長倉製作所 (長倉裕輔 社長) 14(01/21) 株式会社結屋 (川村結里子 社長) 15(01/28) 株式会社堀内電機製作所 (杉田光徳 社長) 講師の都合で、講師が変更になったり講義日が変更になったりする場合がある。				
【履修条件】	特になし。毎回の講義への積極的な参加(講師への質問など)が求められる。内職は厳禁である。発見次第、退席を命じる。				
【評価方法】	各回のコメントシート(もしくは小レポート)と講義への参加状況。但し、受講者数等に応じ、変更する可能性がある。				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	なし。				
【備考】	* 毎回異なる静岡県内の企業経営者もしくは現役の管理職社員が、これまでの経験をもとに自社のビジネスとその魅力、展望について語るオムニバス形式の講義である。				
【社会人聴講生】	積極的に歓迎する。	【科目等履修生】	積極的に歓迎する。	【交換留学生】	可。

【科目名】	SDGs 概論	Introduction to Sustainable Development Goals	
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	金曜 1 限
【科目責任者】	近藤 啓*		
【担当教員】	近藤 啓、谷 晃、宮崎 晋生、孫 暁剛*、その他		
【授業目標】	持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)は、2015 年国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。“誰ひとり取り残さない No one will be left behind”をスローガンに、2030 年のあるべき社会の姿を求めて、個人、地域、国、国際レベルで対策を促すものである。SDGs の概念は社会に浸透しつつあり、高校では総合学習等で取り組み、企業は理念に SDGs の目標を掲げている。その中継点であり、最高学府の大学において、学生が SDGs に関する深い知識を身につけることは重要である。本講義では、SDGs の全体目標および 17 目標を理解し説明できる知識を身につけるとともに、広い視野から問題点を分析し、俯瞰的に解決策を立案できる思考法の習得を目標とする。		
【授業概要】	SDGs の目標ごと、それに関連する事象や研究内容を、その専門家である 5 学部の教員が解説する。		
【授業方法】	本講義はオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。教員によっては、オンデマンド講義とする場合がある。		
【授業展開】	第 1 回(4/11、対面) 担当:薬学部 近藤 啓*。ガイダンスで講義全体の流れや成績評価法について説明する。続いて、SDGs 目標の 12. つくる責任 つかう責任、に関して、静岡県内にも幾つか存在する製薬・メーカーでの医薬品の研究・開発過程を俯瞰し、有効性、安全性、利便性の観点から幾つかの事例を交えて、考察を加える。 第 2 回(4/25、対面) 担当:国際関係学部 湖中 真哉。17. パートナリーシップで目標を達成しよう、に関して、地球全体を俯瞰しながら、SDGs とそれが形成されてきた過程やその考え方の基盤を学ぶ。 第 3 回(5/2、対面) 担当:国際関係学部 飯野 光浩。1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、に関して、貧困削減と経済成長(Goal 8)との関係、食糧供給と食糧需要と飢餓の関係を経済学、特に開発経済学の観点から講義する。 第 4 回(5/9、対面) 担当:看護学部 前野 真由美*。3. すべての人に健康と福祉を、に関して、静岡県に暮らす外国人の健康に関わる中で得られた知見を用いて、説明する。 第 5 回(5/16、対面) 担当:食品栄養科学部 角替 弘規*。4. 質の高い教育をみんなに、に関して、教育を巡る世界と日本の状況を概観したうえで、日本における移民の子どもに対する教育について事例を交えながら説明する。 第 6 回(5/23、対面) 担当:看護学部 藤田 景子*。5. ジェンダー平等を実現しよう、に関して、DV やデート DV、性暴力の現状に関して国内外や静岡県の事例や現状を用いて、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点をふまえ、説明する。 第 7 回(5/30、対面) 担当:食品栄養科学部 増田 修一*。6. 安全な水とトイレを世界中に、に関して、生体内での水の役割、世界の水資源の現状、世界と静岡の環境水の汚染状況、浄水・下水処理法等の解説を通して、水と衛生環境と健康との関わりについて説明する。 第 8 回(6/6、対面) 担当:食品栄養科学部 原 清敬*。7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに、に関して、「エネルギーとは何か」および「クリーンなエネルギーとは何か」という視点で説明する。また、静岡県のエネルギー事情について説明する。 第 9 回(6/13、対面) 担当:経営情報学部 上原 克仁*。8. 働きがいも経済成長も、に関して、企業の現状とワークライフバランスへの配慮やジェンダー平等の実現について静岡県を全国と比較したデータを紹介しながら説明する。 第 10 回(6/20、対面) 担当:国際関係学部 宮崎 晋生。9. 産業と技術革新の基盤をつくろう、に関して、企業や組織の枠を超えて社会でイノベーションを促す仕組みについて説明する。県内に拠点を置く企業のケースも取り上げる。 第 11 回(6/27、対面) 担当:国際関係学部 佐藤 真千子。10. 人や国の不平等をなくそう、に関して、世界の政治的・宗教的迫害の状況と諸外国の取組の他、静岡の企業にも求められる人権とビジネスの問題に対する国内外の取組事例も紹介しながら考察する。 第 12 回(7/4、対面) 担当:食品栄養科学部 谷 晃。11. 住み続けられるまちづくりを、15. 陸の豊かさを守ろう、に関して、静岡の世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」および「静岡の茶草場(ちやぐさば)農法」の事例を用いて、説明する。 第 13 回(7/11、対面) 担当:食品栄養科学部 谷 幸則。14. 海の豊かさを守ろう、に関して、海洋生態系と多様性、海洋資源利用の現状を説明する。また、静岡県の食に係わる海洋生態系についても触れる。 第 14 回(7/18、対面) 担当:国際関係学部 孫 暁剛*。13. 気候変動に具体的な対策を、に関して、気候変動にともなう異常気象や自然災害の影響をもっとも強く受けるアフリカの事例を通して、地域社会の対応とグローバル社会の責任と役割について説明する。 第 15 回(7/25、対面) 担当:国際関係学部 北野 嘉章。16. 平和と公正をすべての人に、に関して、ターゲットに		

	登場する「法の支配(the rule of law)」の概念について説明する。静岡県内の関連する取り組みについても紹介する。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポート、講義への参加度を総合して評価する。				
【テキスト】	プリント配布				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する。				
【備考】	定員 150 名。受講人数過多の場合、履修制限を設ける場合があるので、第 1 回目の講義には必ず出席のこと。 製薬メーカーで医薬品の研究開発に携わった経験のある教員(近藤)が、ものづくりを通した SDGs への関りについての講義を行う。 ボランティア団体、外国人のための無料健康相談と検診会の事務局長の経験を持つ教員(前野)が、すべての人に健康と福祉を、の講義を行う。 外国ルーツの児童生徒への教育支援事業を行う NPO において理事及びスタッフとして学習指導を行っている教員(角替)が、移民の子どもの教育の実際について経験を交えながら講義に当たる。 助産師としての勤務経験や、DV・デート DV・性教育等に携わった経験のある教員(藤田)が、リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点をふまえ、ジェンダー平等に関して講義を進めていく。 環境アセスメント会社及び国の研究機関(国立公衆衛生院)での勤務経験のある教員(増田)が、水資源、浄水・下水処理、環境水の汚染状況等について解説する。 食品・発酵企業での勤務経験を持つ教員(原)が、当該分野の実用例を含めた講義を行う。 民間企業等での就業や転職の経験を有する教員(上原)が、日本企業の実態を講義する。 JICA の東アフリカ早魃支援プロジェクトで専門家として携わった経験のある教員(孫)が、気候変動に伴う自然災害の現状と、地域社会のニーズに対応した具体的な対策について、実例を示して講義を進めていく。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	

【科目名】	ふじのくに「ガストロミーツーリズム」：観る、食べる、学ぶ		Gastronomy Tourism development in Shizuoka		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	木曜 1 限	
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大久保あかね 内海佐和子 アムナー・カウクルアムアン 上野雄史 岩崎邦彦 鈴木さやか 他				
【授業目標】	ガストロミーツーリズムの世界的潮流とわが国における実践例を学ぶことを通じて、持続可能な開発目標 (SDGs) にも貢献できる静岡型のガストロミーツーリズムの構築と推進に寄与できる人材の育成に寄与する。				
【授業概要】	ガストロミーツーリズム (gastronomy tourism) は、長い伝統と食の歴史を持つ欧州を中心に世界各国で取り組まれている。ガストロミーツーリズムは、「地域の食」の背景に、それを生んだ地域を理解し、楽しむことを目的としたツーリズムであり、その土地と生産者の価値向上や、女性と若者の活躍促進、地域のブランディングと発見に貢献するものである。 静岡県は全国トップクラスの 439 品目の農林水産物が生産され、富士山や伊豆半島、南アルプス、浜名湖など多彩な地域資源を持ち、各地に多種多様な歴史資源を持つ。ガストロミーツーリズムは、地域への所得移転、地域振興という経済振興の側面、地域の歴史・文化、多様性の発信といったサステナビリティな側面といった、複数の側面を併せて持っている。この取り組みは始まったばかりであり、「完成」されたものでない。そこで、本講義では、ガストロミーツーリズムの概念、実践への理解を深め、講義者・参加者との対話を通じて、静岡型のガストロミーツーリズムの構築とその推進に寄与していく。				
【授業方法】	本学教員及び、ゲストスピーカーによるオムニバス講義である。必要に応じて、グループによるディスカッションやフィールドワーク等を実施するなど、できるだけ実践に即した知識習得を目指す。				
【授業展開】	第 1 回 4 月 10 日 (木) オリエンテーション (経営情報・大久保) 第 2 回 4 月 17 日 (木) ガストロミーツーリズムの基礎知識 (経営情報・大久保) 第 3 回 4 月 24 日 (木) 静岡型ガストロミーツーリズム (地球環境誌ミュージアム館長・佐藤先生) 第 4 回 5 月 1 日 (木) 静岡ガストロミーツアーの展開 (ふじのくにの旬を食べつくす会: 岩澤先生) 第 5 回 5 月 8 日 (木) 伊豆におけるガストロミーツーリズム (静岡大学・飯倉先生) 第 6 回 5 月 15 日 (木) サンセバスチャンにおけるガストロミーツーリズム (ディスカバリーバス・沼山先生) 第 7 回 5 月 22 日 (木) 食と観光のマーケティング (経営情報・岩崎先生) 第 8 回 5 月 29 日 (木) 静岡のガストロミーツーリズム政策 (静岡県・担当者) 第 9 回 6 月 5 日 (木) 茶を活かしたガストロミーツーリズム (経営情報・アムナー先生) 第 10 回 6 月 12 日 (木) 文学と食 (国際・鈴木先生) 第 11 回 6 月 19 日 (木) 富士山とインバウンド・ガストロミーツーリズム (一社) エコロジック・新谷先生) 第 12 回 6 月 26 日 (木) 東南アジアにおけるガストロミーツーリズムーベトナム の食文化を中心に (経営情報・内海先生) 第 13 回 7 月 3 日 (木) イタリアにおけるガストロミーツーリズム (パルマ大・マリオ先生/経営情報・上野先生) 第 13・14 回 7 月 5 日 (土) 静岡の伝統野菜を探すフィールドワーク (農林環境専門職大・丹羽先生) ※2 回分 第 15 回 7 月 10 日 (木) まとめ① (グループワークによる討議) 第 16 回 7 月 17 日 (木) まとめ② (グループワークによる発表) ※講師の予定等でスケジュールが変更になることがあります。				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	授業への取り組み 30%、レポート・プレゼンテーション・小テストなど 70%				
【テキスト】	講義中に適宜提示する。				
【参考書】	講義中に適宜提示する。				
【備考】	7/5 については学外でのフィールドワーク (10 時～17 時) を実施する予定 (詳細は別途提示する)。				
【社会人聴講生】	受講可	【科目等履修生】	受講可	【交換留学生】	受講可

【科目名】	静岡ゲームチャリティー実践	The Shizuoka Game Charity (practical project)
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】 木曜 1 限
【科目責任者】	ディハーン ジョナサン	
【担当教員】	ディハーン ジョナサン	
【授業目標】	チャリティーイベントの制作を通して、(1)静岡の社会について学び、社会に貢献する、(2)学問的・専門的な知識と技術を身につける。 The purpose of this class is for students to, through creating a public charity event: (1) learn about and contribute to Shizuoka society, and (2) develop academic and professional knowledge	
【授業概要】	チャリティーイベントの企画としてミニゲームを作成し、イベント運営で得た募金によって購入したおもちゃ(ブロックや折り紙、ボードゲームなど)を静岡県立こども病院に寄付する。この授業を通して、受講生が以下の知識およびスキルを身につけることを目指す。 (1)具体的な静岡の知識:こども病院、チャイルド・プレイ・スペシャリストの仕事、静岡のイベント、静岡の団体、静岡市民、静岡のメディアについて。 (2)概念的な知識:チャリティー、ボランティア活動、健康と幸福、プロジェクトの持続可能性、持続可能な開発目標、プロジェクト管理、広報などについて。 (3)専門的なスキルと知識:所属学部に関連した知識とスキル(例:病院知識、マーケティング、広報、言語、文化、教育、社会)を身につけ、他学部の学生と協力することで、協調性、コミュニケーション、批判的思考、創造性などの「21 世紀型スキル」を修得する。	
【授業方法】	ショートレクチャー、グループワーク、フィールドリサーチ、ショートレポート、日記作成、プロジェクトマネジメント、プレゼンテーション、ゲームデザイン、マーケティング活動、イベント企画、メディアデザイン、組織とのコミュニケーション	
【授業展開】	1. プロジェクトとワークフローの紹介。アイスブレーキングと自己紹介。 2. こども病院とチャイルド・プレイ・スペシャリストについて学ぶ(ショートレポート)。 3. 静岡イベントフィールドワーク(ショートレポート)。 4. 静岡関連コンセプトディスカッション(発表)。 5. プロジェクト・グループの結成(マーケティング・チーム、ゲーム・デザイン・チーム、イベント・ファシリテーション・チーム、病院リエゾン・チームなど)と役割分担・責任分担。 6. ミニゲーム、ミニイベントワークショップ。 7. プロジェクトワーク - ディスカッションとブレインストーミング。 8. プロジェクト作業 - 提案と修正。 9. プロジェクト作業 - プロトタイプと練習。 10. プロジェクト作業 - マーケティング作業、準備。 11 - 12. プロジェクト作業 - 完成:イベントの開催。(2コマ分を充当) (イベントは 6 月下旬～7 月上旬の土日进行を想定していますが、具体的な日時はプロジェクトグループで検討し決定します。イベントへの参加はグループの役割によります。) 13. プロジェクト作業 - 寄付。 14. メディアへの報告(新聞、大学、ウェブサイト、ソーシャルメディア)。 15. 来年のクラスのための振り返りと終了メモ。	
【履修条件】	静岡の社会について学び、貢献することに興味があること、グループワークやプロジェクトワークに興味があること、日本語と英語、さまざまなメディアやテクノロジーを使いこなす意欲があること、チャリティ、ゲーム、遊び、イベントに興味があること。	
【評価方法】	静岡県立こども病院・チャイルド・プレイ・スペシャリスト研究ショートレポート - 10% 静岡県地域行事ショートレポート - 10% 静岡および関連コンセプトのプレゼンテーション - 10% イベントプロジェクト活動(ディスカッション、ブレインストーミング、提案、修正、試作、実践、マーケティング、準備、完成、寄付) - 40% プロジェクト管理週報と学習記録 - 15% メディア(新聞、大学、ウェブサイト、ソーシャルメディア)への最終報告 - 15%	
【テキスト】	なし。インターネットでの読書やメディア視聴(YouTube など)が課される。	
【参考書】	授業中に資料を配布する。	
【備考】	プロジェクト URL: https://sites.google.com/site/gamelabshizuoka/events/shizuokagamecharityboost このクラスは日本語と英語で行われます。学生は毎回の授業に出席するよう計画してください。	

This class will be taught in Japanese and English. Students should plan to attend every lesson					
【社会人聴講生】	受入れ可	【科目等履修生】	受入れ可	【交換留学生】	受入れ可 Exchange students are welcome

【科目名】	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－		Scientific and practical knowledge of Shizuoka		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	火曜 1 限	
【科目責任者】	伊藤創平				
【担当教員】	伊藤創平、中野祥吾、伊藤圭祐、鮎信学、田村謙太郎、大原裕也、藤浪大輔、本田千尋、岡本衆資、島村裕子、村上和弥、清水力※、宮下和也※、山崎 誠※				
【授業目標】	持続可能かつ健康長寿社会の実現には、研究開発活動により創造された「知」の活用が必要である。本科目により、静岡県立大学もしくは地域企業発の「知」に対する受講生の価値観を醸成する。				
【授業概要】	日本一高い富士山と日本一深い駿河湾を有する静岡は、多様な農産物のみならず、多様な動植物と遺伝子資源に産んでいる。富士山麓広がる東部地域に医療健康産業、中部地域には食品・化成品産業が集結、大学などの研究機関と協働で研究開発を進めている。ライフサイエンス分野に強みを持つ静岡県立大学では、「地域をつくる、未来をつくる」をキャッチフレーズに、地域の特性を生かした「知」の創造に挑戦している。本科目では、静岡県立大学発もしくは地域企業発の「知」の理解と活用について、紹介する。				
【授業方法】	プリント、パワーポイントを利用しながら、対面で講義。 オンライン講義(Zoom)の場合は事前に案内を行う。				
【授業展開】	1 食と健康 (伊藤創平) 4/15 2 香りの科学 (伊藤圭祐) 4/22 3 昆虫を活用した食料生産 (大原裕也) 4/30 (変則) 4 植物の環境応答 (田村謙太郎) 5/13 5 澱粉の科学 (本田千尋) 5/20 6 静岡のお酒 (鮎信学) 5/27 7 生体触媒の世界 (中野祥吾) 6/3 8 超臨界流体技術の応用 (村上和弥) 6/10 9 食品の安全性と食中毒予防 (島村裕子) 6/17 10 環境調和型プラスチックの開発 (岡本衆資) 6/24 11 生物を構成するタンパク質 (仮) (藤浪 大輔) 7/1 12 開発業務について (山崎 誠※:(株)はごろもフーズ 開発部) 7/8 13 天然調味料・機能性食品の開発 (宮下知也※、(株)焼津水産化学工業) 7/15 14 化学企業と植物バイオ技術 (清水力※:(株)クミアイ化学工業) 7/22 15 蛋白質や酵素を創る (伊藤創平) 7/29				
【履修条件】	勉学意欲が旺盛な者。				
【評価方法】	・3 回のレポートで評価、提出期限厳守。 ・出席回数が 10 回未満の者は単位認定の対象とならない。 ・1～5 回目、6～10 回目、11～15 回目の講義の中から、課題をそれぞれ1つ選択。 ・レポートは、ユニバより提出。提出期限は、5、10、15 回目の講義の 1 週間後。 ・レポートは、PDF か word 形式。ファイル名は、教師名+学籍番号(半角)+氏名 レポートには、レポートのタイトル、講師名、学籍番号、氏名を記入。 ファイル名の例 田村先生 202116 静岡太郎.docx ・レポートは A4 2枚程度				
【テキスト】	なし。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が紹介します。				
【備考】	講師の都合で予定が変更になる場合があります。 ※企業等における、研究開発実務経験者				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ		Global perspectives on Shizuoka		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	水曜 1 限	
【科目責任者】	横井 香織				
【担当教員】	富沢 壽勇(副学長、国際関係学部特任教授)、小川 和久(特任教授)、酒井 敏(特任教授)、鴨川 仁(特任教授)、楠城 一嘉(特任教授)、横井 香織(特任准教授)、岩田 孝仁(客員教授)、長尾 年恭(客員教授)、堀 高峰(客員教授)				
【授業目標】	・雄大な富士山や駿河湾があり、豊かな自然と暮らしやすい気候に恵まれているといわれる「しずおか」の自然や歴史・文化を学び、「しずおか」への理解を深める。 ・「しずおかとは何なのか」という問いに対し、自然科学、人文・社会科学の各分野から多角的にとらえ、何が「しずおか」の課題かを理解したうえで主体的に地域にかかわる力を養う。				
【授業概要】	【前半(1～8回)自然災害、危機管理部門】 ・南海トラフ、富士火山、津波など、「しずおか」が直面する自然災害の発生のメカニズムや災害に至るプロセスなどを理解する。また、自然災害に対する防災や減災について過去の事例から学び、「しずおか」で起こりうる災害を自分ごととしてとらえ、より望ましい対策を考察する。 【後半(9～15 回)アジア・太平洋部門】 ・「しずおか」が歴史的に外の世界とどうつながってきたのかを、特産品であるお茶や缶詰、人々の交流などをテーマに理解を深め、「しずおか」に存在する多様性や多文化を考察する。				
【授業方法】	グローバル地域センターの教員が、オムニバス形式で講義を行う。 パワーポイントと配布資料にそって、講義形式で授業を進める。講義は対面授業で実施する。				
【授業展開】	1. しずおかと地震(楠城 一嘉)【4 月 16 日】 2. しずおかと津波(鴨川 仁)【4 月 23 日】 3. しずおかと火山(鴨川 仁)【5月7日】 4. しずおかと防災(岩田 孝仁)【5 月 14 日】 5. 駿河湾から防災・地震予知を考える(長尾 年恭)【5 月 21 日】 6. しずおかと南海トラフ(地震・ゆっくりすべり)(堀 高峰)【5 月 28 日】 7. 宇宙船地球号とその乗組員たち(酒井 敏)【6月4日】 8. 静岡県に伝えたい阪神・淡路大震災の教訓(小川 和久)【6 月 11 日】 9. 台湾節としずおか(横井 香織)【6 月 18 日】 10.しずおか空襲(田中 文雄:静岡平和資料センター長 ※外部講師)【6 月 25 日】 11.幕末維新の海外渡航者としずおか(樋口 雄彦:国立歴史民俗博物館 教授 ※外部講師)【7 月 2 日】 12.缶詰王国しずおか(椿原 靖弘:フェルケール博物館学芸部長 ※外部講師)【7 月9日】 13.庶民のお茶の研究が私をミャンマーの山岳地帯に導いた！(中村羊一郎:静岡市歴史博物館初代館長 ※外部講師)【7 月 16 日】 14.しずおかとイスラーム(富沢 壽勇)【7 月 23 日】 15.しずおかとかつお節(ゲストスピーカーとして、かつお節職人の方へ講義を依頼)【7 月 30 日】 ※講義の順番・テーマは変更する場合があります。				
【履修条件】	授業の 3 分の 2 以上に出席				
【評価方法】	履修条件を満たすこと、及びレポートによる。 レポートは前半(1～8回)から 1 題、後半(9～15 回)から 1 題。 レポートのテーマは授業の中で提示する。なお、後半「アジア・太平洋部門」では、博物館・資料館で資料収集、取材をしてその成果をまとめる、というレポートを課す予定である。				
【テキスト】	講義ごとに随時プリントを配布する。講義に必要な場合は講義前にユニバーサルバスポートで資料を提示する。				
【参考書】	グローバル地域センターホームページ掲載の論文・コラム、各講師の著作とホームページ				
【備考】	ー				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(富士山学概論)		Introduction to the Study of Mt.Fuji		
【開講時期】	2025 年度後期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	鴨川仁				
【担当教員】	西原歩(常葉大学)、大高康正(富士山世界遺産センター)ほか				
【授業目標】	富士山は活火山というだけでなく、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきたことにより、現在は世界文化遺産に登録されるまでに至っている。国際的にも重要な富士山のあらゆる学問的側面を本授業で学ぶことを目標とする。				
【授業概要】	富士山に関係する自然科学的、人文科学的、社会科学的側面を多角的に学ぶ。				
【授業方法】	集中講義(2日間の座学と2日間の野外実習)				
【授業展開】	日程は 10 月4日、11 日、12 日、18 日(予備日 25 日)を予定している。 【1日目】 1 講義「富士山全般に関する概論①」 2 講義「富士山全般に関する概論②」 3 講義「富士山を巡る施策～活用と保全の観点から～」 4 講義「人文科学から見る富士山①」 【2日目】 5 講義「人文科学から見る富士山②」 6 講義「人文科学から見る富士山③」 7 講義「富士山の地形・地質と岩石」 8 講義「富士山の植生」 【3日目】 9-12 実習「世界遺産富士山の構成資産(富士宮市内)」 【4日目】 13 講義「富士山と科学研究」 14 講義「太郎坊を中心とした富士山を活用した科学研究」 15-16 実習「太郎坊を中心とした富士山を活用した科学研究」 (内容については、今後、変更する場合があります)				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	出席状況及びレポート等を総合的に判断して評価する。				
【テキスト】	適宜配布する				
【参考書】	『地震と火山と防災のはなし』著・楠城一嘉(成山堂書店) 『ようこそ！ 富士山測候所へ』著・長谷川敦(旬報社)				
【備考】	定員 30 名程度 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、沼津工業高等専門学校、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡英和学院大学、静岡産業大学、静岡理工科大学、東海大学静岡キャンパス、常葉大学、浜松学院大学)の学生も参加する。 実習費用(バス代等の一部)を徴収する。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(お茶)	Fujinokuni Studies(O-CHA)			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	＊中村順行				
【担当教員】	＊中村順行 ＊ステファン・ダントン 他				
【授業目標】	集中講義と野外実習により、多様な視点からお茶を総合的に学習し、お茶を通じて地域に愛着や誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
【授業概要】	農学、作物学、生産から加工・流通までの多様な視点からお茶を総合的に学習する。				
【授業方法】	集中講義・フィールドワーク				
【授業展開】	9月1、2、3、4日の4日間を予定（内容については、今後、変更する場合があります） 第1日 ふじのくに茶の都ミュージアム 1 講義「茶学概論、平地のお茶の生産・加工」 2 講義「ふじのくに茶の都ミュージアムの役割とお茶の振興」 ふじのくに茶の都ミュージアム館内見学・茶道体験 3 講義「川根の茶業と生活、文化について」 第2日 静岡市内 4、5 実習：お茶摘み、お茶づくり体験、茶工場見学 6 実習：お茶の淹れ方講座 第3日 静岡県立大学 7 講義「静岡茶の流通～過去から現在、そして未来へ～」 8 講義「お茶の歴史と文化」 9 講義「お茶の価値を高めるマーケティング」 10 グループワーク「静岡の茶業が活性化するための展開の仕方」 第4日 静岡県立大学 11 講義「茶の機能と多用途利用」 12 講義「外国人から見た日本茶」 13、14 グループワーク「静岡の茶業が活性化するための展開の仕方」 15 全体総括				
【履修条件】	全日程出席を必要とする。 全学共通科目の「茶学入門」と一部重複するため、「茶学入門」履修者の単位認定はしない。受講は可能。				
【評価方法】	課題レポート(各日のふりかえり、最終レポート)及び出席(1日でも欠席した場合は不可)				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 40 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び南大阪地域大学コンソーシアム広域単位互換協定校の学生を対象とする。 「茶学入門」未履修者を優先する。 学生負担金として、借上バス代等を徴収する。 また、集合場所までの交通費及び昼食代については、参加者負担とする。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修不可

【科目名】	ふじのくに学(観光学)	Fujinokuni Studies(Tourism Studies)			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	大久保 あかね				
【担当教員】	*1 北上 真一(静岡県立大学) *2 飯倉清太(静岡大学) 他				
【授業目標】	野外実習と講義を通じて、本県の多彩な観光資源～自然、文化・歴史から生活体験まで～を活かした「世界クラスの観光地域づくり」を学ぶことで、地域への理解を深めるとともに愛着や誇りを持ち、地域の魅力を発信できる人材を育成する。				
【授業概要】	東部や伊豆半島を舞台に、幅広い視点に立った観光の取組について、実践的に学習する。				
【授業方法】	2 日間(1 泊 2 日)での野外実習(フィールドワーク)と集中講義(座学)				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり				
	東部・伊豆地域				
	1～2 伊豆半島における取組から学ぶ新たな観光産業の可能性(講義と実習)				
	3～4 伊豆半島ユネスコ世界ジオパークから学ぶジオサイト(講義と実習)				
	5 観光に関するワークショップ				
【履修条件】	6～7 古民家再生事業を通じた観光事業の戦略構築の一例を学ぶ(講義と実習)				
	8 全体総括				
	(令和8年1月 17 日、18 日の予定)				
	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名程度。				
	ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡県立大学、静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学、東海大学静岡キャンパス)の学生も参加する。				
	学生負担金(宿泊費・バス代・食費の一部)として、15,000 円(予定)を徴収する。				
	*1 旅行会社での勤務経験のある北上講師が、観光に関する基本的な知識を講義する。				
	*2 NPO 法人での活動経験のある飯倉講師が、その経験を活かして、観光産業を中心に実践的な講義を行う。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	可

【科目名】	ふじのくに学(演劇論)		Fujinokuni Studies (Theater theory)		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	＊宮城 聡				
【担当教員】	＊宮城 聡				
【授業目標】	演劇への理解を深めることができる。また、ディスカッションやワークショップ等をととして、対話力や協働性を身につけることができる。				
【授業概要】	SPACー静岡県舞台芸術センターの活動をとおして、演劇について考え、現代社会における演劇を取り巻く状況について理解を深める。				
【授業方法】	講義だけでなく、学生同士で話し合ったり、身体を動かしたり、SPAC の劇場や稽古場に足を運んだりしながら進めていきます。※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	第 1 回 イン트로ダクション、アイスブレイク 第 2 回 講義：演劇ってなんだ？ 第 3 回 講義：劇場ってなんだ？ 第 4 回 講義：SPAC について 第 5 回 フィールドワーク：舞台芸術公園(1) 第 6 回 フィールドワーク：舞台芸術公園(2) 第 7 回 フィールドワーク：静岡芸術劇場(1) 第 8 回 フィールドワーク：静岡芸術劇場(2) 第 9 回 ワークショップ：役を演じる(1) 第 10 回 ワークショップ：役を演じる(2) 第 11 回 ワークショップ：役を演じる(3) 第 12 回 ディスカッション：ワークショップのふりかえり 第 13 回 鑑賞：SPAC シアタースクール発表会 第 14 回 ディスカッション：鑑賞のふりかえり 第 15 回 ディスカッション：SPAC と公共性				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	授業への取り組み 50 %、授業内容に関するレポート 50 %				
【テキスト】	なし。				
【参考書】					
【備考】	・定員 50 名程度。 ・観劇チケット代 2,000 円程度、劇場までの交通費は参加者負担とする。 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、沼津工業高等専門学校、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡英和学院大学、静岡産業大学、静岡理工科大学、東海大学静岡キャンパス、常葉大学、浜松学院大学)の学生も参加する。 ＊実際の演劇活動に携わる講師が、演劇について具体的な講義や実習を行う。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(南アルプスの自然)	Fujinokuni Studies (Minami-Alps Biosphere Reserve)			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	徳岡 徹(静岡大学)				
【担当教員】	増澤 武弘(静岡大学)他				
【授業目標】	南アルプスを題材として、生態系の保全と持続可能な利活用の調和について講義と野外実習を通じて考える。 南アルプスは国立公園として認定されているが、2014 年に登録されたユネスコエコパークを通じて自然と人間社会の共生を理解する。				
【授業概要】	静岡市葵区井川地区(大井川上流地域)における2日間の集中講義により、南アルプスに関する講義や野外実習を行う。 南アルプス国立公園であり、ユネスコエコパークとして認定を受けた地域で、自然と人間社会の共生をいかに調和していくかを考える。				
【授業方法】	2 日間(1 泊 2 日)での野外実習(フィールドワーク)と集中講義(座学)				
【授業展開】	10 月 4・5 日の 1 泊 2 日を予定 (内容については、今後、変更する場合があります) (荒天の場合の予備日 10 月 18・19 日) 第1日 1・2 ユネスコエコパーク、南アルプス概論、オクシズ(講義) 3・4 南アルプスの動植物(講義・野外実習) 5 井川地区の自然と調和した生活(野外実習) 6・7 大井川上流の自然(講義) 第2日 8・9・10 大井川の水と自然エネルギー(講義・野外実習) 11・12 大井川上流の河岸林(講義・野外実習) 13・14 南アルプスの自然と歴史(講義・野外実習) 15 まとめ				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポートにより評価します。				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。				
【参考書】	なし				
【備考】	・定員 20 名程度 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、沼津工業高等専門学校、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡英和学院大学、静岡産業大学、静岡理工科大学、東海大学静岡キャンパス、常葉大学、浜松学院大学)の学生が参加する。 ・実習費用(宿泊費、バス代、食費等の一部)を徴収する。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	Fujinokuni Studies(Industrial innovation in Shizuoka)			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	*1 小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)他				
【授業目標】	本県の産業・企業を知る企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、本県産業の現状と課題への理解を深め、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり 1 ガイダンス・概論 2 (未定) 3 これからの静岡県の産業(講義) 4 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから～(講義) 5～12 県内の事例調査(企業訪問)(東部コース) 13～15 ワークショップ・実習の振り返り、全体の総括				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学、東海大学静岡キャンパス)の学生も参加する。 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	Fujinokuni Studies(Industrial innovation in ShizuokaⅡ)			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)、他				
【授業目標】	本県の産業・企業を知る企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、本県産業の現状と課題への理解を深め、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり 1 ガイダンス・概論 2 (未定) 3 これからの静岡県の産業(講義) 4 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから～(講義) 5～12 県内の事例調査(企業訪問)(中部コース) 13～15 ワークショップ・実習の振り返り、全体の総括				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学、東海大学静岡キャンパス)の学生も参加する。 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅢ)		Fujinokuni Studies(Industrial innovation in ShizuokaⅢ)		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	＊1 小泉 祐一郎(静岡産業大学)				
【担当教員】	小泉 祐一郎(静岡産業大学)、他				
【授業目標】	本県の産業・企業を知る企業体験型授業を開講することにより、地元企業の理解促進を図るとともに、本県産業の現状と課題への理解を深め、将来の産業の姿を考える。				
【授業概要】	県内企業の事例を参考に、本県の産業のイノベーションについて、実践的に学習する。				
【授業方法】	4日間のワークショップ、集中講義 ※夏季休業中の集中講義として実施				
【授業展開】	以下の内容を予定している。変更の可能性あり 1 ガイダンス・概論 2 (未定) 3 これからの静岡県の産業(講義) 4 静岡県の大学が果たす役割～大学発ベンチャーの動きから(講義) 5～12 県内の事例調査(企業訪問)(西部コース) 13～15 ワークショップ・実習の振り返り、全体の総括				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート等に基づき判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員 20 名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学、東海大学静岡キャンパス)の学生も参加する。 静岡県庁での勤務経験のある小泉教授が、静岡県に関する幅広い知識を活かし、本県の産業イノベーションに関する授業を行う。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(農林業)	Fujinokuni Studies (Agriculture and forestry)			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	稲垣栄洋(静岡大学)				
【担当教員】	富永晃好・花岡創(静岡大学)				
【授業目標】	本講義では、静岡大学藤枝フィールドと天竜フィールドでの実習を通じて、静岡県の農業と林業の秋冬の作業の特徴について、基本的な事柄を総合的に学ぶことを目的とする。				
【授業概要】	森林観察や農林業体験を通して、静岡の気候や風土の中で培われた農林業を総合的に学ぶ				
【授業方法】	オンデマンド資料によるオンライン講義(3 回)及び、静岡大学附属農場(農学部附属地域フィールド科学教育研究センター藤枝フィールド)又は附属演習林(同研究センター天竜フィールド)での日帰り実習(1 日)。				
【授業展開】	以下の内容を予定しています。ただし、日程等は変更の可能性があります。				
	【オンライン講義】 静岡大学農学部附属藤枝フィールド(農場)と静岡大学農学部附属天竜フィールド(演習林)で管理されている農作物や樹種を中心に、オムニバスで静岡の農業や林業を紹介します。				
	第 1 回 静岡県の農業について 第 2 回 静岡県の園芸作物 第 3 回 静岡県の森の生態・林業				
	授業は、ふじのくに地域・大学コンソーシアムより配信します。				
	【日帰り実習(1 日)】 静岡大学農学部附属藤枝フィールド(農場)(藤枝市仮宿 63)又は静岡大学農学部附属天竜フィールド(演習林)(浜松市天竜区西藤平 1623-1)で、静岡の農業や林業に開催する 3 つの実習メニューのうち、1 つを選んで参加します。現地までは大学のバスで移動します。 具体的な実習の日時や内容については、別途、お知らせします。 持ち物については、受講者募集時及びガイダンスで説明します。				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。 静岡大学農学部生の履修はできません。				
【評価方法】	レポートにより評価します。				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。				
【参考書】	なし				
【備考】	・定員 100 名以内。 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校及び、広域単位互換協定を結んでいるキャンパス・コンソーシアム函館(北海道)、大学コンソーシアム京都(京都府)、教育ネットワーク中国(広島県)、大学コンソーシアム大阪(大阪府)、(予定)大学コンソーシアム石川(石川県)の協定校の学生を対象とする。 ・学生負担金として、参加費(実費)を徴収する場合がある。 また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(森林生態系からの恵み)	Ecosystem services from various forests in Fuji-no-kuni			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	花岡 創 (静岡大学)				
【担当教員】	檜本 正明(静岡大学)				
【授業目標】	本講義では、静岡県の森林に親しみ、日本の自然に関心を持つようになることを目的とし、森林の生態系サービスについて理解を深めます。 To be more familiar with various forests and natures in Shizuoka, and to learn the ecological process in the forest ecosystems. To understand the importance of ecosystem services.				
【授業概要】	様々な出身国の学生とともに、静岡の様々な森林を体験します。富士山の樹木限界と亜高山帯針葉樹林の各植生帯の成立要因や生態的トピックについて学びます。 Experience to be in various forests with students from diverse countries. Study in sub-alpine forests and timber-line in Mt. Fuji and cool temperate deciduous forests in Oku-Ooi.				
【授業方法】	リモート講義 及び 実習1日				
【授業展開】	I 内容 Contents A:オンデマンド講義 On-demand lecture Introduction of University forests in Shizuoka University B: 実習 Field trip; B-1 富士山 Mt. Fuji 1: 森林限界の植物. Plants in timber-line. 2. カラマツの形態的適応. Morphological adaptations of Japanese larch 3. カラマツパッチの小さな生態系. Micro ecosystems in a patch of Japanese larch. 4. 森林限界の上昇中. Timber-line is climbing up. 5. 林床に生きるモミ属種の枝ぶり. The branching pattern of Fir species to survive in forest floor. 6. 亜高山帯の植生. Plants in sub-alpine zone. 7. 亜高山帯の森林における攪乱と更新. Disturbance and regeneration in sub-alpine forests. 8. エコトーンの林分構造. The stand structure in ecotone. II 注意事項 Notice 1) 使用言語 主に英語 Language: Primarily English 2) この講義の受講は次のような学生に適しています。日本の自然をより理解したい留学生、留学生と交流しながら野外活動をしたい日本人学生 The following students are encouraged to take this course. International students who wish better understanding of Japanese nature, and Japanese students who want to communicate with international students through field activities.				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	小テスト、レポートにより評価します。 Based on reports and quiz result				
【テキスト】	資料を適宜、配布します。 Will be provided during practice				
【参考書】	なし				
【備考】	・定員 25 名程度。 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡産業大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、静岡理工科大学、常葉大学、沼津工業高等専門学校、浜松学院大学、東海大学静岡キャンパス)の学生も参加する。 ・学生負担金として、参加費(実費)を徴収する場合がある。また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(伊豆の温泉と産業おこし)	Utilizing hot springs and creating new industries in Izu			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	楠城一嘉				
【担当教員】	鴨川仁、細川光洋 他				
【授業目標】	温泉を中心とした伊豆の地域資源について、学際的に学び、産業起こしについて考えることで、伊豆地域の産業を担う人材に必要な知識を身につける。				
【授業概要】	温泉を中心とした伊豆の地域資源について、地球科学、観光学、経営学などの視点から、座学、フィールドワーク及びワークショップを通じて学習する。				
【授業方法】	2日間(1泊2日)の野外実習(フィールドワーク)と2日間の集中講義(座学)				
【授業展開】	【1日目】1 ガイダンス等、新産業づくりとICOIプロジェクト 2 日本と世界の温泉の歴史(講義) 3 伊豆の温泉とジオパーク(講義) 【2日目】4 温泉概論(講義) 5 伊豆の食(講義・実習) 6 伊豆と文学(講義) 7 観光産業論(講義) 【3日目】8～10 フィールドワーク:温泉地・ジオサイト等見学(野外実習) 11 伊豆の温泉の魅力と新産業の可能性(講義) 12 入浴指導(講義) 【4日目】13 伊豆の温泉を舞台にした産業起こし1(講義) 14 伊豆の温泉を舞台にした産業起こし2(講義) 15,16 グループワーク、まとめ 日程は、11月8日・9日(日帰り座学2日間)、11月15日・16日(宿泊を伴うフィールドワーク) (内容については、今後、変更する場合があります)				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	出席状況及びレポート等を総合的に判断して評価する。				
【テキスト】	適宜配布する。				
【参考書】	・楠城 一嘉 編著、尾池 和夫、鴨川 仁 他 執筆(2022)地震と火山と防災のはなし ISBN978-4-425-51491-5				
【備考】	・定員 30 名程度。 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学、東海大学静岡キャンパス)の学生が参加する。 ・実習費用(宿泊費、バス代、食費等の一部)を徴収する。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	履修不可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	ふじのくに学(魅力ある食と地域づくり)	Attractive Food and Regional Development			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	集中講義		
【科目責任者】	大久保あかね				
【担当教員】	大原志麻(静岡大学)、前田節子(静岡県立農林環境専門職大学)他				
【授業目標】	静岡の気候風土から生まれた食材や、伝統、歴史によって育まれてきた食文化等を学び、地域資源を活用したガストロノミー・ツーリズムについて考えることで、食と観光の地域づくり活動を担う人材に必要な知識を身につける。				
【授業概要】	静岡の魅力ある食と地域づくりについて、地域の食材、歴史・文化、観光などの視点から、座学、フィールドワーク及びワークショップを通じて学習する。				
【授業方法】	2日間の座学(集中講義)と2日間(1泊2日)の野外実習(フィールドワーク)				
【授業展開】	【1日目】[総論] 1 ガイダンス等、講座の狙いについて 2 ガストロノミー・ツーリズム概論(講義) 3 地域の食とツーリズム ～魅力をつくる物語～(講義) 4 ガストロノミー・ツーリズムに関して(世界の先進事例比較等)(講義) 【2日目】[静岡の食文化／食と観光] 5,6 静岡の食文化(講義・実習) 7 食と観光を結びつける取組1(講義) 8 食と観光を結びつける取組2(講義) 【3日目】[事例研究(生産部門／飲食部門)] 9～11 フィールドワーク:生産者見学、食事体験(野外実習) 12 静岡県西部における食と農の取組(講義) 【4日目】[食による地域活性化／まとめ] 13 西部地域の食による地域活性化の取組1(講義) 14 西部地域の食による地域活性化の取組2(講義) 15,16 グループワーク、まとめ 日程は、8月25日・26日(日帰りで座学2日間)、 8月28日・29日(宿泊を伴うフィールドワーク) ※予備日 9月4日・5日(日帰りで座学2日間) 9月8日・9日(宿泊を伴うフィールドワーク) (内容については、今後、変更する場合があります)				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	ワークショップ及びプレゼンテーションに基づき総合的に判断する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】					
【備考】	定員30名。 ふじのくに地域・大学コンソーシアムが行う短期集中単位互換事業として行うため、単位互換協定を締結している大学(静岡大学、常葉大学、静岡理工科大学、沼津工業高等専門学校、静岡産業大学、浜松学院大学、東海大学静岡キャンパス、静岡英和学院大学、静岡文化芸術大学)の学生も参加する。 実習費用(宿泊費、バス代、食費等の一部)を徴収する。				
【社会人聴講生】	原則聴講不可	【科目等履修生】	原則聴講不可	【交換留学生】	原則聴講不可

【科目名】	ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)		ふじのくに学(静岡県西部地域の特性と産業)		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	集中講義	
【科目責任者】	＊ 小杉大輔				
【担当教員】	＊ 藤井尚子、奥中康人、他				
【授業目標】	浜松市を中心とした静岡県西部地域の特性と産業、企業・団体の現場の動き、地域で展開される活動を知り、その課題や解決方法について体験的に学ぶ。				
【授業概要】	まず、浜松市を中心とした静岡県西部地域の特性と産業の課題について講義し、この地域の現状について理解し、考える機会を提供する。それを踏まえ、企業や団体の生産・活動の現場で事例調査を行い、地域の抱える課題やその解決方法、未来の展望について学ぶ。				
【授業方法】	集中講義、事例調査、ワークショップ				
【授業展開】	9月16日(火) 第1日 静岡文化芸術大学、静岡県西部で事例調査 ① ガイダンス(大学内) ② 静岡県西部地域の特性と産業について概論(しんきん経済研究所) ③～⑤ 静岡県西部地域の特性と産業に関する企業見学(春華堂) 9月19日(金) 第2日 静岡文化芸術大学、工場見学 ⑥ 遠州地域の繊維産業について(大学内) ⑦ 繊維業に関するワークショップ ⑧～⑩ 工場見学等(はままつ BABYBOX) 9月24日(水) 第3日 楽器産業について解説、工場見学 ⑪～⑮ 楽器に関する解説と工場見学(河合楽器製作所、ヤマハ、鈴木楽器製作所) ※各日とも、事前レポートと事後レポートを課す。 ※各回に対応する事前レポートは9月上旬に、事後レポートについては各授業内で説明する。				
【履修条件】	卒業年次の学生は、原則履修不可。				
【評価方法】	レポート課題およびコメントシートにより理解度と意欲・態度を評価する。				
【テキスト】	必要に応じて、プリントを配布する。				
【参考書】	指定しないが、授業内で紹介することがある。				
【備考】	・ふじのくに地域・大学コンソーシアム単位互換協定校の学生を対象とする。 ・定員 16 名程度 ・また、集合場所までの交通費、昼食代については、参加者負担とする。 ・見学先等は予定であり、一部変更になることがある。				
【社会人聴講生】	聴講不可	【科目等履修生】	聴講不可	【交換留学生】	聴講不可

【科目名】	健康イノベーション教育プログラム	Health Innovation Education Program			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	水曜 1 限		
【科目責任者】	新井英一				
【担当教員】	合田敏尚、森本達也*、新井英一*、賀川義之、市川陽子、西野勝明、岩崎邦彦*、大久保あかね*、上野雄史、東野定律、落合康裕、国保祥子、宮崎晋生、武藤伸明、渡邊貴之				
【授業目標】	現代における健康課題と健康寿命の延伸に向けた「健康食」のニーズを理解し、健康長寿社会の形成に向けた新たな産業をどのような視点で創出し、展開するかの構想を促すとともに、新たなビジネスモデルを考案するために必要な、多角的・俯瞰的に考える能力や、IT 技術の活用に必要な基本的知識や考え方を身につけることを目標とする。				
【授業概要】	地域の食関連産業（食品製造業、飲食、ヘルスケアなどのサービス業など）の発展を推進する人材の育成を図る静岡県の「健康イノベーション教育プログラム」に位置付けられた科目である。イノベーションやマネジメントなどの中核を担うために必要となる、文理融合による俯瞰的な能力を培うことをめざし、1)健康と食、2)地域産業とマーケティング、3)地域創生とビジネス、4) IT とデータサイエンス、の4つの視点から、健康長寿の地域社会の創生にむけた健康福祉および経済産業における課題と、その課題解決のための取り組みの視点を学ぶ。 視点1(健康と食)では、現代社会における栄養の過剰(生活習慣病)と不足(やせ、虚弱)という栄養障害の二重負荷と、それに関連した疾患の発症・進展抑制の課題を取り上げ、その解決に向けた食品成分の活用法や「健康食」普及のアプローチが紹介される。視点2(地域産業とマーケティング)では、食関連の産業集積とイノベーション、食関連産業のマーケティング、ガストロノミー・ツーリズム(美食観光)の世界的潮流と日本での可能性、企業に求められている社会的責任についての講義を通じて同産業の現状・課題・対応策を検討し今後の発展を展望する。視点3(地域産業とマーケティング)では、食関連産業において今後、求められる新たなビジネスモデルについて、ヘルスケア産業が抱える問題点、ファミリービジネス、ソーシャルビジネスを生み出すプロセス、新たな産業のエコシステムの観点から事例に基づいて論じる。視点4(IT とデータサイエンス概論)では、コンピュータが誕生してから現在までに出現した重要な基本的事項について学び、IT 技術の活用についてシミュレーションなどの応用例を通じてわかりやすく説明する。				
【授業方法】	講義をオムニバス形式で行う。原則として配布プリントとスライドを用いて講義する。				
【授業展開】	<ガイダンスと概論> 1 健康イノベーション概論：健康長寿の社会と産業(合田敏尚) <視点1:健康と食> 2 医療からみた食品成分の機能(森本達也) 3 生命を律する健康食を考える(新井英一) 4 薬食同源からみたサプリメント利用の考え方(賀川義之) 5 「健康な食事・食環境」(スマートミール)認証制度(市川陽子) <視点2:地域産業とマーケティング> 6 食関連の産業集積とイノベーション(西野勝明) 7 世界で勝つ食ブランドをつくる(岩崎邦彦) 8 ガストロノミー・ツーリズムの世界的潮流(大久保あかね) 9 企業の社会的責任(上野雄史) <視点3:地域創生とビジネス> 10 健康経営とヘルスケア(東野定律) 11 ファミリービジネスの事業承継とビジネスモデル(落合康裕) 12 アントレプレナーシップ(国保祥子) 13 産業における連携の意義とオープンイノベーションの視点(宮崎晋生) <視点4:IT とデータサイエンス概論> 14 イノベーションを支える IT 技術 (武藤伸明) 15 IT の応用例：将来予測とシミュレーション (渡邊貴之)				
【履修条件】	特になし				
【評価方法】	ミニレポート・授業への参加度(60%)および最終レポートなど(40%)により、総合的に評価する。 全講義回数数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定に必須である。				
【テキスト】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【参考書】	必要に応じて各担当教員が指示する。				
【備考】	・ 静岡県プロジェクトの一環として実施される「健康イノベーション教育プログラム」の一部として開講する。				
【社会人聴講生】	履修可	【科目等履修生】	履修可	【交換留学生】	履修可

【科目名】	キャリアデザイン概論		Career Design		
【開講時期】	2025 年度前期		【開講時限】	水曜 5 限	
【科目責任者】	東野定律				
【担当教員】	＊ 東野定律 ほか				
【授業目標】	自分の将来をどのように生きていくのか、人生 100 時台において社会人として活躍するためには、自分を知ること はもとより、自分の将来を思い描いていくことが必要だと考えられます。どのように学生生活を歩み、どのよう に就職をはじめとした人生の岐路を迎えるのか、基本的な考え方から様々な客観的視点を踏まえて考えることを目 的とします。				
【授業概要】	働き方や生き方を主体的に設計するための基本的な内容はもとより、就職活動を迎えるために必要な内容(就 職活動スケジュール、自己分析、企業研究、エントリーシートの書き方、グループディスカッションや面接(グルー プ・個別等)の概要と対応など)も指導する授業です。また、企業への就職に必要な知識を学習することやコミュニ ケーションの基本である「読み」「書き」「話す」「聞く」に関するスキルについても学習します。				
【授業方法】	学外・学内からさまざまな講師においていただきお話を伺うほか、ディスカッションなどを予定しています。				
【授業展開】	1 オリエンテーション 2 自分らしい人生の描き方(学外講師を予定) 3 自分に合ったキャリア選択(学外講師を予定) 4 企業に求められる人材とは(学外講師を予定) 5 仕事と社会について①:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 6 仕事と社会について②:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 7 仕事と社会について③:職種と業界・職場研究(学外講師を予定) 8 ライティング基礎(文章とは、文章表現)(学外講師を予定) 9 ライティング基礎(自分の言いたいことをまとめる)(学外講師を予定) 10 ライティング基礎(自己 PR・エントリーシートを書く)(学外講師を予定) 11 メタバースを用いた企業探求(学外講師を予定) 12 グループワーク①(自分にとっての働く意味) 13 グループワーク②(企業に求める働き方) 14 グループワーク③(大学生の職業選択:卒業生との交流会) 15 まとめ最終レポート作成				
【履修条件】	これからの学生生活を充実しようという 1 年生から、就職活動に入りつつある 3 年生、そして社会に出ようとする 4 年生まで、将来への意欲を高めたい人の受講を期待する。				
【評価方法】	小レポート(講義要旨及び感想)、最終レポート				
【テキスト】	必要であれば随時印刷し、配布します。				
【参考書】					
【備考】	授業終了後をはじめ講師の方と懇談の機会等もあるので、積極的に参加してください。				
【社会人聴講生】	社会人聴講生不可	【科目等履修生】	科目等履修生聴講 可。なお、学生と同じ 課題をこなすこと	【交換留学生】	

【科目名】	男女共同参画社会とジェンダー	Gender Equal Society and Gender			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	木曜 5 限		
【科目責任者】	犬塚協太				
【担当教員】	犬塚協太				
【授業目標】	男女ひとり一人が対等な立場で、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」(Gender Equal Society、ジェンダー平等社会)の実現は、今日のグローバル社会における普遍的な理念であり、21 世紀日本社会の最重要課題であることを深く認識し、男女共同参画社会およびその中心的概念であるジェンダーについての理解を深め、男女共同参画社会の実現に向けて取り組む問題意識と意欲を身につけることができるようになる。				
【授業概要】	まずはじめに、男女共同参画社会の意義と必要性、ジェンダーの視点の重要性などを概観し、男女共同参画社会の基礎について学ぶ。それをふまえて、以降は、より視野を広げ、男女共同参画社会の実現に向かおうとする今日の社会の現状と課題について、さまざまな領域にわたるテーマを設定し、それらの諸問題をジェンダーの視点から批判的に分析、考察する。				
【授業方法】	講義形式でさまざまな分野にわたる男女共同参画社会とジェンダーについての諸問題を幅広く論じる。				
【授業展開】	以下のようなトピックを論じていく予定であるが、内容は変更される可能性がある。 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：性別をめぐる諸問題 第 3 回：ジェンダー・セックス・規範、社会化・教育とジェンダー 第 4 回：労働とジェンダー(1)労働とジェンダーの歴史的変容と性別役割分業 第 5 回：労働とジェンダー(2)労働とジェンダーの格差、不平等構造 第 6 回：労働とジェンダー(3)女性労働の課題とワークライフバランス社会 第 7 回：家族とジェンダー(1)近代家族の形成、特徴とジェンダー 第 8 回：家族とジェンダー(2)家族制度における性差別とドメスティック・バイオレンス 第 9 回：リプロダクティブ・ヘルス&ライツとジェンダー(1)母性という幻想とリプロダクティブ・ヘルス&ライツ 第 10 回：リプロダクティブ・ヘルス&ライツとジェンダー(2)性と身体、生殖テクノロジー 第 11 回：暴力とジェンダー 第 12 回：性の商品化とジェンダー 第 13 回：性的マイノリティとジェンダー(1)トランスジェンダー 第 14 回：性的マイノリティとジェンダー(2)異性愛主義と同性愛差別、性自認と性的指向 第 15 回：まとめ—男女共同参画社会の見取り図 (取り上げるテーマの順序・内容は変更されることがある)				
【履修条件】	特になし。				
【評価方法】	期末レポート(50%)と授業への取り組み(50%)。				
【テキスト】	特定のテキストは用いないが、必要な資料がもしあれば、ユニバーサルパスポートを通じてその都度教員が配布、提示する。				
【参考書】	必要に応じて、授業の中で提示する。				
【備考】	ユニバーサル・パスポートを通じた資料提示、シラバスの修正、補講情報等、教員からの連絡に常に注意すること。 なお受講人数は、履修登録先着順で 50 名までとする。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人権が支える社会	The society which human rights support			
【開講時期】	2025 年度前期	【開講時限】	火曜 1 限		
【科目責任者】	坪田光平				
【担当教員】	坪田光平				
【授業目標】	本授業では、人権にまつわる基礎概念について理解を深めるだけでなく、様々な人権問題に関するディスカッションを通じて、人権と社会の相互関係について主体的に考えられるようになることを目的とします。				
【授業概要】	人権って、どこか古臭くて堅苦しそう——そう考えていませんか。体外受精、監視カメラ、AI に至るまで、人権は、科学技術の進展とともに絶えず問い直されていく極めて重要かつ論争的なテーマです。本授業では、人権問題を捉える基本的な視座を概説していきます。また、毎回到わたるグループディスカッションを通して、人権問題を自分事として捉え、問題点や解決策を共同で検討できる場を提供します。				
【授業方法】	・基本的には、前半を講義形式で進め、後半はグループディスカッションを行います。 ・グループディスカッションの結果は、授業終盤で発表してもらいます。 ・毎回コメントペーパーの提出を求めます。 ・授業回によっては、映像視聴を行ったりそれをもとにしたディスカッションを行います。 ・受講生の関心に応じて、シラバスの内容・順序が一部変更になる場合があります。				
【授業展開】	1. オリエンテーション: 人権を考える 2. 人権共有主体: パパは「日本人」なのに、僕は「日本人」ではないの？ 3. 幸福追求権: 自分の髪型を自分で決めてはいけないの？ 4. 法の下での平等: 相続分が子どもによって異なっていたのはなぜ？ 5. 思想・良心の自由: 国歌は起立して歌わなくてはだめですか？ 6. 信教の自由・政教分離: 教えに反する授業を休んでもいいですか？ 7. 表現の自由: 「お前ら日本から出ていけ」と叫んでもいいですか？ 8. 職業の自由: 薬がネットで注文できなかったのはなぜ？ 9. 学問の自由・大学の自治: 遺伝子研究で人の運命を変えていくことができますか？ 10. 生存権: 人間らしく生きるってどういうことですか？ 11. 教育を受ける権利: 私たちが教わったことは、誰かにとって都合のいい事実だったの？ 12. 労働権: バイトを辞めると言われたら、退職しないといけないのですか？ 13. 財産権: 自分の家なのに出ていかないといけないのですか？ 14. 奴隷的拘束からの自由・裁判を受ける権利 15. まとめ				
【履修条件】	・グループディスカッションに対して、意欲的に参加できること。 ・単位取得を目的とした安易な履修はお断りします。 ・ディスカッションと発表を求めるため、最大 30 人定員とし、先着順とします。				
【評価方法】	ディスカッションへの参加状況、毎回のコメントペーパー(web 上での入力による提出)、レポート課題をもとに総合的に評価します。				
【テキスト】	尖戸常寿編著(2020)『18 歳から考える人権』法律文化社				
【参考書】	関連する文献は授業中に適宜紹介します。 教員がレジュメを毎回配布するため、テキストを購入する必要はありません。				
【備考】	高い専門性を求めない、主として 1・2 年生向けの科目として位置付けています。 毎回授業のはじめに、提出されたコメントペーパー(一部)について簡単にコメントを行うことがあります。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	ジャーナリズム論	Journalism studies			
【開講時期】	2025 年度後期	【開講時限】	金曜 5 限		
【科目責任者】	西恭之				
【担当教員】	＊小川和久、＊西恭之				
【授業目標】	民主主義におけるジャーナリズムの役割と、健康と安全へのリスクの報道の実態を理解し、メディアを通じた情報の受け手と発信者としての能力を高める。				
【授業概要】	災害・医療・食品など様々なリスクの報道を検証し、報道と誤報の構造をメディア組織と心理の両面から分析する。				
【授業方法】	対面授業。グローバル地域センター教員 2 名とゲスト講師がオムニバス方式で講義する。グループワークもおこなう。				
【授業展開】	第 1 回(10/3) なぜ、ジャーナリズム論か 第 2 回(10/10) メディアが見逃す危機管理の死角 第 3 回(10/17) 軍事報道が平和と安全を左右する 第 4 回(10/24) 誤報が平和を妨げる 第 5 回(10/31) 実名報道 第 6 回(11/7) ファクトチェック・ジャーナリズム(1) 第 7 回(11/14) ファクトチェック・ジャーナリズム(2) 第 8 回(11/21) 調査報道の方法 第 9 回(12/5) ジャーナリズムにおける中央・地方とジェンダー 第 10 回(12/12) ウェブジャーナリズムのゆくえ 第 11 回(12/19) 中国報道の取り組みと課題 第 12 回(1/9) 紛争地取材の取り組みと課題 第 13 回(1/15(木)) 食品・医療・環境のリスク認知 第 14 回(1/23) 安全・安心をどのように報道するか 第 15 回(1/30) 誤情報・偽情報対策とその限界 ＊講義内容および講義回の入れ替えの可能性がある。				
【履修条件】	無し				
【評価方法】	レポート 50%、その他の課題 30%、議論への参加 20%				
【テキスト】	小川和久『メディアが報じない戦争のリアル』SB 新書 猪谷千香『その情報はどこから?』ちくまプリマー新書 澤康臣『事実はどこにあるのか』幻冬舎新書 その他配布する。				
【参考書】	小川和久『フテンマ戦記』文藝春秋 同『危機管理の死角 狙われる企業、安全な企業』東洋経済新報社 同『メディアが報じない戦争のリアル』SB 新書 同『日本人が知らない台湾有事』文春新書 その他紹介する。				
【備考】	＊国や自治体の防災・危機管理・安全保障政策の立案と検証に関わっている教員(小川はジャーナリストとしての経験も有する)が、これらの分野におけるジャーナリズムの役割と課題について講義する。また、現役ジャーナリストが、専門分野において担当した報道について講義する。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入可

基礎分野Ⅱ

英語科目評価表(令和5年度以降入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP 受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E (不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59 以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59 以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59 以下
Low		100-90	89-75	74-60	59 以下

【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IP スコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IP スコア						
		670 以上	600 以上	550 以上	470 以上	400 以上	400 未満	未受験
教員授業評価	A	秀 (100)	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	不可
	B	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	不可
	C	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (60)	不可
	D	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IP スコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IP スコア						
		730 以上	670 以上	600 以上	550 以上	470 以上	400 以上	400 未満・未受験
教員授業評価	A	秀 (100)	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	不可
	B	秀 (95)	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	不可
	C	秀 (90)	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (65)	不可
	D	優 (85)	優 (80)	良 (75)	良 (70)	可 (65)	可 (60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

【科目名】	身体運動科学		【科目英語名】	Sports Science	
【開講時期】	1 年通年／編入 3 年通年	【必修区分】	選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	林 恵嗣				
【担当教員】	林 恵嗣				
【授業の概要】	運動を通して得られる恩恵について知り、運動に対する意欲的な態度を獲得することを目指す。併せて自己体力の現状も認識することで、生涯、健康で有意義な生活が送られるよう、各々の状況に即した適切な運動方法の習得を目指す。スポーツを行う中で、各人の健康や体力について考える機会とし、心身の健康を保つための方法を学び、ライフスタイルの中へスポーツを取り込めるよう実践する。				
【キーワード】	スポーツ、健康、体力				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 健康と運動の関わりについて説明できる。 2. 運動を楽しむために、仲間と協力することができる。 3. 自分の体力の現状を判断できる。 4. スポーツ実施に際し、安全について留意できる。 5. 実施種目の競技特性やルールを説明できる。				
【授業方法】	担当教員が学生の要望に考慮しながら、実施種目を決定する。実技(3/4)及び講義(1/4)を行う。講義は実技の合間を使って行われることもあり、講義室で行われることもある。進め方は、基礎から段階的に基本的技能を習得できるよう実習を進めていく。基本的には対面授業形式をとるが、場合によっては Universal Passport を活用した課題レポート学習を課すこともある。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	ガイダンス ①講義:運動・スポーツの意義 ②実施種目(前期 2 種目、後期 2 種目)の決定	適宜、指示する			
第 2 回	※以下は典型的な例(バドミントン、卓球、バレーボール、バスケットボール)を示す。 バドミントン:基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ルール説明、簡易ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第 3 回	バドミントン:基本技術の習得(フォア・バックの打ち方、ヘアピン)、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第 4 回	バドミントン:基本技術の習得(フォア・バックの打ち方、ヘアピン)、ゲーム(シングルス、ダブルス)	適宜、指示する			
第 5 回	バドミントン:実戦練習、ゲーム(シングルス、ダブルス)	適宜、指示する			
第 6 回	バドミントン:実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第 7 回	バドミントン:ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第 8 回	講義:熱中症の予防と対策	事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)			
第 9 回	卓球:基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ルール説明、簡易ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第 10 回	卓球:基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第 11 回	卓球:基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、実戦練習、ゲーム(シングルス)	適宜、指示する			
第 12 回	卓球:基本技術(フォア・バックの打ち方)の習得、実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第 13 回	卓球:実戦練習、ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第 14 回	卓球:ゲーム(ダブルス)	適宜、指示する			
第 15 回	講義:前期実施種目のルール確認	事後:授業内容に関する小テスト(Universal Passport 利用)			
第 16 回	講義:応急処置(RICE)について、運動強度を把握する方法	事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)			

第 17 回	バレーボール: 基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ルール説明、簡易ゲーム	適宜、指示する
第 18 回	バレーボール: 基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ゲーム	適宜、指示する
第 19 回	バレーボール: 基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、ゲーム	適宜、指示する
第 20 回	バレーボール: 基本技術の習得(アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、サーブ)、実戦練習、ゲーム	適宜、指示する
第 21 回	バレーボール: 実戦練習、ゲーム	適宜、指示する
第 22 回	バレーボール: ゲーム	適宜、指示する
第 23 回	ウォーキング・ジョギング	適宜、指示する
第 24 回	バスケットボール: 基本技術の習得(ドリブル、パス、シュート)、ルール説明	適宜、指示する
第 25 回	バスケットボール: 基本技術の習得(ドリブル、パス、シュート、レイアップシュート)、ゲーム	適宜、指示する
第 26 回	バスケットボール: 基本技術の習得(ドリブル、シュート、レイアップシュート)、ゲーム	適宜、指示する
第 27 回	バスケットボール: 基本技術の習得(シュート、レイアップシュート)、実戦練習、ゲーム	適宜、指示する
第 28 回	バスケットボール: 実戦練習、ゲーム	適宜、指示する
第 29 回	バスケットボール: ゲーム	適宜、指示する
第 30 回	講義: 後期実施種目のルール確認	事後: 授業内容に関する小テスト(Universal Passport 利用)
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	用具、施設、教育効果、安全面等を考慮し、履修人数を 40 名に設定する。 各学部開設されている時間帯での履修を原則とする。	
【関連科目】	特になし	
【評価方法】	全開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 講義への取り組み 70%(DP1-1: 到達目標 1~5 に対応)、レポートおよび事後課題 30%(DP1-1: 到達目標 1、4、5)とし、受講態度、技術習得度を考慮して総合的に評価する。	
【フィードバックの方法】	事後課題については、Universal Passport 上で解説します。	
【テキスト】	特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。	
【参考図書】	特に定めない。	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	なし	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	日本国憲法		The Constitution of Japan		
【開講時期】	2025 年度後期	【必修区分】	選択	【単位数】	2単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	根本猛				
【担当教員】	根本猛				
【授業の概要】	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れる。				
【キーワード】	立憲主義、人権、国民主権、平和主義				
【DPとの関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	国民主権、人権の尊重、平和主義など日本国憲法の基本原理を理解し、簡単な質問に答えられる				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第1回	憲法って何？	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第2回	国民主権と天皇制	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第3回	平和主義1 9条と自衛隊	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第4回	平和主義2 20 世紀末以降の展開	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第5回	人権って何？	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第6回	外国人の人権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第7回	法の下での平等	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第8回	人身の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第9回	信教の自由と政教分離	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第10回	表現の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第11回	職業の自由	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第12回	生存権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第13回	教育を受ける権利	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第14回	参政権	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
第15回	まとめ	事前：講義該当部分のテキストの予習 事後：授業後の課題の提出、復習			
【準備学習時間】	教科書の該当ページを読んでから授業に臨みましょう				
【履修条件】	特にありませんが、憲法や政治に関心がないと辛いです				
【評価方法】	開講回数の2／3以上の出席が単位認定の前提である。 毎回の課題の評価(90%)と期末試験(10%)で評価する(DP1-1:到達目標 1 に対応)。				
【フィードバックの方法】	必要に応じて講義内でフィードバックする				
【テキスト】	いちばんやさしい憲法入門／初宿正典ほか／有斐閣アルマ／ISBN 978-4641221505				
【参考図書】	特になし				
【アクティブラーニングを促す方法】	該当なし				

【実務経験のある 教員による授業】	* 憲法を専門とする講師が経験を交えて教授する。				
【その他】	各授業の前にはできるだけ教科書の該当箇所を読んで授業に臨みましょう。 なお、大学生になったら新聞を読もう。そして選挙では投票にも行きましょう。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	教育学	【科目英語名】	Pedagogy
【開講時期】	2 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	選択
【授業形態】	講義	【単位数】	2 単位
【科目責任者】	* 金 英美(非常勤)		
【担当教員】	* 金 英美(非常勤)		
【授業の概要】	「看護において教育学がなぜ必要なのか?」という問いから始め、教育学の基本的な考え方である「学ぶこと・教えること」を中心として教育学の基本概念を理解し、看護職における教育学の必要性・重要性和、教育学の理論にもとづいて自身のキャリアを考えられるようにする。その他、多職種との関わり方や多様性に富んだ患者との関わり方について考える。		
【キーワード】	教育学、コミュニケーション、発達、キャリア		
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6		
【到達目標】	1. 人間の発達段階における学ぶことと教えることについて理解する。 2. 「指導」や「学習」に関する基本的知識を理解し、看護業務に活かし方について考える。 3. 看護専門職としてキャリア開発や他職種との関わりによる専門性向上について考える。		
【授業方法】	講義形式を基本とするが、理解を深めるために映像視聴、資料分析を行ない、それをもとにグループワークを行なう。教科書や配布資料は事前に読んでくること。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第 1 回	オリエンテーション(授業の目標と内容、進め方、評価の方法など)	適宜指示する	
第 2 回	人間の発達と学習1: 看護において教育学は必要か?	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 3 回	人間の発達と学習2: 学ぶことと教えること/人間の発達を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 4 回	人間の発達と学習3: 学習の原理を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 5 回	指導の基本1: 指導者の役割と倫理を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 6 回	指導の基本2: 指導を設計する/効果的に指導する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 7 回	指導の基本3: 学習を評価する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 8 回	指導の技法1: 学習意欲を高める技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 9 回	指導の技法2: コーチングの技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 10 回	指導の技法3: ディスカッションの技法	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 11 回	キャリア開発と学習1: 看護師としての学習を理解する	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	
第 12 回	キャリア開発と学習2: 看護職に関わる職種について学習し関わり方を考える。	事前課題: 配布資料の予習 事後課題: 講義内容をふまえ資料を用いて復習	

第 13 回	キャリア開発と学習3: 看護職としてのキャリア開発に向けて学習する	事前課題:配布資料の予習 事後課題:講義内容をふまえ資料を用いて復習
第 14 回	現代社会の多様性による教育課題を学習する	事前課題:配布資料の予習 事後課題:講義内容をふまえ資料を用いて復習
第 15 回	まとめ	講義内容をふまえ資料を用いて復習
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	特になし	
【関連科目】	なし	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。期末テスト 50%(DP1-1:到達目標 1, 2, 3 に対応)、授業中に記述するリアクションペーパー50%(DP1-1:到達目標 2 に対応)で評価する。	
【フィードバックの方法】	・質問、コメント、感想は各授業のリアクションペーパー提出時に受付、次回授業時、または個別に返答を行う。	
【テキスト】	看護のための教育学 第2版 医学書院	
【参考図書】	毎回の授業時に配布するレジュメで紹介する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	日本の国立病院における医療相談職の経験、韓国教育研究院における教育政策研究の経験を持った教員が、病院内の多職種の関わり方や多様性に富んだ患者の理解及び援助を教育学的アプローチに基づいて講義する。	
【その他】	授業計画は受講者との相談により変更することができる。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	基礎セミナーI		【科目英語名】	Seminar in Fundamental Science I	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、* 荒井孝子、* 予定教員、* 濱井妙子、予定教員、* 竹熊カツマタ麻子、* 根岸まゆみ、* 鈴木千智、* 小原陽子、* 池田美音、* 池田麻左子、* 山本祐子、野呂幾久子(非常勤講師)				
【授業の概要】	科学的根拠に基づいて物事を判断する力を養うために、課題の設定、情報の検索、真偽の検討、結果の要約における基本を理解し、道筋を立て、段階的に考える論理的思考ができるようになる。また、発表、討論、文章作成の基本や手法を学び、表現スキルを身につけ、自分の思考プロセスを他者にわかりやすく説明できるようになる。				
【キーワード】	論理的思考、論理的文章、科学的根拠				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 信頼できる情報源から必要な情報を取得することができる。 2. 課題の設定から結論に至るまでの思考のプロセス、思考の根拠を説明できる。 3. 自分が主張したい内容について他者に判るように発表し、他者の意見や疑問に答えることができる。 4. 科学的表現を用いてレポートを作成できる。				
【授業方法】	全体でのオリエンテーション、講義の後、グループワーク(プレゼンテーション・レポート作成)を行う。グループは各 10 名程度で、扱うテーマはグループワーク初回にグループメンバーと担当教員で議論して決定する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	科目オリエンテーション、レポートの構造・課題の設定(三崎健太郎)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 2 回	情報検索について、情報検索演習(三崎健太郎) 基礎計算問題演習、文章表現の正確さ(濱井妙子)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 不正解範囲の復習			
第 3 回	情報検索について、情報検索演習(三崎健太郎) 基礎計算問題演習、文章表現の正確さ(濱井妙子)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 不正解範囲の復習			
第 4 回	パラグラフライティング・接続詞、プレゼンテーションスキル(三崎健太郎)	事前: テキスト対応箇所を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 5 回	グループワーク①-1: テーマ設定、発表資料作成(担当教員全員)	事前: 調べたいテーマを考えてくること 事後: 発表資料作成			
第 6 回	グループワーク①-2: 発表資料作成(担当教員全員)	事前・事後: 情報検索、発表資料作成			
第 7 回	グループワーク①-3: 発表資料作成(担当教員全員)	事前・事後: 情報検索、発表資料作成			
第 8 回	グループワーク①-4: 発表、討論(担当教員全員)	事前: 発表資料作成 事後: 討論内容のまとめ			
第 9 回	グループワーク①-5: 発表、討論(担当教員全員)	事前: 発表資料作成 事後: 討論内容のまとめ			
第 10 回	レポートの書き方(三崎健太郎)	事前: テキスト、配布資料を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 11 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 12 回	論理的文章の書き方(野呂幾久子)	事前: テキスト、配布資料を読んでくること 事後: 配布資料の要点整理			
第 13 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 14 回	レポートの作成(担当教員全員)	事前・事後: レポート作成			
第 15 回	まとめ、レポートの提出(担当教員全員)	事前: レポート作成 事後: 講義全体をとおしての自己評価			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 成績は発表・討論 50%(DP2:到達目標 1～3 に対応)、レポート 50% (DP2:到達目標 1～2、4 に対応)で評価する。				
【フィードバックの	発表に対しては、発表後に担当教員が評価コメントを伝える。レポートに対しては、担当教員が成績確定後に				

【方法】	評価コメントを返却する。返却の方法や時期はグループの担当教員と学生で相談して決定する。				
【テキスト】	フレッシュマンセミナーテキスト(最新版)／初年次教育テキスト編集委員会 編／東京電機大学出版局／978-4-5016-2850-5				
【参考図書】	適宜配布・紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師、保健師、薬剤師の実務経験のある教員が、経験を活かした演習を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎セミナーⅡ		【科目英語名】	Seminar in Fundamental SciencesⅡ	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊井上 健一郎				
【担当教員】	＊井上 健一郎				
【授業の概要】	患者の訴え(主訴)から疾患の診断までの思考過程を確立するために、患者背景、身体診察、検査結果の解析・解釈、診断への過程を検証する。 前半で症例理解に資するための画像検査の種類、原理から読影までを概説し、後半ではその知識とこれまでの学習内容を統合させて、提示された症例の検討を教員のディレクションのもとに行う。				
【キーワード】	診断 検査 症例				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 臨床検査や各種画像等のデータの臨床的意味を医学的に理解できる。 2. 臨床で得られる情報(検査・画像データ)を医学的側面からアセスメントに適用・応用できる。				
【授業方法】	講義およびグループワークと発表				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	画像診断概論(画像検査の種類とその意義)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 2 回	単純レントゲン(頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 3 回	造影レントゲン(脳血管系、循環器系、尿路系等)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 4 回	CT (頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 5 回	MRI (頭部、胸部、腹部)の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 6 回	超音波検査の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 7 回	核医学検査の原理と画像の理解	事前:教科書の該当頁の通読 事後:発表資料の復習			
第 8 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の通読 事後:各グループの発表資料の復習			
第 9 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 10 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 11 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 12 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 13 回	提示症例の診断アセスメント(グループワーク)	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:各グループの発表資料の復習			
第 14 回	グループワークの結果発表	事前:提示症例の診断アセスメント分析 事後:全グループの発表資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	1 年次の必修科目を修了していること。				
【関連科目】	症候論、機能形態学、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はグループワークの発表プレゼンテーション 50%(DP2:到達目標 1～2 に対応)、課題レポート 50%(DP2:到達目標 1～2 に対応)で評価する。				
【フィードバックの】	必要時、講義時間内においてコメントする。				

【方法】					
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野／医学書院（病態学で使用したテキスト） その他、適宜提示する。				
【参考図書】	イヤーノート 内科・外科編（最新版）／岡庭豊（編）／メディックメディア／978-4-8963-2853-0 その他、適宜提示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他（ ） ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊医師の実務経験のある教員が、経験を生かした演習を実施し、臨床的意義を解説する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュ I		【科目英語名】	Freshman English I	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	時間 30 時間
【科目責任者】	*田中裕実				
【担当教員】	*田中裕実 (1 クラス)、*Arshavskaya E. (2 クラス)、*田中裕実 (3 クラス)、*久保田育子 (4 クラス)				
【授業の概要】	基礎的な英語能力の定着と TOEIC の出題形式の把握を平行して行う。				
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	英語の文構造やパラグラフ構成を正しく理解しながら、読み聞かせる。 英語の基礎的な音声を聞き分け、会話やトークを聴解できる。 限られた時間内で正確に英文を読解できる。				
【授業方法】	教科書にそって、演習方式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】 語彙、センテンスの文法構造、パラグラフの構成、3つのレベルから体系的に英語を理解する。また、こうした理解をとおして、TOEIC の出題形式についても学んでいくとともに、アカデミックなリーディング教材を取り入れ英語スキルをブラッシュアップしていく。			【事前・事後課題】 事前学習：必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習：間違えた問題を確認すること。 LUT: Level-up Trainer for the TOEIC Test	
第 1 回	Introduction; Pre-Test			なし	
第 2 回	Part 5 Incomplete Sentences – Grammar (Units 1-6)			LUT: Part5 (U1-6)	
第 3 回	Part 5 Incomplete Sentences – Vocabulary (Units 7-12)			LUT: Part5 (U7-12)	
第 4 回	Part 6 Text Completion (Units 1-12)			LUT: Part6 (U1-12)	
第 5 回	Part 7 Reading Comprehension – Single Passages (Units 1-6)			LUT: Part7 (U1-6)	
第 6 回	Part 7 Reading Comprehension – Double/Triple Passages (Units 7-12)			LUT: Part 7 (U7-12)	
第 7 回	Reading Review			既習事項の復習	
第 8 回	Part 2 Question-Response – Wh/Yes-No Questions (Units 1-6)			LUT: Part 2 (U1-6)	
第 9 回	Part 2 Question-Response – Statements (Units 7-12)			LUT: Part 2 (U7-12)	
第 10 回	Part 3 Short Conversations – Situations (Units 1-6)			LUT: Part 3 (U1-6)	
第 11 回	Part 3 Short Conversations – Question Types (Units 7-12)			LUT: Part 3 (U7-12)	
第 12 回	Part 4 Short Talks – Organization (Units 1-6)			LUT: Part 4 (U1-6)	
第 13 回	Part 4 Short Talks – Implication (Units 7-12)			LUT: Part 4 (U7-12)	
第 14 回	Listening Review			既習事項の復習	
第 15 回	Practice session			既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内課題・予習・復習・小テストなど 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	Level-up Trainer for the TOEIC Test Student Book Revised Edition (Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技術を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅡ		【科目英語名】	Freshman English II	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Mostafanezhad M.				
【担当教員】	*Mostafanezhad M. (Class 1)、Figer R. (Class 2)、*Figer R. (Class 3)、*Arshavskaia E. (Class 4)				
【授業の概要】	This course aims to develop students' communicative skills in academic settings.				
【キーワード】	communication, writing, reading, paragraph, organization				
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☐ DP1-2 ☐ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6				
【到達目標】	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can correct and edit their own writings.				
【授業方法】	The textbook including an online workbook guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to revise and edit their writings through the review process.				
【授業計画】	【授業内容】 U: Unit, R: Reading			【事前・事後課題】	
第 1 回	Introduction			N/A	
第 2 回	U1 Sociology: R1 Small talk (Identifying a causal chain)			U1 R1	
第 3 回	R2 Interview 21 st century job interview			U1 R2	
第 4 回	Writing “how to” paragraph 1: brainstorming & planning			Brainstorming & planning	
第 5 回	Writing “how to” paragraph 2: drafting			Drafting	
第 6 回	Revising & editing			Revising & editing	
第 7 回	Midterm review			Preparing for the review	
第 8 回	U2 Nutritional science: R1 Knowing your tastes (Making inferences)			U2 R1	
第 9 回	R2 Eating with our eyes			U2 R2	
第 10 回	Writing a descriptive paragraph 1: using adjectives			Brainstorming & planning	
第 11 回	Writing a descriptive paragraph 2: drafting			Drafting	
第 12 回	Revising & editing			Revising & editing	
第 13 回	Final project: Selecting & narrowing down a topic for writing			Preparing for the project	
第 14 回	Organizing your draft			Drafting	
第 15 回	Term review			Writing and revising a paragraph regarding	
第 16 回	Final examination (in-class or take-home)			the final project	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【関連科目】	N/A				
【評価方法】	More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”). Preparations, in-class activities (group work discussion and presentation), and quizzes 60%, Exams 40%				
【フィードバックの方法】	Based on pre-submitted assignments, each instructor will give feedback to students in class.				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3 rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考図書】	N/A				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	Based on the instructor's previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students' English skills.				
【その他】					
【社会人聴講生】	Not allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅢ		【科目英語名】	Freshman English III	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*田中裕実				
【担当教員】	*久保田育子（クラス 1）、*田中裕実（クラス 2）、*藤森敦之（クラス 3）				
【授業の概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEIC の出題形式の把握、(iii)リーディング力の強化を平行して行う。				
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。 2 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。 3 限られた時間内で正確に英文読解できる。 4 英語による簡単なコミュニケーションができる。				
【授業方法】	教科書に沿って、演習形式で授業を進める。授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。				
【授業計画】	【授業内容】 ★テキスト(T) TOEIC Test Trainer Target 650			【事前・事後課題】 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。	
第 1 回	Introduction			なし	
第 2 回	(T) Unit 1 提案・時制 1			(T) Unit 1	
第 3 回	(T) Unit 2 確認時制 2（進行形・完了形）			(T) Unit 2	
第 4 回	(T) Unit 3 会話を始める助動詞			(T) Unit 3	
第 5 回	(T) Unit 4 ニュース報道フレーズリーディング			(T) Unit 4	
第 6 回	(T) Unit 5 義務代名詞			(T) Unit 5	
第 7 回	(T) Unit 6 理由前置詞			(T) Unit 6	
第 8 回	Midterm Review			既習事項の復習	
第 9 回	(T) Unit 7 苦情接続詞			(T) Unit 7	
第 10 回	(T) Unit 8 交通情報スキミング			(T) Unit 8	
第 11 回	(T) Unit 9 Yes/No で答える質問 関係詞			(T) Unit 9	
第 12 回	(T) Unit 10 意見分詞構文			(T) Unit 10	
第 13 回	(T) Unit 11 意見の一致・不一致仮定法			(T) Unit 11	
第 14 回	(T) Unit 12 会議一スキミング			(T) Unit 12	
第 15 回	Final Review			既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内課題・予習・復習・クイズ 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。（詳細は初回の授業で案内する）				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 650 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅢ		【科目英語名】	Freshman English III	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Arshavskaia E.				
【担当教員】	*Arshavskaia E. (クラス 4)				
【授業の概要】	実際の授業では、前期に引き続き(i)基礎的な英語能力の定着、(ii)TOEIC の出題形式の把握、(iii)リーディング力の強化を平行して行う。				
【キーワード】	リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1 英語の基礎的音声を聞き分けることができる。 2 英語の文構造やパラグラフ構成を理解しながら、読み聞きできる。 3 限られた時間内で正確に英文読解できる。 4 英語による簡単なコミュニケーションができる。				
【授業方法】	教科書に沿って、演習形式で授業を進める。授業は以下のような内容と文法項目を軸にして進めて行く。				
【授業計画】	【授業内容】 ★テキスト(T) TOEIC Test Trainer Target 470			【事前・事後課題】 事前学習:必ず授業で行うページの予習課題を授業前に提出すること。 事後学習:間違えた問題を確認すること。	
第 1 回	Introduction			なし	
第 2 回	(T) Unit 1 予定_動詞・5文型			(T) Unit 1	
第 3 回	(T) Unit 2 数量を尋ねる_名詞			(T) Unit 2	
第 4 回	(T) Unit 3 命令・依頼_形容詞・副詞			(T) Unit 3	
第 5 回	(T) Unit 4 広告・宣伝_フレーズリーディング			(T) Unit 4	
第 6 回	(T) Unit 5 時間を尋ねる_動名詞			(T) Unit 5	
第 7 回	(T) Unit 6 場所を尋ねる_to 不定詞			(T) Unit 6	
第 8 回	Midterm Review			既習事項の復習	
第 9 回	(T) Unit 7 確認_分詞			(T) Unit 7	
第 10 回	(T) Unit 8 留守電_スキミング			(T) Unit 8	
第 11 回	(T) Unit 9 アドバイス_受動態			(T) Unit 9	
第 12 回	(T) Unit 10 誘い_比較			(T) Unit 10	
第 13 回	(T) Unit 11 申し出_関係詞			(T) Unit 11	
第 14 回	(T) Unit 12 講演者紹介_スキミング			(T) Unit 12	
第 15 回	Final Review			既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	毎日少しずつ英語に触れながら、授業に臨むこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向かった授業内課題・予習・復習・クイズ 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	TOEIC Test Trainer Target 470 Revised Edition Student Book (Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	フレッシュマンイングリッシュⅣ		【科目英語名】	Freshman English IV	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Figer R.				
【担当教員】	*Figer R. (クラス 1)、*Figer R. (クラス 2)、*Arshavskaia E. (クラス 3)、*Mostafanezhad M. (クラス 4)				
【授業の概要】	This course further provides students with opportunities to enhance their communication skills in academic settings				
【キーワード】	communication, writing, reading, critical thinking, paragraph, essay, organization				
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☐ DP1-2 ☐ DP2 ☒ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6				
【到達目標】	Students can identify the necessary elements of a paragraph in reading. Students can write a coherent paragraph in English. Students can write a short essay consisting of multiple paragraphs. Students can correct and edit their own writings.				
【授業方法】	The textbook including an online workbook guides students through the process of writing different types of paragraphs while referring to writing models. Students develop their confidence in brainstorming, planning, and drafting. They also learn how to expand, revise and edit their writings through the review process.				
【授業計画】	【授業内容】 R: Reading			【事前・事後課題】	
第 1 回	Introduction			N/A	
第 2 回	U3 Information technology: R1 Cars that think (Identifying (dis)advantages)			U3 R1	
第 3 回	R2 Classrooms without walls			U3 R2	
第 4 回	Writing a summary and personal response 1: brainstorming & planning			Brainstorming & planning	
第 5 回	Writing a summary and personal response 2: drafting			Drafting	
第 6 回	Revising & editing			Revising & editing	
第 7 回	Midterm review			Preparing for the review	
第 8 回	U4 Marketing: R1 Can targeted ads change you? (Distinguishing facts from opinions)			U3 R1	
第 9 回	R2 In defense of advertising (Using a Venn diagram)			U3 R2	
第 10 回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 1: brainstorming & planning			Brainstorming & planning	
第 11 回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 2: Researching			Drafting	
第 12 回	Writing an opinion essay with multiple paragraphs 3: drafting			Revising & editing	
第 13 回	Revising & editing 1			Preparing for the project	
第 14 回	Revising & editing 2			Drafting	
第 15 回	Term review			Writing and revising a paragraph regarding the final project	
第 16 回	Final examination (in-class or take-home)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	This is a freshman English course designed for first year students. Students are required to complete assignments to prepare for each lesson.				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅡ				
【評価方法】	More than five absences will result in failure (i.e., a grade of “E”). 60% (in-class activities and homework) + 40% (Mid-term exam, Final presentation)				
【フィードバックの方法】	Based on pre-submitted assignments, each instructor will give feedback to students in class.				
【テキスト】	Q Skills for Success Reading and Writing 3A, 3 rd Edition, Student Book with iQ Online Practice (OUP)				
【参考図書】	Not used				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	Based on the instructor’s previous non-academic professional experience, the instructor can apply transferable skills to contribute to developing students’ English skills.				

【その他】					
【社会人聴講生】	Not allowed	【科目等履修生】	Not allowed	【交換留学生】	Not allowed

【科目名】	英語コミュニケーションⅠ		【科目英語名】	English CommunicationⅠ	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	*Figer R.				
【担当教員】	*Figer R. (クラス 1)、*久保田育子 (クラス 2)、*Mostafanezhad M. (クラス 3)、*田中 裕実 (クラス 4)				
【授業の概要】	コミュニケーション能力の向上には基礎となる1)文法力の定着、2)パラグラフリーディングの訓練、3)語彙力の強化、4)英語音声の特徴への慣れ、5)素早い理解が必要である。本授業では時間を計測しながら TOEIC 形式の実践問題に繰り返し取り組み、つまづく箇所を確認しつつ、1)～5)を促進する。また、テキストの音源を活用したアウトプットの練習を行うことでリスニング力の強化も図る。				
【キーワード】	タイムド・リーディング、リスニング、文法、文章構成、語彙、TOEIC 実践				
【DP との関連】	■DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を理解できる。 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 科学、医療に関連する内容を英語で簡潔に話すことができる。				
【授業方法】	実践演習を行い、レベル毎につまづく箇所を教員と確認・復習する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	Introduction			なし	
第 2 回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1)			Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 1)の復習	
第 3 回	Listening Parts 3 & 4			Listening Parts 3 & 4 の復習	
第 4 回	Reading Parts 5 & 6			Reading Parts 5 & 6 の復習	
第 5 回	Reading Parts 7			Reading Parts 7 の復習	
第 6 回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2)			Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 2)の復習	
第 7 回	Listening Parts 3 & 4			Listening Parts 3 & 4	
第 8 回	Midterm review			既習事項の復習	
第 9 回	Reading Parts 5 & 6			Reading Parts 5 & 6	
第 10 回	Reading Parts 7			Reading Parts 7	
第 11 回	Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3)			Listening Parts 1, 2 & 3 (Test 3)	
第 12 回	Listening Parts 3 & 4			Listening Parts 3 & 4	
第 13 回	Reading Parts 5 & 6			Reading Parts 5 & 6	
第 14 回	Reading Parts 7			Reading Parts 7	
第 15 回	Review			既習事項の復習	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	復習を必ず行うこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅠ/Ⅲ				
【評価方法】	開講回数の 4/5 以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向けた授業内活動・復習課題・小テストなど 60%、定期試験 40%で評価する。 TOEIC-IP テストを対面実施した場合、基本的に 400 点以上獲得することが単位取得要件となる。また、授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	TOEIC L&R テスト 究極の模試 600 問+ (アルク)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	感染症拡大等の状況によっては、遠隔授業を実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	英語コミュニケーションⅡ		【科目英語名】	English CommunicationⅡ	
【開講時期】	2年後期／編入4年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30時間
【科目責任者】	*Mostafanezhad M.				
【担当教員】	*Mostafanezhad M. (クラス1)、*Figer R. (クラス2)、*田中裕実 (クラス3)、*久保田育子 (クラス4)				
【授業の概要】	グローバル化が急速に浸透し、英語コミュニケーション力が不可欠になってきた現代において、日本あるいは海外の医療現場で直面するさまざまな文化・社会・価値観を理解し、具体的な状況に適切に対応できる英語力が必要である点を重視し、授業ではアクティブラーニングを実践して「看護英語」の習得に努め、コミュニケーションに積極的に参加する態度を養う。				
【キーワード】	ESP、実践英語、コミュニケーション				
【DPとの関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	科学、医療に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を理解できる。 科学、医療に関連する英語の代表的な用語、英語表現を理解できる。 科学、医療に関連する内容を英語で簡潔に話すことができる。				
【授業方法】	授業は教科書に沿って進めて行く→まず、医療・看護に関する単語の知識を修得する。また、リスニング教材を通して英語表現の音に慣れるとともに使用される場面の理解に努める。まとめとして、学習した表現や文法事項を用いて、英語運用能力の促進を目指す。具体的にはペア・ワークやグループ・ワークなどを積極的に取り入れて実際の場面を想定しながら多様化した言語活動を行っていく。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第1回	授業の進め方・評価方法について説明。英語自己紹介。			なし	
第2回	Unit 1: Meeting Patients			Unit 1 の予習、次週クイズの準備	
第3回	Unit 2: Taking a Medical History			Unit 2 の予習、次週クイズの準備	
第4回	Unit 3: Assessing Patients' Symptoms			Unit 3 の予習、次週クイズの準備	
第5回	Unit 4: Taking Vital Signs			Unit 4 の予習、次週クイズの準備	
第6回	Review: Units 1-4 小テスト1			既習事項の復習	
第7回	Unit 5: Taking a Specimen			Unit 5 の予習、次週クイズの準備	
第8回	Unit 6: Taking Medical Examinations			Unit 6 の予習、次週クイズの準備	
第9回	Unit 7: Assessing the Pain			Unit 7 の予習、次週クイズの準備	
第10回	Unit 8: Advising about Medication			Unit 8 の予習、次週クイズの準備	
第11回	Review: Units 5-8 小テスト2			既習事項の復習	
第12回	Unit 9: Improving Patients' Mobility			Unit 9 の予習、次週クイズの準備	
第13回	Unit 10: Maintaining a Good Diet			Unit 10 の予習、次週クイズの準備	
第14回	Unit 11: Caring for Inpatients			Unit 11 の予習、次週クイズの準備	
第15回	Unit 12: Coping with Emergencies Review: Units 9-12 小テスト3			Unit 12 の予習、プレゼンテーション準備	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	予習・復習を必ず行うこと。				
【関連科目】	フレッシュマンイングリッシュⅡ/Ⅳ				
【評価方法】	開講回数の4/5以上の出席が単位認定の前提である。 到達目標に向かった授業内課題・事前学習・授業内課題・クイズ 60%、試験・プレゼンテーション 40%で評価する。授業内評価はクラスのレベルに基づいたスケール評価が適応される。(詳細は初回の授業で案内する)				
【フィードバックの方法】	事前学習の回答や質問に対し、授業内でフィードバックを返していく。				
【テキスト】	Caring for people: Student Book(医療分野で働くためのコミュニケーションコース)(Cengage Learning)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	プロフェッショナルな実務経験を有する教員が、転換可能な技能を活かして、学生の英語学習を指導する。				
【その他】	感染症拡大等の状況によっては、遠隔授業を実施する。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

專 門 基 礎 分 野

【科目名】	身体と心のセクシュアリティ		【科目英語名】	Human Sexuality	
【開講時期】	1 年前期/編入 3 年前期	【必修区分】	必須	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 太田 尚子				
【担当教員】	* 太田 尚子 * 藤田 景子 * 中川 有加 * 福島 恭子 * 大和田 裕美 * 長屋 和美 * 池田 美音 * 高橋 明味				
【授業の概要】	人間にとっての性、基本的人権としての性について、セクシュアリティの概念やその特徴をもとにとらえ、具体的に、男女の身体の違いから、性ホルモンの変化、性感染症、避妊 等、性に関する課題を明確にし、対処方法や自分の考えを深める機会とする。				
【キーワード】	セクシャリティ、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、多様性				
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☐ DP1-2 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☒ DP5 ☐ DP6				
【到達目標】	1. セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関連する基本的な概念について理解し、身体的・心理的・発達の・社会文化的な観点から説明できる。 2. 人間の生活行動に影響するセクシュアリティの多様性について、関心を持つことができる。 3. セクシュアリティの発達や若者の性意識・性行動、性の健康について、関心を持つことができる。 4. 性感染症、避妊、人工妊娠中絶、性暴力など、性に関する課題に関心を持ち、意思決定の方法や対処方法について考えることができる。				
【授業方法】	講義形式				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	セクシュアリティの概念、基本的人権としての性（中川有加）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 2 回	セクシュアリティの発達と課題（大和田裕美）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 3 回	性行動と性意識：現代の日本人の実態と性規範、若者の性意識・性行動の実態（福島恭子）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 4 回	プレコンセプショナル・ケア、大学生の性、性の健康、ライフプラン（長屋和美）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 5 回	性感染症と人工妊娠中絶（高橋明味）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 6 回	性暴力について（藤田景子）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 7 回	助産師による「いのち」の教育（池田美音）			事前：講義に関連した内容を予習する。 事後：学び・気づきを小レポートにまとめる。	
第 8 回	まとめ（太田 尚子、藤田 景子、中川 有加、福島 恭子、大和田 裕美、長屋 和美、池田 美音、高橋 明味）			事前：全講義の内容を復習する。 事後：全講義の資料を用いて復習する。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 小レポート 100%(DP2・5:到達目標 1～4 に対応)、で評価する。レポートは、ルーブリック評価表を用いて評価し、全てのレポートと評価表は採点して返却する。				
【フィードバックの方法】	小レポートに書かれていた質問や疑問に対して回答する。回答は、一週間後以降に講義の中で解説するか、あるいはユニバに掲示する。				
【テキスト】	特に指定しない				
【参考図書】	講義の中で適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 助産師として臨床実務経験豊富な教員が、その経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人間関係論Ⅰ		【科目英語名】	Human RelationsⅠ	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 篠宗一				
【担当教員】	* 篠宗一、* 近藤美保、* 小泉祐貴、* 佐藤浩一				
【授業の概要】	一生涯を通じての精神的な発達について知識を深め、自からの体験を振り返りながらその過程とライフイベントの影響を理解する。さらに、ストレスやその対処方法についての基本的知識を学ぶ。これらのことを通して、看護の対象となる人間の本質・特性に関する理解を深め、看護師としての人間関係や業務の中で生じる各種ストレスへの対処方法を学ぶ。				
【キーワード】	ライフステージ、メンタルヘルス、生涯発達、ストレス				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人は一生涯を通じて精神的に発達する。その過程とそこでの問題点を理解し説明することができる。 2. ストレスやその対処方法についての基本的知識を学び、説明することができる。				
【授業方法】	講義を中心として行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	人間関係論の概要（篠宗一）	事前: 該当ページの予習 事後: 配布資料の復習			
第 2 回	発達段階Ⅰ 誕生から3歳まで（篠宗一）	事前: 1 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 3 回	発達段階Ⅱ 3 歳から学童期まで（近藤美保）	事前: 2 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 4 回	発達段階Ⅲ 思春期から青年期まで（佐藤浩一）	事前: 3 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 5 回	発達段階Ⅳ 成人前期から成熟期まで（近藤美保）	事前: 4 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 6 回	発達段階Ⅴ 老年期（近藤美保）	事前: 5 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 7 回	ストレスについて～ストレス自己診断・他（小泉祐貴）	事前: 6 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習			
第 8 回	まとめ（篠宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	人間関係論Ⅱ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 定期試験 70%(DP1-2:到達目標 1～2 に対応)、レポート 30%(DP2:到達目標 1～2 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題はユニバの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントする。				
【テキスト】	生涯人間発達論（第3版）／服部祥子／医学書院／978-4-260-04133-1				
【参考図書】	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論／長谷川浩／医学書院／978-4-260-35528-5				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして講義を行う。				
【その他】	講義予定は変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	人間関係論Ⅱ		【科目英語名】	Human Relations Ⅱ	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 近藤美保				
【担当教員】	* 近藤美保、 * 簗宗一、 * 小泉祐貴、 * 佐藤浩一				
【授業の概要】	社会的存在としての人間と、人間を取り巻く環境や人間関係の中で生じる様々なストレスやストレス対処についての理解を深める。さらに、歴史的経過の中で、人間を対象として看護を行ってきた看護師自身のストレスの存在を知り、現代における対処方法を知ること、看護師自身の精神的健康維持に活用する力を養う。				
【キーワード】	ライフステージ、メンタルヘルス、生涯発達、ストレス				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人間(及び看護師)を取り巻く環境や人間関係の中で生じる様々なストレスについて理解を深め、それについて説明することができる。 2. ストレスの対処方法としてのリラクゼーションについて、説明することができる。				
【授業方法】	講義が中心であるが、講義内容に応じてグループワークや演習等を取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	社会的存在としての人間（簗宗一）		事前: 該当ページの予習 事後: 配布資料の復習		
第 2 回	危機の概念と予防・危機介入①(佐藤浩一)		事前: 1 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 3 回	危機の概念と予防・危機介入②(佐藤浩一)		事前: 2 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 4 回	看護師のストレス・感情労働について（小泉祐貴）		事前: 3 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 5 回	ストレス・コーピングについて（佐藤浩一）		事前: 4 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 6 回	リラクゼーション・マインドフルネスについて（近藤美保）		事前: 5 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 7 回	リラクゼーションの方法（近藤美保）		事前: 6 回目提示の課題を行う 事後: 配布資料の復習		
第 8 回	まとめ(簗宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	人間関係論Ⅰ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 レポート 70%(DP2: 到達目標 1～2 に対応)、課題学習 30%(DP1-2: 到達目標 1～2 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題はユニバの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントする。				
【テキスト】	書籍のタイトル(サブタイトル)／著者名／出版社名／ISBN				
【参考図書】	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論／長谷川浩／医学書院／978-4-260-35528-5				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*メンタルヘルスに関わる看護師、保健師等の実務経験のある教員がその経験を活かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	臨床心理学		【科目英語名】	Clinical Psychology	
【開講時期】	2 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊ 簗宗一				
【担当教員】	＊ 非常勤講師(水越三佳・矢野陵子・山本弘一)、＊ 簗宗一、＊ 近藤美保、＊ 小泉祐貴、＊ 佐藤浩一				
【授業の概要】	臨床心理学の目的は、人間の不適応な行動や心の問題を理解し、より健康な方向に導くために、知識と技術を駆使して、人を援助することである。 本講義では、[1] 臨床心理学とは何か、[2]心に表れる様々な症状について、[3]代表的な心理療法とカウンセリング、[4]看護場面における患者理解と関わり方について学び、人間理解を深めるとともに、援助法について実習する。				
【キーワード】	メンタルヘルス、マインドフルネス、心理、カウンセリング				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人間の不適応な行動や心の問題を理解し、説明できる。 2. 目の前にいる悩み苦しむ人に対し、どのように援助・治療するのか、知識や技術の基本について説明できる。				
【授業方法】	講義を中心とするが、簡単なワークやロールプレイング、具体的な臨床事例を用いたディスカッションなどの実習・実技、ビデオ教材なども取り入れる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	臨床心理学とは～事例から心理学的アプローチを学ぶ (水越三佳)	事前:該当ページの予習 事後:配布資料の復習			
第 2 回	精神科病院における臨床心理学 1 (矢野陵子)	事前:1回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 3 回	精神科病院における臨床心理学 2 (矢野陵子)	事前:2回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 4 回	児童虐待の臨床 (水越三佳)	事前:3回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 5 回	一般病院における臨床心理学 1 (山本弘一)	事前:4回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 6 回	一般病院における臨床心理学 2 (山本弘一)	事前:5回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 7 回	心理検査実習～自らの性格特徴をつかみ、看護に役立てる (水越三佳)	事前:6回目提示の課題を行う 事後:配布資料の復習			
第 8 回	まとめ(簗宗一・近藤美保・小泉祐貴・佐藤浩一)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題学習 70%(DP1-2:到達目標 1～2 に対応)、課題学習 30%(DP2:到達目標 1～2 に対応)を総合して評価する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーへの質疑は適宜、メールまたは次回授業開始時に回答を行う。 ・レポート課題はユニバの課題提出機能を用いて提出し、教員よりコメントする。				
【テキスト】	プリントを配布する。参考書を授業で提示する。				
【参考図書】	随時紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊ メンタルヘルスに関わる心理職等が、その経験を活かして講義を行う。				
【その他】	講義の順番等、講義予定は変更する可能性がある。				
【社会人聴講生】	静聴できる方は可	【科目等履修生】	静聴できる方は可	【交換留学生】	静聴できる方は可

【科目名】	健康行動論		【科目英語名】	Health Behavior	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	西田公昭(非常勤)				
【担当教員】	西田公昭(非常勤)				
【授業の概要】	現代人の健康を脅かす要因には、嗜好や生活習慣がある。人は身体に悪いと知りながらそうした行動を繰り返している場合も多い。また医師や看護師の指導を守らず自殺的な行動をとる人もいる。そうした問題をどう理解するか健康心理学的基礎を講義する。健康心理学とは社会心理学の応用であり、本講義では、大まかには、1) 態度および社会的認知: 医療に関わる社会問題の心理学的理解、2) 行動と精神との相互影響過程: メンタル・ヘルスや治療の社会的要因、3) 行動変容や態度変容の理論的基礎について述べる。				
【キーワード】	習慣的行動、非合理的思考、心理・社会的影響				
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☐ DP1-2 ☒ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6				
【到達目標】	1. 健康や病気についての心理的なメカニズムを理解して、患者や一般人のみならず医療従事者の行動を科学的に検討できるようになる。				
【授業方法】	講義形式で進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	健康、医療と心理学: 身体・社会・心理の関係について	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 2 回	迷信や代替医療の危険な事例	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 3 回	非科学的な代替信念と行動の心理的メカニズム	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 4 回	自己制御と健康管理	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 5 回	ストレスの影響過程	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 6 回	バーンアウトと自殺の心理	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 7 回	親密な関係における虐待と健康増進	事後課題: 講義の内容をノートにまとめる			
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	統計学への基礎的理解があること				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。リアクション課題(毎回)100%で評価する(DP2:到達目標 1 に対応)。				
【フィードバックの方法】	質問には次回講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	特になし 必要に応じてプリントを配布する。				
【参考図書】	特になし				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	他学部の学生については、事情を聞いた上で受講を認める。				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	運動と健康の生理学		【科目英語名】	Physiology of Exercise and Health	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	林 恵嗣				
【担当教員】	林 恵嗣				
【授業の概要】	運動時、ヒトの身体では様々な調節系が互いに影響しながらも精密に制御されています。本講義では、まず運動時における身体の生理的な反応を理解し、どのように調節されているかを学びます。その後、運動を行うことの意義や健康との関連について学びます。				
【キーワード】	身体、筋肉、循環、呼吸、体温、生活習慣病				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 運動時におけるエネルギー供給システムや呼吸・循環・体温調節システムを説明できる。 2. 生活習慣病の予防や症状改善のためにどのような運動が必要かを説明できる。 3. 様々な条件において、どのような運動が健康の維持・増進に貢献するかを考えることができる。				
【授業方法】	講義形式で実施します。毎回、課題を設定するので、次回授業までに課題を行ってください。また、毎授業の最後にコメントペーパーを提出してもらいます。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	筋収縮とエネルギー供給系:筋線維の構造やエネルギー供給の仕組みを概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 2 回	筋の収縮様式と筋力:筋収縮の様式、速筋線維や遅筋線維の特徴等を概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 3 回	運動と循環:心臓の働きや血圧の調節等を概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 4 回	運動と呼吸:呼吸の仕組み、酸素摂取量や無酸素性作業閾値について概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 5 回	運動と体温調節:体温調節の仕組みや運動時の熱放散システムについて概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 6 回	運動と生活習慣病:運動と生活習慣病の関わりについて概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 7 回	老化に伴う身体機能の変化:加齢に伴いこれまで説明した身体の調節システムがどのように変化するかを概説する。また、健康づくりのための身体活動基準についても概説する。		事後:授業内容に関する課題(Universal Passport 利用)		
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 事後課題 30%(DP2、DP5:到達目標 1〜3 に対応)と期末試験 70%(DP2:到達目標 1〜3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	事後課題については、Universal Passport 上で解説します。 コメントペーパーに記載された質問等については、次回授業時に回答します。				
【テキスト】	授業時にプリントを配布します。				
【参考図書】	入門運動生理学 第 4 版/勝田茂編著/杏林書院/978-4-7644-1159-3 栄養科学イラストレイテッド 運動生理学 改訂第 2 版/麻見直美、川中健太郎編集/羊土社/978-4-7581-1376-2				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし				
【その他】	特になし。				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	健康環境論		【科目英語名】	Environmental Health Sciences	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、* 荒井孝子、予定教員				
【授業の概要】	ヒトの生活と健康の護り手となるために、人類・生命の生存、健康に影響を与えている環境問題とは何か、そもそも、生存や健康を脅かしてきたものは何かについて学び、ヒトと環境の関わり、およびそれに伴って生じてきた諸問題とそれへの対策について理解し、現在の地域・地球環境の中で「健康に生きる」ための方法を見出せるようになることを目指す。				
【キーワード】	オゾン層、地球温暖化、化学物質汚染、感染症、生態系				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 生命・人類が地球環境から影響を受けてきたこと、また影響を与えてきたことについて再認識する。また、「大気汚染」・「水汚染」・「廃棄物」・「エネルギー」・「生物多様性」などに関する地球レベル・地域レベルでの環境問題、世界で起きている環境問題の現状と日本との関わり、またそれらへの対策に関する知識を、科学的な考え方に基づいて修得している。 2. 上記の知識をふまえて人間と自然の健全な関係性を構築していく方法を探求し考察できるようになり、医療人としての「環境」における役割を提案できる。				
【授業方法】	テキスト、および適宜、プリントを追加して講義形式で進めていく。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	生命の進化と環境(生存圏)、オゾン層(三崎健太郎)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 2 回	地球温暖化・森林破壊問題(三崎健太郎)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 3 回	エネルギー問題・放射性物質・廃棄物問題(三崎健太郎)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 4 回	感染症、水質汚染と対策、酸性雨(三崎健太郎)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 5 回	大気汚染・室内環境とアレルギー(予定教員)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 6 回	看護と環境問題(荒井孝子)			授業中にミニレポートを提出	
第 7 回	生物濃縮、生物多様性(三崎健太郎)			事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト	
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 30 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	公衆衛生学、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は課題レポート 80% (DP2:到達目標 2 に対応)、ミニテスト 20% (DP1-2:到達目標 1 に対応)によって総合的に評価する。				
【フィードバックの方法】	ミニテストの解説を次回に実施する。				
【テキスト】	地球環境保全論 持続可能な社会をめざして／和田武(編著)、小堀洋美(著)／創元社／ISBN978-4-422-40063-1				
【参考図書】	環境科学要論 現状そして未来を考える、第 3 版／世良力／東京化学同人／ISBN978-4-8079-0759-5 地球環境学入門、第 3 版／山崎友紀／講談社／ISBN978-4-06-521469-5 GEO5 地球環境概観 第 5 次報告書 私達が望む未来の環境 上／国連環境計画(編)／環境報告研／ISBN978-4-9907839-0-7 地球環境学事典／総合地球環境学研究所(編)／弘文堂／ISBN978-4-335-75013-7 その他の参考図書は適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	医療・看護経済論		【科目英語名】	Medical and Nursing Economics	
【開講時期】	2 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊ 東野 定津				
【担当教員】	＊ 東野 定津、＊ 野口 理子				
【授業の概要】	医療・看護サービス提供に関する諸問題を経済学の基本概念・理論を適用して検討し、看護における経済の意味を考察する。				
【キーワード】	医療看護サービス、医療経済、マネジメント				
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☒ DP1-2 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6				
【到達目標】	1. 看護行政的課題の内容を把握し、その解決策を考察することができる。 2. 医療看護分野における経済学的な視点を持ち、その必要性について考えることができる。 3. 看護におけるマネジメントを中心とした基礎的知識を習得し、今後の看護を考えることができる。				
【授業方法】	基本的に講義は受講者の理解を促すためにPP資料の配付、関連資料を準備し、説明を行う。医療・看護における経済学に関わる基礎的知識を習得するプログラムとなっている。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	経済学の基礎知識①(野口理子)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 2 回	経済学の基礎知識②(野口理子)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 3 回	行動経済学と意思決定(野口理子)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 4 回	わが国の看護提供システムとサービス・ケアマネジメント (東野定津)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 5 回	看護必要度と看護サービスの質の評価(東野定津)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 6 回	地域包括ケアと地域医療連携の実態(東野定津)	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 7 回	グループワーク(東野定津)	事前： グループワークに向けた資料収集 事後： プレゼン内容を整理			
第 8 回	発表と全体まとめ(東野定津)				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はミニレポート 60%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)、最終レポート 40%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニパ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	資料は適宜用意し、配布する				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊ 担当教員においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	国際看護論		【科目英語名】	Global Health Nursing	
【開講時期】	2 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	選択／必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊竹熊カツマタ麻子				
【担当教員】	＊竹熊カツマタ麻子、＊根岸まゆみ				
【授業の概要】	諸外国の社会・経済・教育・文化的背景や医療の実態を学び、国内外におけるグローバル化社会と医療格差の現状を理解することができる。国際協力や多文化共生社会における看護・医療活動のあり方を考え、異文化対応能力の基礎を身につけることができる。				
【キーワード】	国際看護、在留外国人、異文化対応能力				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 国際看護とは何か、またその必要性を説明できる。 2. 国内外の医療格差と看護の背景・現状を説明できる。 3. 国際保健医療における看護職の役割を考察することができる。				
【授業方法】	講義、COIL 授業、グループディスカッション・プレゼンテーション、課題学習を併用して実施する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	授業ガイダンス・課題説明 & 国際看護概論（竹熊カツマタ麻子）	事前：教科書「第 4 章 国際看護 A」を通読 事後：課題レポート提出			
第 2 回	世界の保健医療システムと課題（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：課題レポート提出			
第 3 回	身近な事象からグローバルヘルスを考える（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理			
第 4 回	国外の医療格差と看護（COIL 授業：ゲスト講師、竹熊カツマタ麻子、根岸まゆみ）	事前：配布資料を通読 事後：英語による課題レポート提出			
第 5 回	文化を考慮した看護①：在留外国人によるパネルディスカッション（在留外国人ゲスト、根岸まゆみ）	事前：教科書「第 4 章 国際看護学 D」を通読 事後：課題レポート提出			
第 6 回	文化を考慮した看護②：異文化看護まとめ（竹熊カツマタ麻子）	事前：配布資料を通読 事後：学びをノートなどに整理			
第 7 回	グローバルな視点を持った国際協力多文化共生社会における看護の役割（竹熊カツマタ麻子、根岸まゆみ）	事前：グループプレゼンテーションの準備 事後：グループプレゼンテーションの評価			
第 8 回	まとめ（予定教員）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	国際保健・災害看護論の履修				
【関連科目】	国際保健・災害看護論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 グループワーク 30% (DP5:到達目標 1～4 に対応)、グループプレゼンテーション 30% (DP5:到達目標 1 と 4 に対応)、課題レポート 40% (DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、全ての採点基準はルーブリックを用いる。				
【フィードバックの方法】	課題レポートとグループワークへのフィードバックは授業時に口頭で行う。グループプレゼンテーションのフィードバックはルーブリックを用いフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③／浦田喜久子・小原真理子他／医学書院／ISBN 978-4-260-03570-5				
【参考図書】	Where there is no doctor: Village health care handbook／David Werner／Macmillan Education／ISBN-13: 978-0-333-51651-5 ほか講義の中で適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク ■C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊国内外で看護師の実務経験のある教員が、経験を活かした講義を実施する。				
【その他】					
【社会人聴講生】	事前面談必要	【科目等履修生】	事前面談必要	【交換留学生】	事前面談必要

【科目名】	機能形態学Ⅰ		【科目英語名】	Anatomy and Physiology I	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊井上 健一郎				
【担当教員】	＊井上 健一郎、＊荒井 孝子、＊武田英孝（非常勤）				
【授業の概要】	人間の体を構成する細胞・組織・臓器の構造を系統的に学び、その特性を理解する。その上で、各器官・臓器の構造と機能的役割を把握する。人体の各臓器が独自の働きをしているとともに、他の臓器と協調することで生体のホメオスタシスを維持していることを学ぶ。				
【キーワード】	組織、解剖、臓器、細胞				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人体を構成する細胞、組織、器官、臓器の構造を総論的に理解する。 2. 組織、器官について各論的に構造を理解し、その機能的役割を把握する。 3. 人体の各臓器が独自の働きをしているとともに、他の臓器と協調することで生体のホメオスタシスを維持していることを理解する。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。必要に応じてオンデマンドを活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	総論：人体の構造と機能を理解するための生物学と化学の基礎（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 2 回	総論：体部の形態に関する名称と用語（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 3 回	リンパ系、免疫系（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 4 回	心臓、血管系、血液（荒井孝子）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 5 回	消化器系（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 6 回	消化・吸収のメカニズム（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 7 回	呼吸器系（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 8 回	ガス交換、呼吸のメカニズム（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 9 回	泌尿器系、尿生成のメカニズム（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 10 回	内分泌系／筋・骨格系（井上健一郎）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 11 回	中枢神経系Ⅰ（武田英孝）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 12 回	中枢神経系Ⅱ（武田英孝）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 13 回	末梢神経系（武田英孝）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 14 回	自律神経系、感覚器系（武田英孝）	事前：e テキストの該当頁の通読 事後：授業資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	機能形態学Ⅱ、症候論、基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は定期試験 100% で評価する（DP1-2：到達目標 1～3 に対応）。				

【フィードバックの方法】	必要時、次回講義内で説明する。				
【テキスト】	eテキスト【系統看護学講座 専門基礎分野】人体の構造と機能[1] 解剖生理学／坂井建雄(著)／医学書院／978-4-260-04687-9 系統看護学講座準拠 解剖生理学ワークブック(最新版)／坂井建雄(著)／医学書院／978-4-260-03824-9				
【参考図書】	新版 からだの地図帳／佐藤達夫監修／講談社／978-4062610254				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 臨床実務経験(医師、看護師)を有する教員が担当する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	機能形態学Ⅱ		【科目英語名】	Anatomy and PhysiologyⅡ	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊井上 健一郎				
【担当教員】	＊井上 健一郎、＊荒井 孝子				
【授業の概要】	人間の正常な生命活動を理解し、その病的変化を捉え対処できるための基礎知識を獲得する。正常な臓器、器官、組織の病理組織学的構造と生理学的機能に対する広い知識を身につけ、エビデンスに基づいた看護を行うための基礎的思考を養う。また、病態と看護を統合するための演習を行うことにより、専門基礎科目と看護専門科目の統合的思考の基盤を身につける。				
【キーワード】	病理 腫瘍 機能異常				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 人体を構成する細胞、組織、器官、臓器の病理組織学的構造を総論的に理解する。 2. 組織、器官について各論的に構造を理解し、その機能的役割を把握する。 3. 代表的な疾患に関して、関連臓器の構造や機能の変化を理解できる。 4. 看護における問題解決につなげるための病態生理とメカニズムについて理解できる。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。必要に応じオンデマンドも活用する。視覚的教材も用いながら、学生同士での協同した学習も行う。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	総論：細胞・組織の障害、再生と修復(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 2 回	循環障害(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 3 回	炎症(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 4 回	免疫とアレルギー(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 5 回	腫瘍(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 6 回	看護過程につながる病態関連図 1（講義）(荒井孝子)			当日演習のガイダンスを行う 事後：課題学習	
第 7 回	看護過程につながる病態関連図 2（GW）(荒井孝子)			事前：GW 課題の準備 事後：GW 後のまとめと準備	
第 8 回	看護過程につながる病態関連図 3（GW）(荒井孝子)			事前：GW 課題の準備、スライド作成 事後：GW 後のまとめ、プレゼン準備	
第 9 回	看護過程につながる病態関連図 4（プレゼンテーション）(荒井孝子)			事前：スライド、プレゼン資料の準備 事後：コメント提出	
第 10 回	循環器系の病理(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 11 回	呼吸器系の病理(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 12 回	消化器系の病理(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 13 回	内分泌系の病理(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 14 回	臨床検査・画像診断(井上健一郎)			事前：教科書の該当頁の通読 事後：授業資料の復習	
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	機能形態学Ⅰ、生物化学の単位を取得していること				
【関連科目】	機能形態学Ⅰ				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。				

	成績は定期試験 70%(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)、個人課題 20%(DP1、2:到達目標 4 に対応)とグループワークによる課題プレゼンテーション 10%(DP1、2:到達目標 4 に対応)により総合的に評価する。			
【フィードバックの方法】	必要時講義時間内においてコメントする。			
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進[1]/大橋健一(著)/医学書院/ 978-4-260-04203-1			
【参考図書】	適宜、指示する			
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし			
【実務経験のある教員による授業】	* 臨床実務経験(医師、看護師)を有する教員が担当する。他学部生は履修不可。			
【その他】	特になし			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】 不可

【科目名】	生物化学		【科目英語名】	Biological Chemistry	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修／選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	三崎健太郎				
【担当教員】	三崎健太郎、予定教員				
【授業の概要】	近年に入り、生命現象を化学的に説明し、生体の営みを物質代謝の集積と捉え追求する学問(=生化学)が成立し、医学の進歩に大きく貢献している。医療人である看護師として必須の、患者の状態や病気の治療に関して生物、化学の両側面から理解する基礎力を身につけるために、細胞の微細構造、生命体の構成成分とその役割、それらの構成成分の代謝(中間代謝物の化学構造とその重要性、物質代謝とエネルギー産生、酵素反応の特性と補酵素の役割など)や遺伝情報代謝に関する生化学的知識を学び、生命科学現象の理解、糖尿病やがんなど代表的疾患の成立の生物化学的な理解につなげていけるようになる。				
【キーワード】	細胞、生体構成成分、酵素、物質代謝、遺伝情報				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 生体を構成する成分について、構造と機能に関する知識を修得している。 2. 生体を構成する成分の代謝とそれらの相互関係についての知識を修得している。 3. 上記の知識を基にして、生体を構成する成分の代謝の維持と機能の維持を関連づけられる。 4. 上記の知識を基にして、生体を構成する成分の代謝の不調が疾患の原因となることを理解している。				
【授業方法】	テキストに沿って講義形式で進めるが、重要部分については補足資料を用い詳述する。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	生体を構成する水と電解質(pH、酸塩基平衡を含む)(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 2 回	糖質(予定教員)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 3 回	タンパク質(予定教員)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 4 回	酵素(ビタミンと補酵素を含む)(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 5 回	脂質(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 6 回	細胞内刺激伝達(ホルモン・生理活性物質と受容体)(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 7 回	生体内刺激伝達(ホルモンの分泌調節)(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 8 回	生体内成分の代謝の全体像と相互関連(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 9 回	糖質代謝と糖尿病(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 10 回	脂肪酸、ステロイドの代謝と脂質異常症(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 11 回	タンパク質、アミノ酸代謝(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 12 回	ポルフィリン代謝と黄疸(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 13 回	プリン・ピリミジン・ヌクレオチドの代謝と高尿酸血症(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 14 回	遺伝情報代謝とがん(三崎健太郎)		事前:テキスト該当箇所の予習 事後:テキスト・資料の復習、ミニテスト		
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	高校の生物、化学の基礎知識を習得していることを前提として授業を展開する。				
【関連科目】	症候論、微生物学、基礎健康科学演習、臨床薬理学、臨床栄養学、病態学				

【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はミニテストの総得点を 30%(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)、定期試験の得点を 70%(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)に換算して評価する。				
【フィードバックの方法】	ミニテストは次回講義時に解説する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 生化学:人体の構造と機能[2]／畠山鎮次／医学書院／ISBN978-4-260-03556-9				
【参考図書】	はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学 改訂第2版／前野正夫・磯川桂太郎／羊土社／ISBN978-4-260-03556-9 イラストレイテッド生化学 原書7班／石崎泰樹・丸山 敬(監訳)／丸善／ISBN978-4-621-30351-1 Essential 細胞生物学 原書第5版／中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇(訳)／南江堂／ISBN978-4-524-22682-5 基本を学ぶ看護シリーズ1 自然科学の基礎知識を知る／草間朋子・脊山洋右・松本純夫(監修)、今井秀樹・高木晴良・松本和史・草間朋子(著)／東京化学同人／ISBN978-4-8079-1800-3				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎健康科学演習		【科目英語名】	Health Science Lab Fundamentals	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	＊井上健一郎				
【担当教員】	＊井上健一郎、＊荒井孝子、＊濱井妙子、三崎健太郎、予定教員				
【授業の概要】	健康状態を多面的に判断し、人の身体や健康に影響を与える病因を分析する手法を学び、今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を習得する。前半では、機能形態学実験(体の構造を理解する)、症候論実験(生体の機能、臨床検査値を理解する)を行って、ヒトの全身を診る能力を身につける。後半では、微生物学実習(微生物の形態的・生化学的特徴を理解する)、生化学実習、環境実習(健康と環境の関係の理解を深める)を行って、人の健康に影響を与える要因を知り対応できる能力を身につける。				
【キーワード】	器官・組織、心電図・呼吸機能、血液・尿検査、微生物検出、放射線測定				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 自らの実験を通じて、適切な実験の手順や方法、結果を整理している。 2. 臓器の微細構造を顕微鏡で観察し、臓器の形態と機能を関連させて理解し、人体の構造と機能を細胞の働きから考察できる。 3. 心電図、スパイロメトリ測定、血液・尿検査実施の注意点と臨床的意義を理解し、自分の血液・尿検査、心電図の結果から、健康状態を査定してその根拠を説明できる。 4. 微生物学実験を通じて、微生物の特徴、検出方法や取り扱いを理解し、感染制御について微生物学の視点から判断できる。 5. 生化学・環境実験を通じ、放射線の種類と生体を防護する原則などについて説明できる。				
【授業方法】	実習テキストを中心に実験を行う。それぞれの実験の目的、方法、予想される結果に関連する基礎知識を予習、復習することが必要である。対面実習は自らの手で行い、結果の観察、測定、スケッチ、記録しながら結果を科学的に考察し、実験ノートにまとめる。実験実習のため、実験の内容と操作を解説した動画をオンデマンドで配信し、実験当日までに事前学習をして実験ノートに必要事項を記載した上で、実習当日に自らの手で実験を行い、基礎医学系の講義(座学)で得た知識を実証し考察することで、理解を深めるとともに科学的思考の習得につなげるアクティブ・ラーニングの方法をとる。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	オリエンテーション、臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 2 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 3 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 4 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 5 回	臓器の顕微鏡標本観察:各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 6 回	血液検査(1):血糖値からわかることの理解(実習講義:荒井孝子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 7 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 8 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 9 回	臓器の観察(解剖):各種器官、組織の微細構造の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 10 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかることの理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 11 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかることの理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。			
第 12 回	血液検査(2):ヘマトクリット、血算、生化学検査からわかること	事前:予習をして実験ノートにまとめる。			

	の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事後:実験内容をまとめる。
第 13 回	尿検査:一般検査(pH、比重)からわかる腎機能(クレアチニン・クリアランス等)の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 14 回	尿検査:一般検査(pH、比重)からわかる腎機能(クレアチニン・クリアランス等)の理解(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 15 回	末梢血液像の顕微鏡観察:白血球の種類と特徴、5 種類の細胞のバランスの理解(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 16 回	心電図測定:心電図測定の基礎、正常波形の理解(実習講義:荒井孝子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 17 回	呼吸機能測定:呼吸機能測定の基礎、換気機能の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 18 回	血液・尿検査結果分析(実習講義:井上健一郎、演習:担当教員全員)	事前:予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 19 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 20 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 21 回	放射線の測定として、放射線の種類と防護方法の理解(実習講義:三崎健太郎、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 22 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定①(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 23 回	細菌の染色法と顕微鏡観察(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 24 回	細菌の染色法と顕微鏡観察(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 25 回	手指付着細菌の検出と手洗い・手指消毒薬の効果判定①(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 26 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定②(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 27 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定②(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 28 回	鼻腔細菌の検出とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の同定③(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 29 回	手指付着細菌の検出と手洗い・手指消毒薬の効果判定②(実習講義:濱井妙子、演習:担当教員全員)	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
第 30 回	抗微生物薬の効果判定(講義:濱井妙子、演習:担当教員全	事前:オンデマンドを視聴する。予習をして

	員)	実験ノートにまとめる。 事後:実験内容をまとめる。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年前期の機能形態学Ⅰ、生物化学の単位を取得していること	
【関連科目】	機能形態学Ⅰ・Ⅱ、生物化学、症候論、微生物学、健康環境論	
【評価方法】	全出席が単位認定の前提である。ただし、履修要項に定める追試験受験条件にあてはまる事由に対しては補実習を行い、定期試験受験を認める。自己都合による遅刻、途中放棄、欠席については補実習の対象とはならないので定期試験の受験を認めない。 成績は定期試験 60% (DP1-2:到達目標 2~5 に対応)、実験ノート 40% (DP2:到達目標 1~5 に対応)で評価する。なお、定期試験、実験ノート、それぞれが満点の 6 割以上をもって合格とする。	
【フィードバックの方法】	提出課題の解説は授業の中で実施する。	
【テキスト】	基礎健康科学実習テキスト(担当教員が編集・事前配布) e テキスト【系統看護学講座 専門基礎分野】解剖生理学 人体の構造と機能①(最新版)/坂井建雄/医学書院/978-4-260-04687-9(機能形態学Ⅰでも使用) 系統看護学講座 別巻 臨床検査(最新版)/奈良信雄 他(編)/医学書院/978-4-260-03573-6(症候論でも使用) 今すぐ看護ケアに活かせる心電図のみかた(最新版)/藤野智子(編)/978-4-524-25951-9(症候論でも使用) 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④(最新版)/吉田真一/医学書院/978-4-260-03183-7(微生物学でも使用)	
【参考図書】	(実習室保管テキスト) 顕微鏡検査ハンドブック 臨床に役立つ形態学/菅野治重 他(編)/医学書院/978-4-260-01554-7 di Fiore 人体組織図譜/相磯貞和(訳)/南江堂/978-4-524-26004-1 ネッター解剖生理学アトラス/相磯貞和・渡辺修一(訳)/南江堂/978-4-524-23856-9 みえる人体 構造・機能・病態ネッター解剖生理学アトラス/南江堂/978-4-524-25071-4 人体の構造と機能 はじめての解剖生理学/金澤寛明/南江堂/978-4-524-26448-3 尿沈渣ガイドブック/伊藤機一 他/東海大学出版会/978-4-486-01518-5 ポケットマニュアル尿沈渣/八木靖二/医歯薬出版/978-4-263-22677-3 グラム染色からの感染症診断/田里大輔・藤田次郎/羊土社/978-4-7581-1739-5 感染症診断に役立つグラム染色/永田邦昭/Signe/978-4-910-44002-6 図鑑細菌/鈴木智順(監修)/技術評論社/978-4-774-18277-3 戸田新細菌学/吉田真一 他(編)/南山堂/978-4-525-16114-9 改訂版 看護と放射線/日本アイソトープ協会(編)/丸善出版/978-4-89073-284-5 その他、必要に応じて後日提示する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション/ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション ■D 実習/フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 医師、看護師、薬剤師の実務経験のある教員が、経験を生かした演習を実施し、臨床的意義を解説する。	
【その他】	・実習には積極的に取り組み、科学実験を安全に行うためには細心の注意をもって、正確な実験を行う落ち着いた態度が必要である。白衣、実験ノート、色鉛筆を準備のこと。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	症候論		【科目英語名】	Symptomatology	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊井上 健一郎				
【担当教員】	＊井上 健一郎				
【授業の概要】	臨床の現場で遭遇する種々の症状や徴候の発現機序を病理生理学的に理解できる。各症候からその原因疾患・病態を絞り込める知識と分析能力を身につける。得られた患者情報(症候・徴候・臨床検査データ等)から理論的思考によって遡及的に原因となる疾患に帰着しうる能力の育成を図る。				
【キーワード】	症状 病態 疾患				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 様々な疾患に共通にみられる症状や徴候を病態生理学的に理解できる。 2. 患者の容態を的確に把握し、その原因を考察できる。 3. 症状や症候を明らかに分析するための臨床検査の解釈ができる。 4. 病態に沿った治療・処置を理解し、病態経過の予測ができる。				
【授業方法】	項目ごとに事前の学習を前提として、テキストに沿って講義を進め、一部の講義では必要に応じて補足資料を配布する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	症候論総論 (1)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 2 回	症候論総論 (2)	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 3 回	意識障害等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 4 回	嚥下困難、悪心、嘔吐等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 5 回	咳嗽、胸痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 6 回	血便、下痢・便秘等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 7 回	高血圧、ショック等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 8 回	頭痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 9 回	中間まとめ				
第 10 回	発熱等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 11 回	腹痛等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 12 回	浮腫、不整脈等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 13 回	貧血、黄疸等	事前:教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 14 回	臨床検査	事前:教科書及び実習教科書の該当頁の通読 事後:授業資料の復習			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	機能形態学 I、生物化学の単位を取得していること				
【関連科目】	機能形態学 I、生物化学				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は定期試験 100% で評価する(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)。中間試験 (12 月中旬に施行)で 7 割				

	以上得点すれば期末試験を免除とし修了を認める。期末試験は 1 度のみ行う(健康上の理由以外再試験は行わない)。				
【フィードバックの方法】	必要時、講義時間内においてコメントする。				
【テキスト】	ナースが症状をマネジメントする！症状別アセスメント／塚本容子他(著)／メジカルフレンド社／978-4-8392-1602-3 今すぐ看護ケアに活かせる心電図のみかた(最新版)／藤野智子(編)／南江堂／978-4-524-25951-9 (基礎健康科学演習でも使用) 系統看護学講座 別巻 臨床検査(最新版)／奈良信雄他(編)／医学書院／978-4-260-03573-6 (基礎健康科学演習でも使用)				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 臨床実務経験(医師)を有する教員が担当する。他学部生は履修不可。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	微生物学		【科目英語名】	Microbiology	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	内藤博敬(非常勤)				
【担当教員】	内藤博敬(非常勤)				
【授業の概要】	微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）の分類、微細構造・形態学的特徴、生化学的性状・生物学的特徴、増殖、感染について概説する。様々な病原微生物がどのように感染症を引き起こすかについて、感染源、感染経路、宿主の生体防御機構(免疫)を含めて概説する。様々な滅菌・消毒法（消毒薬を含む）の特徴・適用、治療薬、現在の感染症動向、新興・再興感染症の特徴や国としての予防対策について概説する。				
【キーワード】	細菌、ウイルス、感染症、免疫、感染症法				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 様々な感染症の原因病原体及び病原因子、発症機構、予防・診断・治療法を説明できる。 2. 生体防御免疫について説明できる。 3. 様々な滅菌・消毒法の性質・適用を理解し、実践できる。 4. 感染症動向と感染症法について、適切な情報を得て説明することができる。				
【授業方法】	講義形式で行う。テキストに添って、実際の微生物・感染症の病態の写真等を独自にまとめて作成したスライドを使用して行う。また、講義前に講義内容のプリントを設問形式で配布し、講義後に模範解答を配布する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	微生物学概論				
第 2 回	微生物と微生物学			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 3 回	細菌 1（形態学的特徴）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 4 回	細菌 2（生化学的特徴）			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 5 回	ウイルス			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 6 回	真菌、原虫および寄生虫			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 7 回	感染と感染症、第 1 部小テスト			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 8 回	感染経路			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 9 回	生体防御機構 1(自然免疫)			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 10 回	生体防御機構 2(獲得免疫)			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 11 回	細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 12 回	感染症予防／消毒・滅菌			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 13 回	感染症の検査と治療			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 14 回	感染症の現状と対策			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
第 15 回	まとめ・期末考査			プリント・講義資料で内容を確認する 模範解で復習、不足内容は自身でまとめる	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	基礎健康科学演習				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。				

	成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~4 に対応)。				
【フィードバックの方法】	小テストは期末試験に向けた模擬考査(期末試験がこういった形式で行われるか体感する)として行う。実施後に採点して返却する。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 ④/南嶋洋一 他(著)/医学書院/978-4-260-04702-9				
【参考図書】	感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 /増澤俊幸(著)/羊土社/978-4-7581-0975-8 わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂3版/藤本秀士他(著)/南山堂/978-4-525-16233-7 ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物/矢野 久子 他(編)/メディカ出版/978-4-8404-7526-6				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション/ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習/フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	臨床薬理学		【科目英語名】	Clinical Pharmacology	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 伊藤邦彦				
【担当教員】	* 伊藤邦彦、伊藤由彦				
【授業の概要】	ナースとしての専門職に要求されるのは、患者に投与する薬に対する十分な知識と服用の効果を正しく評価する能力である。すなわち、薬の作用機序（薬理作用）、効果発現までの時間、効果持続時間、吸収と排泄、期待される効果、予測される副作用、他の薬（食品）との相互作用などを科学的に理解した上で、患者に薬を服用してもらうことが必要である。総論では、薬とは、薬の働き、薬の体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、神経・精神系薬、循環器系薬、呼吸器系薬、胃腸薬、利尿薬、内分泌系薬、生殖器系薬、糖尿病薬、痛風薬、抗アレルギー薬など個々の医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。				
【キーワード】	薬物療法、薬物動態、副作用				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 薬物が体内に入ってから消えるまでの過程について説明できる。 2. 代表的な治療薬について、薬物が効果を示すメカニズムについて説明できる。 3. 薬物の好ましくない作用について、そのメカニズムを説明できる。				
【授業方法】	テキストおよびパワーポイント（液晶プロジェクター）を用いて講義形式で授業を行う。授業の理解を深めるため、必要に応じてプリントを配布する。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	第 1 章 薬理学総論 1.1-1.2（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 2 回	第 1 章 薬理学総論 1.3（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 3 回	第 1 章 薬理学総論 1.4-1.5（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 4 回	第 1 章 薬理学総論 1.6-1.8（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 5 回	第 6 章 炎症と免疫疾患に対する薬物（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 6 回	第 13 章 悪性腫瘍に対する薬物（伊藤邦彦）		事前：講義範囲の通読により、疑問点を明確化する。事後：教科書章末の演習問題により理解を深める。		
第 7 回	第 2 章 末梢神経系疾患に対する薬物（伊藤由彦）		事前：配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後：小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。		
第 8 回	第 3 章 中枢神経系疾患に対する薬物（伊藤由彦）		事前：配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後：小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。		
第 9 回	第 11 章 代謝性疾患に対する薬物（伊藤由彦）		事前：配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後：小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。		
第 10 回	第 10 章 内分泌系疾患に対する薬物（伊藤由彦）		事前：配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。		

		事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第 11 回	第 5 章 血液疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第 12 回	第 4 章 循環器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第 13 回	第 9 章 泌尿器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第 14 回	第 7 章 呼吸器系疾患に対する薬物、第 8 章 消化器系疾患に対する薬物(伊藤由彦)	事前:配付資料の穴埋め問題を各種資料を用いて解く。 事後:小テストの内容を調べて、ユニパで確認テストを受験する。
第 15 回	まとめ	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	薬理学は、基礎科目ではあるが、薬物療法を理解する上で非常に重要な科目である。薬理学は非常に幅の広い学問であるため、講義ですべてを網羅することは難しい。受講者は、予習・復習をしっかりと行い、疑問点については教員に確認して解決するよう努めるなど、意欲的に授業に出席することが望ましい。	
【関連科目】	特になし	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験(100%)で評価する(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)。	
【フィードバックの方法】	ユニパの Q & A で講義に関する質問を受け付け、できるだけ早く回答する(伊藤邦)。 ユニパで行う確認テストで自由記述欄を設け質疑を受け付け、返信機能を用いてフィードバックを行う(伊藤由)。	
【テキスト】	コメディカルのための薬理学 第 4 版/渡邊泰秀・安西尚彦・大内基司(編)/朝倉書店/ 978-4-254-33012-0	
【参考図書】	今日の治療薬/川合真一 他編/南江堂/ 978-4524203345	
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 薬剤師実務経験を有する教員が、実臨床で用いられる代表的な医薬品や薬物治療に関する基本的知識を講義する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	臨床栄養学		【科目英語名】	Clinical Nutrition	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	三浦進司				
【担当教員】	三浦進司、* 新井英一、* 細岡哲也				
【授業の概要】	食べることの意味や何をどのくらい食べるのがよいのかといった基本的な理解を促し、栄養素の消化・吸収、代謝、ホルモンと食事との関連、食物摂取に対する生体の反応や適応の仕組みを理解することを目指す。さらに生活状況に由来する栄養の問題を学び、健康の維持・増進のための食事、食生活の基盤を理解することを目的とする。				
【キーワード】	栄養素の消化・吸収・代謝、栄養状態の評価、栄養ケア・マネジメント				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 栄養の基本的概念およびその役割を説明することができる。 2. 摂食行動から栄養素の消化・吸収・代謝とその生理的意義を説明することができる。 3. 栄養評価と栄養ケア・マネジメントの方法を説明することができる。				
【授業方法】	板書、パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式でおこなう。講義終了後に小テストによって知識を定着させ、重要事項の確認を促す。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	人間栄養学と看護：栄養と栄養素、保健・医療と栄養（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 2 回	食物の摂取と消化・吸収：食欲、食物の摂取と消化吸収（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 3 回	ビタミンの栄養：ビタミンの代謝と生理作用：（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 4 回	ミネラルの栄養：ミネラルの種類・機能と代謝（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 5 回	栄養素の代謝とその調節 1：糖質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 6 回	栄養素の代謝とその調節 2：脂質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 7 回	栄養素の代謝とその調節 3：タンパク質の栄養（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 8 回	エネルギー代謝：食品のエネルギーと体内のエネルギー消費（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第 9 回	食事摂取基準：食事摂取基準の概念とその活用 確認テスト 1（三浦進司）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 10 回	臨床栄養：代謝性疾患患者に対する食事療法 1（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第 11 回	臨床栄養：代謝性疾患患者に対する食事療法 2 確認テスト 2（細岡哲也）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 12 回	栄養状態の評価・判定：栄養アセスメントの指標と方法（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 13 回	栄養ケア・マネジメント：栄養ケアチームと栄養ケア計画（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習			
第 14 回	ライフステージと栄養：乳児期から高齢期、特に高齢期における栄養ケアについて（新井英一）	事前：講義該当部分のテキスト熟読 事後：テキスト・資料等を用いて復習、確認テスト準備			
第 15 回	病気と栄養、まとめ 確認テスト 3（新井英一）				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				

【関連科目】	機能形態学Ⅰ、生物化学				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 3 回の確認テストにより、100 点満点で 60 点以上を合格とする(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)。				
【フィードバックの方法】	確認テストの正解例を配布する。 質問についてはメールにて受け付け、必要に応じてユニパを通じてフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学第 13 版／中村丁次他著／医学書院／978-4-260-03861-4 配布するプリント				
【参考図書】	必要時講義内で紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当者のうち、医師および管理栄養士の実務経験のある教員が、その経験を活かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	病態学		【科目英語名】	Clinical Pathology	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	＊ 荒井孝子				
【担当教員】	＊ 濱口侑大(非常勤)、＊ 四ノ宮健太(非常勤)、＊ 佐藤辰宣(非常勤)、＊ 松田昌範(非常勤)、 ＊ 三枝美香(非常勤)、＊ 齋藤優(非常勤)、＊ 田中 聡(非常勤)、＊ 長井幸二郎(非常勤)、 ＊ 有安宏之(非常勤)、＊ 金剛(非常勤)、＊ 袴田康弘(非常勤) ＊ 西田正人(非常勤)、＊ 渡邊昌也(非常勤)、＊ 大端考(非常勤)、＊ 瀧雄介(非常勤)、 ＊ 間浩之(非常勤)、＊ 八木宏明(非常勤)、＊ 佐藤真輔(非常勤)、＊ 広瀬正秀(非常勤)、 ＊ 森本恵理子(非常勤)、＊ 恒吉裕史(非常勤)、＊ 佐藤宰(非常勤)、＊ 速水亮介(非常勤)、 ＊ 松岡秀明(非常勤)、＊ 金本秀行(非常勤) 講義順に掲載				
【授業の概要】	1. 内科学は臨床医学の土台をなす学問である。臨床の場でよく目にする疾患を軸に、各臓器別に臨床症状、検査項目、治療法について系統的に講義する。内科学がカバーする範囲は膨大であり、限られた時間の講義ではごく一部の疾患についてしか教授できない。自己学習が特に重要である。 2. 外科的侵襲に対する生体反応、組織損傷の修復機序、ショックの基本的病態の理解と神経および血管反応および細胞レベルでの代謝、輸血・輸液・栄養補給の理論と投与方法など、病態の理解に基づく外科的治療（術前・術中・術後、救急救命）への取り組みについて、その特性と最近の動向を踏まえて講義する。さらに、外科的治療に伴う倫理的課題についても講義する。				
【キーワード】	系統別・疾患別の病態、検査、治療、看護				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 外科的・内科的疾患の発生・進展に関する病態およびそれに伴う検査・治療について理解を深め、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 2. 主な外科的治療および術前・術中・術後管理に関連した基礎的医学知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。 3. 救命・救急を要する外来での治療・処置に必要な医学的知識を理解し、看護実践に生かすための知識を身につけることができる。				
【授業方法】	講義は対面授業を基本とする。 1. 内科学:各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 2. 外科学:各単元の講義にて臓器疾患別の主要症状、各疾患の概略を説明する。 テキストは事前・事後学習に利用し、授業においては、テキスト、配布資料や動画などを用いて講義する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(濱口侑大)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 2 回	内科:循環器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(四ノ宮健太)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 3 回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(佐藤辰宣)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 4 回	内科:消化器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(松田昌範)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 5 回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(三枝美香)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 6 回	内科:呼吸器疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(三枝美香)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 7 回	内科:血液疾患の主症状・臨床検査・病態(齋藤優)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 8 回	内科:自己免疫疾患の原因・臨床検査・病態(田中聡)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 9 回	内科:腎疾患の主症状・臨床検査・病態(長井幸二郎)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 10 回	内科:内分泌疾患の原因・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 11 回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(1)(金剛)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 12 回	内科:神経疾患の主症状・臨床検査・病態(2)(金剛)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 13 回	内科:代謝性疾患の主症状・臨床検査・病態(有安宏之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 14 回	内科:感染症の主症状・臨床検査・病態(袴田康弘)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 15 回	内科:まとめ(荒井孝子)	内科学のまとめ			
第 1 回	外科:外科的侵襲の病態生理・ショック(西田正人)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 2 回	外科:術前・術後管理と術後合併症(1)(渡邊昌也)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 3 回	外科:術前・術後管理と術後合併症(2)(大端考)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 4 回	外科:出血・止血・輸血療法(瀧 雄介)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			
第 5 回	外科:腫瘍に対する外科的治療(間 浩之)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ			

第 6 回	外科:熱傷管理(八木宏明)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 7 回	外科:救急外科、外傷、外科的感染症(佐藤真輔)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 8 回	外科:主な術式:呼吸器疾患と看護(広瀬正秀)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 9 回	外科:術中管理:全身麻酔・局所麻酔と術中の看護に必要な知識(森本恵理子)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 10 回	外科:主な術式:心臓血管外科疾患と看護(恒吉裕史)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 11 回	外科:主な術式:脳神経外科疾患と看護(佐藤幸)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 12 回	外科:主な術式:乳腺疾患と看護(速水亮介)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 13 回	外科:主な術式:骨・関節疾患と看護(松岡秀明)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 14 回	外科:主な術式:消化器疾患と看護(金本秀行)	事前:e テキスト購読 事後:授業のまとめ
第 15 回	外科:まとめ(荒井孝子)	外科学のまとめ
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	症候論を履修していること	
【関連科目】	機能形態学Ⅰ、機能形態学Ⅱ、症候論	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 筆記試験 100%で評価する。そのうち内科 50%(DP1-2:到達目標 1 に対応)、外科 50%(DP1-2:到達目標 1 ~3 に対応)の成績で総合的に評価する。内科・外科それぞれ 6 割以上の点数を合格の条件とする。	
【フィードバックの方法】	講師への質問についてはユニバを介して回答する。	
【テキスト】	下記の電子テキストを購入し、PC にダウンロードしておくこと。 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2]呼吸器/浅野浩一郎ほか/医学書院/978-4-260-03569-9 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3]循環器/吉田俊子ほか/医学書院/ 978-4-260-03557-6 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4]血液・造血器/飯野京子ほか/医学書院/ 978-4-260-03571-2 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5]消化器/南川雅子ほか/医学書院/ 978-4-260-03562-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6]内分泌・代謝/黒江ゆり子ほか/医学書院/ 978-4-260-03559-0 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7]脳・神経/井手隆文ほか/医学書院/ 978-4-260-03561-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8]腎・泌尿器/今井亜矢子ほか/医学書院/ 978-4-260-03558-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11]アレルギー 膠原病 感染症/岩田健太郎ほか/医学書院/ 978-4-260-03858-4 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論最新版/池上 徹他(編)/医学書院/978-4-260-04998-6 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 最新版/北川雄光他(編)/医学書院/978-4-260-04990-0	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 医師として臨床実務経験を有する教員が各病態を解説する。機能形態学(解剖・生理学)の基礎的知識が必要不可欠となる。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	公衆衛生学		【科目英語名】	Public Health	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員、* 井上健一郎				
【授業の概要】	本講義では、集団の特性に合わせた公衆衛生対策を理解するため、集団の人口動態やライフスタイル、またその変化を適切に捉え、それらに起因する健康課題を明確化できる力を養うことを目的とする。地域保健、環境保健、感染症・危機管理、生活習慣、食品衛生、関係法規等、健康課題に結びつくさまざまな社会環境要因とその対策について学び、国内外の公衆衛生対策の仕組みを理解し、説明できることを目指す。				
【キーワード】	公衆衛生、保健行政、地域保健				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 統計資料から人口動態やライフスタイルを要約し、現状と変遷を解釈できる。 2. 人口動態やライフスタイルが健康に与える影響を理解できる。 3. 日本および世界における公衆衛生活動（計画から評価まで）の特徴を説明できる。				
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料に基づいて講義を行う。各講義の最後には、理解を計るための例題の出題と解説を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	公衆衛生学とは（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 2 回	健康の測定と健康指標、人口統計、その他の統計（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 3 回	主な疾病の予防① 循環器系疾患、糖尿病・メタボリックシンドローム（井上健一郎）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 4 回	主な疾病の予防② 感染症、がん、その他の疾患（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 5 回	環境保健① 空気の衛生、水の衛生、公害と環境問題（井上健一郎）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 6 回	環境保健② 衣食住の衛生、廃棄物（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 7 回	地域社会と地域保健、地域保健活動と行政（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 8 回	母子保健の課題、母子保健活動と行政（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 9 回	子どもの健康状況、学校保健の組織と運営、学校保健教育（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 10 回	働く人々の健康、労働災害・事故、職場における健康管理（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 11 回	高齢者の健康状態、介護保険、地域包括ケアシステム（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 12 回	精神の健康、精神保健福祉活動（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 13 回	国際保健、日本・世界の国際保健活動（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 14 回	災害保健、地域の災害保健計画（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義の要点のまとめ、例題の復習			
第 15 回	まとめ	事前：第 14 回までの要点のまとめ			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	なし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100% で評価する（DP1-2: 到達目標 1～3 に対応）。				

【フィードバックの方法】	ユニバQAで質問を受け付け、次の講義の冒頭で回答・解説する。				
【テキスト】	シンプル衛生・公衆衛生学(最新版)／辻一郎、上島通浩／南江堂／ISBN:978-4524203758（疫学でも使用） 国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会（保健医療統計学、疫学でも使用）				
【参考図書】	適宜配布・紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師、医師の実務経験やがん疫学研究・フィールド研究の経験のある教員が、経験を生かした講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	不可

【科目名】	社会福祉論		【科目英語名】	Theories and Issues of Social Welfare	
【開講時期】	1 年後期/編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	江原 勝幸				
【担当教員】	江原 勝幸				
【授業の概要】	社会福祉の意義、理念、法・制度など社会福祉の基盤を学び、現代社会で援助を必要とする個人・家族及び地域社会の課題に対する支援や解決方法を理解する。その上で、保健医療と福祉が連携・協働して地域の生活課題に取り組む必要性やその方法について学ぶ。				
【キーワード】	ヒューマンライツ、ダイバーシティ、インクルージョン				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP3 □P4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 社会福祉の意義、理念、目的など福祉実践の基盤となる人間尊重の原則について理解できる。 2. 現代社会の構造的な問題から生ずる多様で複合的な地域の生活課題の現状と課題を理解できる。 3. 看護学と社会福祉の関係性を踏まえ、生活で困難を抱えている人々への包括的な支援について理解できる。				
【授業方法】	各授業の前半では、配布したレジュメ及び資料に沿った各授業テーマに即した講義を行う。 各授業の後半では、前半の授業テーマ・内容に関連するDVD映像を視聴し、配布したワークシートの講義及び映像に関する感想・意見・質問をまとめ記入し、授業の学びを深める。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	「社会福祉」とは何か：現代社会と福祉		事前：社会福祉に色イメージをつけ、その色をつけた理由をノートにまとめる。 事後：自分の色イメージがどこからきて、なぜその色イメージなのか考察する。		
第 2 回	災害と福祉：誰一人取り残さないインクルーシブな防災活動		事前：要配慮者の避難行動や避難生活の問題や困難についてノートにまとめる。 事後：災害時に保健医療福祉専門職及び地域住民にできること・すべきことを整理し、その為の平常時からの取り組みをノートにまとめる。		
第 3 回	日本国憲法と福祉：基本的人権の本質		事前：日本国憲法前文を声に出して読んでおく。 事後：第 11 条、第 12 条、第 13 条、第 14 条第 1 項、第 25 条を中学生がわかる言葉で言い換えて条文を理解する。		
第 4 回	健康で文化的な生活とは：機能するセーフティネットへ		事前：生活困窮者を支える社会のセーフティネットについて概要を押さえておく。 事後：セーフティネットから零れ落ちる理由や原因を調べ、それを防ぐために必要な対応策について考察する。		
第 5 回	社会福祉の史的変遷：措置から権利擁護へ		事前：措置制度とサービス利用制度の特徴や違いを調べてノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域福祉計画と重層的支援体制整備事業の実施状況について調べてみる。		
第 6 回	保健医療と福祉の連携：Care by the Community の実現		事前：自分が居住する地域の特性や課題を調べノートにまとめる。 事後：居住市町村の地域包括ケアシステムの実施状況について調べてみる。		
第 7 回	これからの社会と福祉：地域共生社会の実現に向けて		事前：我が国の人口動態（年少人口、生産年齢人口、老年人口）の推移（実測値・推計値）を調べ、今後予想される日本社会の課題を調べノートにまとめる。 事後：第 1 講目でつけた色イメージを振り返		

		り、現段階での色イメージがどこからきて、なぜそのイメージなのか考察する。			
第 8 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	保健福祉行政論				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 授業でのワークシート 60%(DP1-2:到達目標 1・2 に対応)、提出課題レポート 40%(DP1-2:到達目標 3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第 1 講～第 6 講で実施するワークシートで書かれた感想等については必ず目を通し、その中で特に優れた視点や独創的な意見等及び質問への回答などをいくつか次回講義冒頭で紹介する。				
【テキスト】	なし。各授業時にレジュメ・関連資料配布し、参考資料を紹介する。				
【参考図書】	適宜紹介する				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	該当なし				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	保健福祉行政論		【科目英語名】	Health and Welfare Services	
【開講時期】	2 年前期／編入 4 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊東野 定津				
【担当教員】	＊東野 定津、＊木村 綾、＊藤本 健太郎、＊山本 智美＊天野 ゆかり				
【授業の概要】	保健医療福祉行政の目的、保健行政と地方自治制度・地方分権の意義や保健行政の役割と制度の仕組みを学ぶ。また、保健福祉計画の必要性を理解し、住民参画による策定のプロセス、推進と評価の方法について教授し、政策能力の向上をはかる。				
【キーワード】	保健福祉、保健行政、社会保障				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 ■DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 我が国における保健福祉政策の現状を把握し、課題を理解している。 2. 保健医療福祉行政のしくみを学び、看護職の役割を理解している。 3. 社会保障・社会福祉制度のしくみを学び、看護職の関わりを理解している。				
【授業方法】	教科書と必要に応じて配布する資料を用いた講義により進める。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	保健医療福祉行政の仕組みと変遷（東野定津）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 2 回	公共健康の概念と医療保険（東野定津）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 3 回	高齢者福祉と介護保険制度（東野定津）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 4 回	生活保護法、生活困窮者自立支援法（木村綾）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 5 回	児童家庭福祉と子供の健康（木村綾）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 6 回	雇用保険、労働者災害補償保険（木村綾）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 7 回	社会保障と少子高齢化対策（藤本健太郎）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 8 回	年金保険制度の持続と支援（藤本健太郎）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 9 回	公私の連携で社会的孤立解消へ（藤本健太郎）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 10 回	障害者福祉制度と地域活動（外部）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 11 回	日本におけるたばこ対策の動向について（外部）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 12 回	保健医療福祉政策の実践①（母子保健）（外部）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 13 回	保健医療福祉政策の実践②（歯科衛生）（山本智美）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 14 回	保健医療福祉政策の実践③（介護人材）（天野ゆかり）	事前： 配布資料の内容について通読 事後： 講義後内容についてノート等に整理			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績はレポート 100% で評価する（DP5:到達目標 1～3 に対応）。				
【フィードバックの方法】	講義内容、課題の質問等には、次回講義で説明、またはユニバ、メール等でコメントを行う。				

【テキスト】	資料は適宜用意し、配布する				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☒ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当教員においては、厚生労働行政に関わる実務経験を有しており、政策の企画立案はもとより行政業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	保健医療統計学		【科目英語名】	Health Statistics	
【開講時期】	1 年前期／編入 3 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員、* 濱井 妙子				
【授業の概要】	健康に関する現状の把握、保健・医療活動の立案・効果の評価への活用に向けて、保健・医療統計資料の意味を理解し、統計数値を読み取り、正しく解釈できるようになることを目的とする。死亡率、罹患率、有病率等の代表的な統計指標や、医療保障、国際的な指標、地域保健、環境保健、感染症の統計等、健康に影響する社会環境要因とその政策に関する統計を学ぶ。地域社会における人々の健康課題を、統計学の方法や、保健・医療統計等の資料を用い、総合的に把握するための基礎的な能力を身につける。				
【キーワード】	国勢調査、人口動態調査、疾病統計				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 統計調査の内容と、その調査から得られる統計指標を理解している。 2. 統計指標の意味を理解し、正しく解釈できる。 3. 調査データから統計指標を計算できる。				
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題を課す。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	保健統計の基礎① 統計指標（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 2 回	保健統計の基礎② 統計調査（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 3 回	人口動態統計① 国勢調査（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 4 回	人口動態統計② 人口ピラミッド（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 5 回	人口動態統計① 出生率、合計特殊出生率、その他（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 6 回	人口動態統計② 死亡率、年齢調整死亡率（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 7 回	人口動態統計③ 死因別死亡率（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 8 回	生命表、平均寿命、健康寿命（濱井妙子）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 9 回	疾病統計① 患者調査、推計患者数、受療率、平均在院日数、その他（予定教員）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 10 回	疾病統計② 国民生活基礎調査、有訴者率、通院者率、その他（予定教員）		事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出		
第 11 回	疾病統計③ 国民健康・栄養調査、その他の保健統計（予定教員）		事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義中に紹介した統計ウェブサイトを開覧すること		
第 12 回	疾病統計④ 感染症発症動向調査、食中毒統計、その他（予定教員）		事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：講義中に紹介した統計ウェブサイトを開覧すること		

		閲覧すること
第 13 回	疾病登録(がん疾患、循環器疾患、その他) (予定教員)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義中に紹介した統計ウェブサイト を閲覧すること
第 14 回	健康指標の国際比較 (予定教員)	事前:テキスト対応箇所を読んでくること 事後:講義中に紹介した統計ウェブサイト を閲覧すること
第 15 回	まとめ	事前:第 14 回までの講義の要点をまとめる 事後:講義で学んだ統計調査の最新の結 果を復習すること
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度	
【履修条件】	なし	
【関連科目】	なし	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100%で評価する(DP1-2:到達目標 1~3 に対応)。	
【フィードバックの 方法】	各回授業の冒頭で、リフレクションペーパーに記載された質問へのコメントと演習問題の解答を解説する。	
【テキスト】	国民衛生の動向(最新版)/厚生労働統計協会/厚生労働統計協会 (公衆衛生学・疫学でも使用)	
【参考図書】	保健統計・疫学(最新版)/福富和夫, 橋本修二/南山堂/978-4525053376 (疫学でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)/医療情報科学研究所(編)/MEDIC MEDIA/978-4896328585	
【アクティブラー ニングを促す方法】	□A ディスカッション/ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習/フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし	
【実務経験のある 教員による授業】	* がん疫学研究、フィールド研究、薬剤師の経験を生かして講義を実施する。	
【その他】	特になし	
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】 可 【交換留学生】 不可

【科目名】	情報処理演習		【科目英語名】	Seminar in Information Processing	
【開講時期】	1 年後期／編入 3 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	＊ 東野 定律				
【担当教員】	＊ 東野 定律、＊ 大久保 誠也				
【授業の概要】	看護研究を進めていく上で必要となるデータの理解、可視化はもとより、集計をはじめとする統計の手順について解説し、具体例を使用しながら説明を行う。				
【キーワード】	情報科学、統計処理、看護における情報				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 □DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 情報の概念、Word の使用方法を学び文章作成の知識を身につけている。 2. エクセルを用いてグラフや表作成方法を学び、使用方法に関する知識を身につけている。 3. データの理解、可視化、集計、統計処理の基本について理解している。				
【授業方法】	オンデマンド講義を中心とした Word や Excel といったソフトの使用方法是はじめとし、看護研究に必要とされるデータ処理、可視化、統計分析手法とその手順について、実際にコンピュータを使用しながら分析を行う。なお、講義した内容については、必ず演習問題を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	はじめに(計算機へのログイン)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 2 回	情報とは(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 3 回	文章作成の基礎(PC の基礎とメモ帳等による文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 4 回	文章作成の基礎(MS-Word による文章作成)(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 5 回	表計算の基礎(MS-Excel による表計算の基礎)(データの並び替え、データの集計:和、平均) (大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 6 回	表計算の基礎(MS-Word と MS-Excel を組み合わせた利用) データ表現(棒グラフ、折線グラフ等) (大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 7 回	中間まとめ(大久保誠也)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 8 回	基本統計量と統計的研究の予備知識、表形式のデータ説明、データ解析(データの種類の、分析ツール、図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 9 回	散布図・相関係数(データの図表化)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 10 回	回帰直線と近似曲線(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 11 回	正規分布(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 12 回	統計的推定(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 13 回	統計的検定(データの比較)(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 14 回	独立性の検定(東野定律)	事前: 配布資料の内容について通読 事後: 講義後内容についてノート等に整理			
第 15 回	まとめ				
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	特になし				
【関連科目】	特になし				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 成績は演習問題 40%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)と最終試験 60%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)の結果により総合的に評価を行う。				

【フィードバックの方法】	演習課題の質問等には、次週講義で説明、またはユニバ、メール等でコメントを行う。				
【テキスト】	必要に応じて、資料を配布する。石村 友二郎他「Excel で学ぶ医療・看護のための統計入門」東京図書*のデータを使用しますので必ず持参のこと				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	☐ A ディスカッション／ディベート ☐ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☒ 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 担当教員においては、統計処理に関わる実務経験を有しており、業務の経験を活かした講義内容を展開している。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	疫学	【科目英語名】	Epidemiology
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修
【授業形態】	講義	【単位数】	2 単位
【授業時間数】		【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 予定教員		
【担当教員】	* 予定教員、* 濱井 妙子		
【授業の概要】	効果的な保健・医療活動の実施のために、人間集団を対象に健康に関連する様々な事象の頻度と分布を観察、分析する方法を理解し、疫学的アプローチを保健・医療に関する課題解決に向けて活用できるようになることを目的とする。講義では、疫学の歴史的背景、疫学で用いられる指標、健康政策への活用、臨床疫学への応用までを、身近な健康に関する事例に基づいて学習する。		
【キーワード】	疾病頻度、因果関係、研究デザイン		
【DP との関連】	☐ DP1-1 ☒ DP1-2 ☐ DP2 ☐ DP3 ☐ DP4 ☐ DP5 ☐ DP6		
【到達目標】	1. 疫学の概念を理解できる。 2. 疾病頻度の指標を計算し、解釈できる。 3. 疾病と危険因子の関連の指標を計算し、解釈できる。 4. 疫学研究方法の違いや特徴を理解し、利点・欠点を理解できる。		
【授業方法】	講義形式で行うが、主体的な授業参加を促し、講義内容の習得状況を確認するため演習問題を課す。		
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】	
第 1 回	疫学の概念と歴史（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 2 回	疫学的因果論①疫学的病因論(疾病と曝露の関係、危険因子、多要因論など)（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 3 回	疫学的因果論②因果関係の立証(因果関係の判断基準、因果関係の立証を困難にする要因：誤差・偏り・交絡)(濱井妙子)	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 4 回	疫学指標①健康指標(罹患率、累積罹患割合、有病割合)（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 5 回	疫学指標②関連の指標(死亡率、年齢調整死亡率)（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 6 回	疫学指標③関連の指標(曝露効果：相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合)（濱井妙子）	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 7 回	スクリーニング検査の原理と方法(濱井妙子)	事前：授業資料・テキストを読んでくること 事後：リフレクションペーパー・演習問題解答の提出	
第 8 回	疫学研究法① 記述疫学、横断研究、生態学的研究（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：各研究手法の利点・欠点をまとめる	
第 9 回	疫学研究法② コホート研究（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：コホート研究の利点・欠点をまとめる	
第 10 回	疫学研究法③ 症例対照研究（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：症例対照研究の利点・欠点をまとめる	
第 11 回	疫学研究法④ 介入研究、臨床試験（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：介入研究の利点・欠点をまとめる	
第 12 回	疫学研究法⑤ メタアナリシス（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：メタアナリシスの利点・欠点をまとめる	
第 13 回	誤差、偏り、交絡の制御、ランダムサンプリング（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること 事後：誤差・偏りの種類をまとめる	
第 14 回	疫学の応用 活用事例（予定教員）	事前：テキスト対応箇所を読んでくること	

		事後: 身近な疫学活用事例を調べる			
第 15 回	まとめ	事前: 第 14 回までの要点をまとめる			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 60 分程度				
【履修条件】	2 年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目の内容を理解していること				
【関連科目】	2 年前期までの専門基礎分野・健康支援と社会保障制度系科目				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提である。 成績は定期試験 100% で評価する (DP1-2: 到達目標 1~4 に対応)。				
【フィードバックの方法】	各回授業の冒頭で、リフレクションペーパーに記載された質問へのコメントと演習問題の解答を解説する。				
【テキスト】	保健統計・疫学(最新版)／福富和夫, 橋本修二／南山堂／978-4525053376 (保健医療統計学でも使用)				
【参考図書】	国民衛生の動向(最新版)／厚生労働統計協会／厚生労働統計協会 (公衆衛生学・保健医療統計学でも使用) シンプル衛生・公衆衛生学(最新版)／辻一郎, 上島通浩／南江堂／ISBN: 978-4524203758 (公衆衛生学でも使用) 公衆衛生がみえる(最新版)／医療情報科学研究所(編)／MEDIC MEDIA／978-4896328585				
【アクティブラーニングを促す方法】	□A ディスカッション／ディベート □B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() ■F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊がん疫学研究、フィールド研究、看護師、薬剤師の経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

專 門 分 野

【科目名】	看護学概論		【科目英語名】	Introduction to Nursing	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 加藤京里				
【担当教員】	* 加藤京里、* 予定教員、* 菅原清子				
【授業の概要】	激しく変革する医療を冷静に見据え、的確な看護を診断し、適切な治療的看護介入と看護成果が求められている。そのために看護の歴史の変遷から過去・現在・未来を探求し、看護の科学化に貢献する主な看護理論から看護学の主要概念「人間」「環境」「健康」「看護」を学習し、基本的な看護の機能と役割を学ぶ。さらに看護に必要な倫理的側面と法的側面について考察し、看護実践者として意図的に実践するための論理的思考の基礎を培う。				
【キーワード】	看護の歴史、看護理論、看護の主要概念、看護の役割と機能、看護の専門性、看護倫理				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護の主要概念を説明できる。 2. 看護の歴史の変遷を説明できる。 3. 代表的な看護理論の概要を説明できる。 4. 看護専門職の役割、機能を説明できる。 5. 看護に関する法、専門職としての責務や倫理の基礎知識を説明できる。 6. 看護を意図的に実践するための論理的思考について説明できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	ガイダンス／看護とは(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 2 回	看護の対象の理解 1(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 3 回	看護の対象の理解 2(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 4 回	健康と生活(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 5 回	看護の提供のしくみ(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 6 回	医療安全(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 7 回	看護を実践するための思考過程(菅原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 8 回	まとめ 1(加藤京里)	事前:第 1 回目から第 6 回目までの復習を行う。			
第 9 回	看護理論:ナイチンゲール(予定教員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 10 回	看護理論:ヘンダーソン(予定教員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 11 回	看護の歴史:欧米(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 12 回	看護の歴史:日本(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 13 回	看護における法と倫理(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 14 回	看護と教育(加藤京里)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 15 回	まとめ 2(加藤京里)	事前:第 7 回目ならびに第 9 回目から第 14 回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				

【履修条件】	なし				
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰ				
【評価方法】	開講回数の2/3以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80% (DP1-2:到達目標 1～3に対応)、課題学習 20% (DP2:到達目標 1～3に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	事後課題について次の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論／茂野香おる他／医学書院／ ISBN978-4-260-03862-1 看護覚え書／フロレンス・ナイチンゲール、湯植ます・薄井坦子・小玉香津子他訳／現代社／ ISBN978-4-87474-142-9 看護の基本となるもの／バージニア・ヘンダーソン、湯植ます・小玉香津子訳／日本看護協会出版会／ ISBN978-4-8180-1996-6				
【参考図書】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ ISBN978-4-260-04211-6（第7回授業に使用）				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅰ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅰ	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊加藤京里				
【担当教員】	＊加藤京里				
【授業の概要】	看護技術は、看護の目的を達成するための方法であり、看護独自の知識体系に基づいて、対象の安全・安楽・自立・個別性を目指した意識的・意図的な行為である。本科目では、的確な判断に基づいた看護を実践するために、看護実践に共通して必要となる基本的な看護技術と生活過程を整える看護技術の目的や方法を理解することができる。				
【キーワード】	日常生活援助、環境調整、感染防止、安全、安楽				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護技術を適切に実践するための要素を説明できる。 2. 感染防止に関する原則および安全管理の要点について説明できる。 3. 環境調整、食事、排泄、清潔・衣生活、活動・休息に関する基本的看護技術の目的・方法・留意点を説明できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。事前に授業資料を配布するので事前・事後の学修に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】			【事前・事後課題】	
第 1 回	オリエンテーション(加藤京里) 看護技術とは(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 2 回	安全確保の技術(加藤京里) 感染防止の技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 3 回	環境調整技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 4 回	活動・休息援助技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 5 回	清潔・衣生活援助技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 6 回	食事援助技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 7 回	排泄援助技術(加藤京里)			事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。	
第 8 回	まとめ(加藤京里)			事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。	
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1～3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第 1 回から 7 回までの事後課題はユニパの課題管理に提出とし、次の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3				

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜紹介する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

5【科目名】	看護コミュニケーション論		【科目英語名】	Nursing Communication Theory	
【開講時期】	1 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊管原清子				
【担当教員】	＊管原清子、＊加藤京里、＊予定教員、＊浅原久恵、＊小原陽子、＊三沢萌伽				
【授業の概要】	援助的人間関係を体系づけるコミュニケーションの理論・考え方を学び、看護実践者に求められるコミュニケーションの基本的な知識を理解する。さらに看護に必要なコミュニケーション能力の向上を図る。				
【キーワード】	コミュニケーション 援助的人間関係				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践に求められるコミュニケーションの基本的な知識を説明できる。 2. 他者を理解し、援助的人間関係を構築するための方法を記述できる。 3. 自己のコミュニケーションについてリフレクションを行い、自己の課題を述べるができる。 4. 立場や意見の違いを尊重しながら自分の考えを他者に伝え、建設的に議論できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義・一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワークを行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	ガイダンス・コミュニケーションとは(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 2 回	看護・医療におけるコミュニケーションの意義・目的(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 3 回	コミュニケーションにおける基本的姿勢(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 4 回	自己理解と他者理解(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 5 回	看護におけるコミュニケーション(管原清子)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 6 回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 7 回	看護におけるコミュニケーション(担当者全員)	事前:教科書の該当箇所を確認してくる。 事後:当日指示する事後課題を提出する。			
第 8 回	まとめ(管原清子)	事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰ				
【評価方法】	開講回数 の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1～3 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1～3 に対応)				
【フィードバックの方法】	第 1 回から 7 回までの事後課題について、次回の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6				
【参考図書】	なし				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅱ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅱ	
【開講時期】	1 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	2 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	60 時間
【科目責任者】	* 加藤京里				
【担当教員】	* 加藤京里、* 予定教員、* 菅原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽				
【授業の概要】	看護の対象の健康課題を解決するために必要な看護技術の目的や方法を理解し、日常生活援助技術、呼吸・循環を整える技術、侵襲を伴う排泄ケアを習得する。 看護師役と患者役の演習体験を通して、看護実践に必要な基本的姿勢と態度を身につける。				
【キーワード】	日常生活援助、診療の補助				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 感染予防のための基本技術、ならびに日常生活援助技術(環境調整、食事援助、排泄援助、活動・休息援助、清潔・衣生活援助)を身につけることができる。 2. 呼吸・循環を整える技術、苦痛緩和・安楽確保に関する基本技術を実施できる。 3. 侵襲を伴う排泄ケア(一時的導尿、グリセリン浣腸)を実施できる。 4. 看護実践に必要な基本的姿勢と態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行い、適宜グループワークを行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。原則講義・演習の 1 週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	オリエンテーション(加藤京里)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第 2 回	ベッドメイキング:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 3 回	バイタルサインの観察 1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 4 回	バイタルサインの観察 2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 5 回	体位変換、移乗・移送 1:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第 6 回	体位変換、移乗・移送 2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 7 回	リネン交換・環境整備 1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 8 回	リネン交換・環境整備 2:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第 9 回	清潔・衣生活援助技術 1:(三沢萌伽)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 10 回	清潔・衣生活援助技術 2:(三沢萌伽)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 11 回	食事摂取の介助、口腔ケア 1:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。 事後:当日指示する課題学習を行う。			
第 12 回	食事摂取の介助、口腔ケア 2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 13 回	全身清拭・寝衣の交換・整容 1:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 14 回	全身清拭・寝衣の交換・整容 2:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 15 回	全身清拭・寝衣の交換・整容 3:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			
第 16 回	足浴:演習(担当者全員)	事前:演習要項の課題学習を行う。 事後:学修した技術の自己評価を行う。			

第 17 回	洗髪 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 18 回	洗髪 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 19 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 20 回	床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習項目の復習を行う。 事後: 学修した技術の復習を行う。
第 21 回	グリセリン浣腸: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 22 回	まとめ 1(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 23 回	無菌操作 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 24 回	無菌操作 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 25 回	創傷管理: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 26 回	酸素療法、吸引、吸入 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 27 回	酸素療法、吸引、吸入 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 28 回	一時的導尿 1: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 29 回	一時的導尿 2: 演習(担当者全員)	事前: 演習要項の課題学習を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 30 回	まとめ(担当者全員)	事前: 演習項目の復習を行う。 事後: 学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 80%(DP3: 到達目標 1~3 に対応)、課題学習 20%(DP2: 到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の自己評価とする。指定の用紙で提出し、次回に授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3 看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6	
【参考図書】	適宜紹介する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅲ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅲ	
【開講時期】	1 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員				
【授業の概要】	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱの既習内容をふまえて、看護の基本技術であるバイタルサインの観察、感染防止の技術、生体の機能障害の回復・緩和に関わる看護技術(呼吸・循環・体温を整える技術)を学修する。また、侵襲を伴う排泄ケアについて学修する。				
【キーワード】	バイタルサイン、感染防止、侵襲を伴う排泄ケア				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践を適切に行うために必要な観察技術(バイタルサインの観察)を説明できる。 2. 侵襲を伴う排泄ケア(導尿、浣腸)の適応と実施時の留意点を説明できる。 3. 感染防止に関わる基本的な知識・技術(無菌操作)を説明できる。 4. 酸素吸入療法、吸引、電法の適応と実施時の留意点を説明できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義形式で行い、適宜グループワークを行う。原則講義の1 週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	バイタルサインの観察 1(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 2 回	バイタルサインの観察 2(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 3 回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。基礎看護技術Ⅰの「感染防止の技術」の復習を行う。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第 4 回	侵襲を伴う排泄ケアの技術(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第 5 回	感染防止の技術(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第 6 回	呼吸を整える技術(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第 7 回	循環・体温を整える技術(予定教員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を行う。			
第 8 回	まとめ(予定教員)	事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	1 年次前期に開講された専門分野の科目を履修していること。				
【関連科目】	基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 定期試験 80%(DP1-2:到達目標 1～4 に対応)、課題学習 20%(DP2:到達目標 1～4 に対応)				
【フィードバックの方法】	第1回から 7 回までの事後課題はユニバの課題管理に提出とし、翌週の講義時にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野Ⅰ・基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ／任和子他／医学書院／ISBN978-4-260-04212-3				

	看護がみえる 1 基礎看護技術／藤本真記子他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術／近藤一郎他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-734-2 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント／熊谷たまき他／メディック・メディア／ISBN978-4-89632-781-6				
【参考図書】	適宜指示する。				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義を実施する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	看護アセスメント演習		【科目英語名】	Nursing Health Assessment	
【開講時期】	2 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 予定教員				
【担当教員】	* 予定教員、* 加藤京里、* 菅原清子、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽、* 山内豊明(非常勤)、* 永谷幸子(非常勤)				
【授業の概要】	看護の対象となる人間を身体的側面からアセスメントするために必要となるフィジカルイグザミネーションの基本的な知識と技術を習得する。				
【キーワード】	ヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーション				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2. フィジカルイグザミネーションに必要な基本的な知識と技術を学び、実施できる。 3. フィジカルイグザミネーションによって得られた情報をアセスメントし、その内容を正しい用語を用いて記録できる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行う。演習は学生同士やモデル人形・模型等を用いて行う。事前に演習要項を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】		【事前・事後課題】		
第 1 回	ガイダンス・看護アセスメント概論：講義(予定教員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 2 回	フィジカルアセスメント概論演習(担当者全員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。		
第 3 回	呼吸系フィジカルアセスメント：講義(予定教員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 4 回	呼吸系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。		
第 5 回	フィジカルアセスメントの振り返り：講義(予定教員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 6 回	循環系フィジカルアセスメント：講義(予定教員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 7 回	循環系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。		
第 8 回	運動系フィジカルアセスメント：講義(三沢萌伽)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 9 回	運動系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。		
第 10 回	消化系フィジカルアセスメント：講義(予定教員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。 事後：指定課題の課題学習を行う。		
第 11 回	消化系フィジカルアセスメント：演習(担当者全員)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後：演習要項の課題学習を行う。		
第 12 回	感覚系・神経系フィジカルアセスメント講義：(山内豊明)		事前：教科書の該当部分を確認してくる。指定課題の課題学習を行う。		

		事後:指定課題の課題学習を行う。
第 13 回	感覚系・神経系フィジカルアセスメント:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。
第 14 回	感覚系・神経系フィジカルアセスメント:演習(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。指定課題、演習要項の課題学習を行う。 事後:演習要項の課題学習を行う。
第 15 回	まとめ(予定教員)	事前:全単元の復習を行う。 事後:学修内容の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	1 年次に開講された専門基礎分野および専門分野 I を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術 I、基礎看護技術 II、基礎看護技術 III	
【評価方法】	開講回数 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 60%(DP3:到達目標 1~3 に対応)、課題学習 40%(DP2:到達目標 1~3 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の記録用紙へ記載し当日提出する。授業内の感想や質問はユニバを通して入力し、次回の講義時にフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香 他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 看護がみえる 3 フィジカルアセスメント / 熊谷たまき 他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-781-6	
【参考図書】	適宜指示する。	
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可
		【交換留学生】 不可

【科目名】	看護アセスメント方法論		【科目英語名】	Nursing Assessment Methodology	
【開講時期】	2 年前期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	＊ 菅原清子				
【担当教員】	＊ 菅原清子、＊ 加藤京里、＊ 予定教員、＊ 浅原久恵、＊ 小原陽子、＊ 三沢萌伽				
【授業の概要】	事例を用いて看護過程を展開することで、その人の健康と生活上の問題(看護問題)を明確にし、解決するための技術と思考過程を学修する。				
【キーワード】	看護過程 看護診断 クリティカルシンキング ゴードンの機能的健康パターン				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護実践のための思考過程および看護過程の構成要素を説明できる。 2. 事例を用いて看護に必要な情報の収集・分析、対象が抱える看護問題の明確化、優先順位の決定、看護問題を解決するために必要となる具体的な計画の立案について、論理的に展開できる。 3. 立案した計画の実施、評価、修正の方法について説明できる。				
【授業方法】	初回にガイダンスを行う。授業は講義および一部実践形式で行い、適宜ディスカッション、グループワーク、発表を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	看護過程講義 1(看護過程とは) (菅原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 2 回	看護過程講義 2(情報収集・アセスメント・看護問題の明確化) (菅原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 3 回	看護過程講義 3(計画立案、実施、評価) (菅原清子)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 4 回	事例展開 1(個人及びグループワーク) (担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 5 回	事例展開 2(個人及びグループワーク) (担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 6 回	事例展開 3(個人及びグループワーク) (担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 7 回	発表(担当者全員)	事前:教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後:当日指示する課題を提出する。			
第 8 回	まとめ(菅原清子)	事前:第 1 回目から第 7 回目までの復習を行う。			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	1 年次に開講された専門基礎分野および専門分野Ⅰを履修していること。				
【関連科目】	看護学概論、看護コミュニケーション論、看護アセスメント演習、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、基礎看護技術Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 課題学習 100%(DP2 80%、DP3 20%:到達目標 1～3 に対応)で評価する。				
【フィードバックの方法】	課題学習については、コメントを記入して返却する。 授業内容に関する質問や意見については、授業内で学生全員にフィードバックする。				
【テキスト】	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ／茂野香おる他／医学書院／ISBN978-4-260-04211-6 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン／マージョリー・ゴードン 他／照林社／ISBN978-4-7965-2124-6 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023 原書第 12 版／T. ヘザー・ハードマン他／医学書院／				

	ISBN978-4-260-04628-2				
【参考図書】	実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド 第2版／任和子／照林社／ISBN978-4-7965-2549-7				
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション／ディベート ☒ B グループワーク ☒ C プレゼンテーション ☐ D 実習／フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	＊看護師の実務経験を持つ教員が、看護学に関する基本的知識を講義する。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	不可

【科目名】	基礎看護技術Ⅳ		【科目英語名】	Basic Nursing Skills Ⅳ	
【開講時期】	2 年後期	【必修区分】	必修	【単位数】	1 単位
【授業形態】	演習			【授業時間数】	30 時間
【科目責任者】	* 菅原清子				
【担当教員】	* 菅原清子、* 加藤京里、* 予定教員、* 浅原久恵、* 小原陽子、* 三沢萌伽				
【授業の概要】	与薬に関する知識、非経口的栄養摂取の知識、検査に関する知識を学修し、注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血を安全に実施する看護技術をモデル人形を用いて習得する。				
【キーワード】	注射法、経鼻経管栄養法、静脈血採血				
【DP との関連】	□DP1-1 □DP1-2 ■DP2 ■DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 無菌操作の基礎知識を踏まえた上で滅菌物の取り扱いができる。 2. 静脈血採血の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 3. 注射法の技術を注射モデルを用いて安全に実施できる。 4. 創傷の管理および瘻法を安全に実施できる。 5. 経鼻経管栄養法の技術をモデル人形を用いて安全に実施できる。 6. 演習を通して、看護師として求められる態度を養うことができる。				
【授業方法】	初回にオリエンテーションを行う。授業は講義および演習形式で行い、適宜グループワークを行う。演習は学生同士やモデル等を用いて行う。原則、講義・演習の 1 週間前に授業資料を配布するので事前・事後の学習に活用する。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	ガイダンス(菅原清子) 検査に伴う技術 1: 講義(三沢萌伽)	事前: 教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後: 当日指示する課題学習を行う。			
第 2 回	検査に伴う技術 2: 講義(三沢萌伽)	事前: 教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後: 当日指示する課題学習を行う。			
第 3 回	静脈血採血: 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 4 回	静脈血採血: 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 5 回	与薬の技術 1: 講義(菅原清子)	事前: 教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後: 当日指示する課題学習を行う。			
第 6 回	与薬の技術 2: 講義(菅原清子)	事前: 教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後: 当日指示する課題学習を行う。			
第 7 回	注射 1(薬物の吸い上げ、皮下注射): 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 8 回	注射 2(筋肉内注射): 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 9 回	注射 3(静脈内注射): 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 10 回	注射 4(静脈内注射): 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナースング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。			
第 11 回	非経口的栄養摂取の援助: 講義(菅原清子)	事前: 教科書の該当部分を確認してくる。配布資料の課題学習を行う。 事後: 当日指示する課題学習を行う。			

第 12 回	創傷管理・瘻法: 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 13 回	経鼻経管栄養法: 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 14 回	経鼻経管栄養法: 演習(担当者全員)	事前: 配布した演習要項の課題学習および、ナーシング・スキルの視聴を行う。 事後: 学修した技術の自己評価を行う。
第 15 回	まとめ(担当者全員)	事前: 演習項目の復習を行う。 事後: 学修した技術の復習を行う。
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度	
【履修条件】	2 年次前期までに開講された専門基礎分野および専門分野 I を履修していること。	
【関連科目】	基礎看護技術 I、基礎看護技術 II、基礎看護技術 III	
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席が単位認定の前提である。 技術試験 70% (DP3: 到達目標 1~4 に対応)、課題学習 30% (DP2: 到達目標 1~4 に対応)	
【フィードバックの方法】	演習の事後課題は、学修した技術の自己評価とする。次回に指定の用紙で提出とし、次々回に授業内でフィードバックする。	
【テキスト】	系統看護学講座・専門分野 I・基礎看護学[2]基礎看護技術 I / 茂野香おる他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04211-6 系統看護学講座 専門分野 I・基礎看護学[3]基礎看護技術 II / 任和子他 / 医学書院 / ISBN978-4-260-04212-3 看護がみえる 1 基礎看護技術 / 藤本真記子他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-735-5 看護がみえる 2 臨床看護技術 / 近藤一郎他 / メディック・メディア / ISBN978-4-89632-734-2	
【参考図書】	適宜指示する	
【アクティブラーニングを促す方法】	☒ A ディスカッション / ディベート ☒ B グループワーク ☐ C プレゼンテーション ☐ D 実習 / フィールドワーク ☐ E その他() ☐ F 該当なし	
【実務経験のある教員による授業】	* 看護師の実務経験のある教員が、臨床での経験を生かして講義・演習を実施する。	
【その他】	欠席する場合は必ず科目責任者にメールする。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可 【交換留学生】 不可

【科目名】	看護と倫理		【科目英語名】	Nursing Ethics	
【開講時期】	2 年後期/編入 4 年後期	【必修区分】	必修/選択	【単位数】	1 単位
【授業形態】	講義・演習			【授業時間数】	15 時間
【科目責任者】	*山下早苗				
【担当教員】	*山下早苗				
【授業の概要】	社会の変化により人々の価値観は多様化している。そのため、看護職は日常の看護実践に伴う倫理的感受性を高め、倫理的に思考し行動する必要がある。本科目では、看護倫理の歴史の変遷を学び、看護倫理とは何かを考え、看護倫理における基準や概念など倫理的知識を持った思考力を養う。				
【キーワード】	道徳、看護倫理、道徳的感受性、道徳的知識、道徳的思考				
【DP との関連】	□DP1-1 ■DP1-2 ■DP2 □DP3 □DP4 □DP5 □DP6				
【到達目標】	1. 看護倫理に関する知識を有している。 2. 看護専門職としての役割責任を考えることができる。 3. 倫理的課題について倫理的知識を持って思考できる。				
【授業方法】	教科書・配布資料を活用し授業を進める。また、毎回の授業で課題に対する討議を行う。				
【授業計画】	【授業内容】	【事前・事後課題】			
第 1 回	倫理と道徳	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 2 回	倫理学の分類と看護倫理の歴史の変遷	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 3 回	看護倫理に関係する重要な概念:和、コンパッション、ケアリング、専門職	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 4 回	看護専門職としての役割責任:アドボカシー、協働、倫理綱領	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 5 回	倫理的能力のある看護師とアサーション	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 6 回	日常の看護実践における倫理的課題:パターナリズムとインフォームドコンセント、プライバシーと守秘義務	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:学習内容の整理			
第 7 回	看護研究における倫理	事前:授業内容に該当する教科書予習 事後:課題レポート			
第 8 回	まとめ	第 1～7 回までの学習内容の整理			
【準備学習時間】	各回の標準学習時間 90 分程度				
【履修条件】	なし				
【関連科目】	専門領域の概論科目				
【評価方法】	開講回数の 2/3 以上の出席を単位認定の前提とする。 課題レポート 70%(DP2:到達目標 2・3 に対応)、小テスト 30%(DP1-2:到達目標 1 に対応) 課題レポートの評価基準と小テストの時期については初回で説明する。				
【フィードバックの方法】	・リアクションペーパーに記載した「授業の感想と質問」のフィードバックは、授業時に行う。 ・小テストの結果は授業時に開示する。				
【テキスト】	看護倫理 よい看護師への道しるべ 改訂第 3 版／編集 小西恵美子／南江堂／ISBN:978-4-524-22508-8				
【参考図書】	適宜紹介				
【アクティブラーニングを促す方法】	■A ディスカッション／ディベート ■B グループワーク □C プレゼンテーション □D 実習／フィールドワーク □E その他() □F 該当なし				
【実務経験のある教員による授業】	*看護師として実務経験がある教員が、日常の看護実践における倫理的課題の経験を生かして講義を行う。				
【その他】	特になし				
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	不可	【交換留学生】	可(但し日本語)